Ⅲ　調査結果

①　第１回アンケートの結果

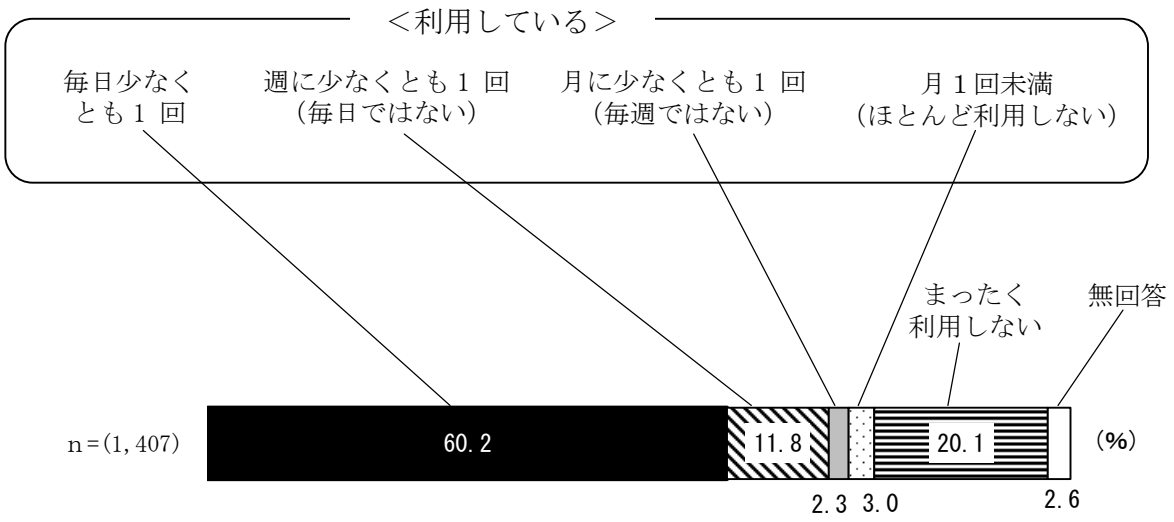
１　情報化の動向について

１－１　インターネットの利用状況

◎「毎日少なくとも１回」が60.2%

問１　あなたは、インターネットをどの程度利用していますか。（個人的な利用、仕事上の利用等あらゆる目的での利用を含みます。）（○は１つだけ）

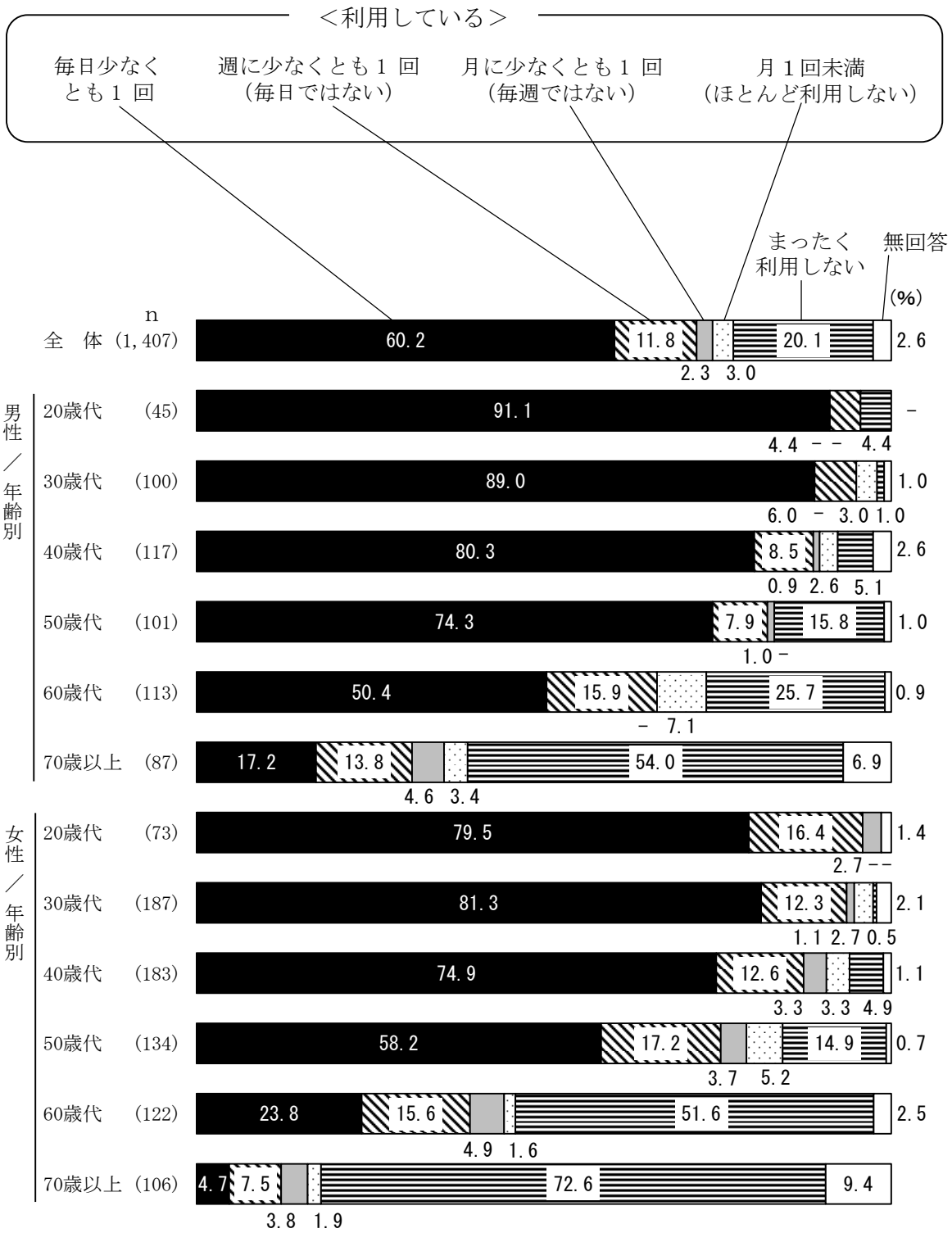
図表１－１　インターネットの利用状況



インターネットの利用状況は、「毎日少なくとも１回」（60.2%）、「週に少なくとも１回（毎日ではない）」（11.8%）、「月に少なくとも１回（毎週ではない）」（2.3%）、「月１回未満（ほとんど利用しない）」（3.0%）を合わせた＜利用している＞が77.3%と多くなっている。（図表１－１）

（第１回アンケート）

図表１－２　インターネットの利用状況（性／年齢別）



性／年齢別では、男女ともに 20 歳代から 50 歳代にかけて、インターネットの利用者が多い。50 歳代から男女差が大きくなる傾向があり、「毎日少なくとも１回」では、男性が女性より 50 歳代で 16.1 ポイント、60 歳代で 26.6 ポイント、70 歳以上で 12.5 ポイント多くなっている。（図表１－２）

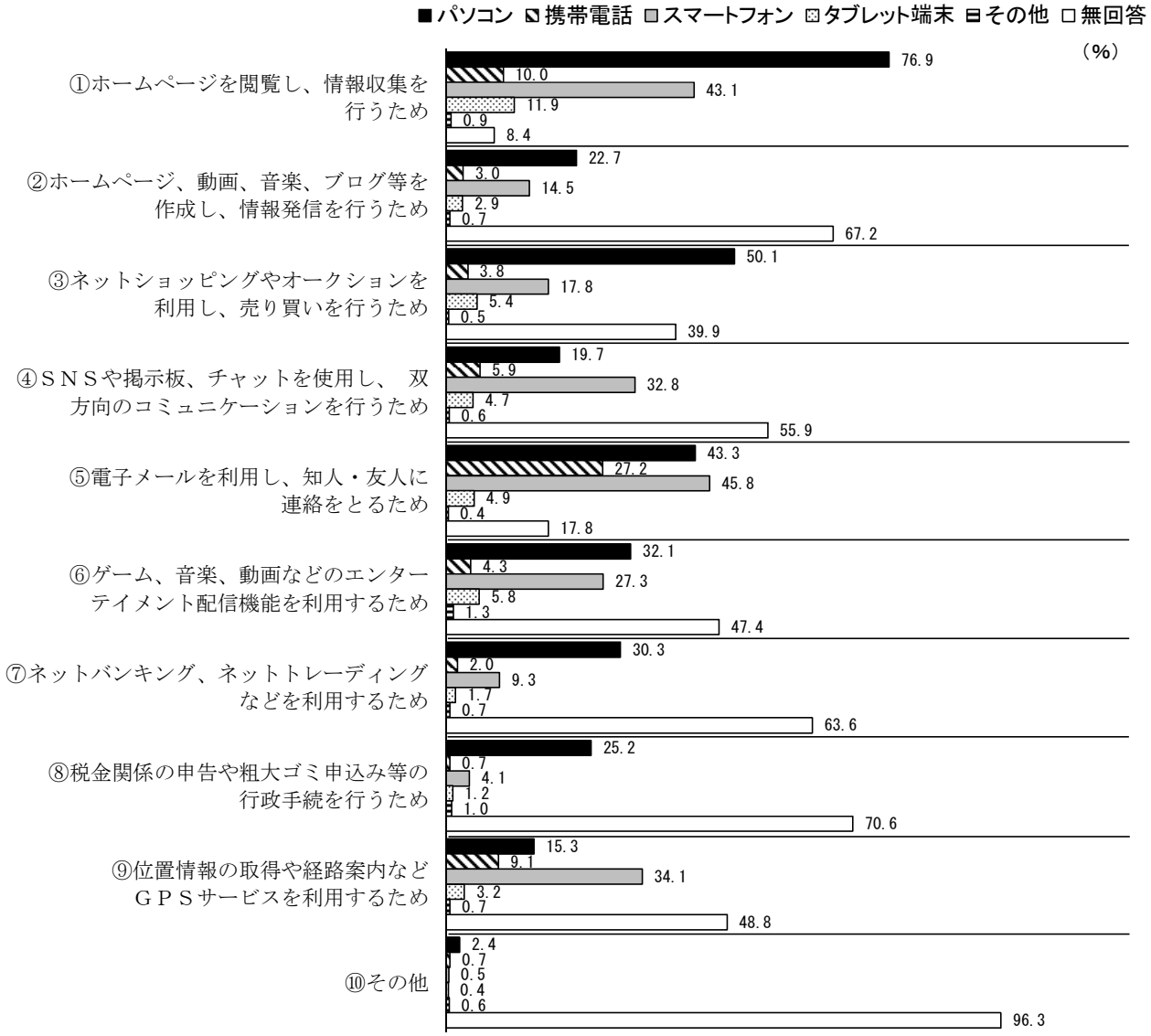
１－２　インターネットの利用目的と使用機器

◎「ホームページを閲覧し、情報収集を行うため」に「パソコン」を使用するが 76.9%

問２　（問１で「１」から「４」のいずれかに回答した方にうかがいます。）
あなたがインターネットを利用する目的と、そのときに使用する機器は何ですか。
それぞれについて、あてはまるものをお選びください。（あてはまるもの全てに○）

図表１－３　インターネットの利用目的と使用機器

（複数回答）ｎ＝（1,087）



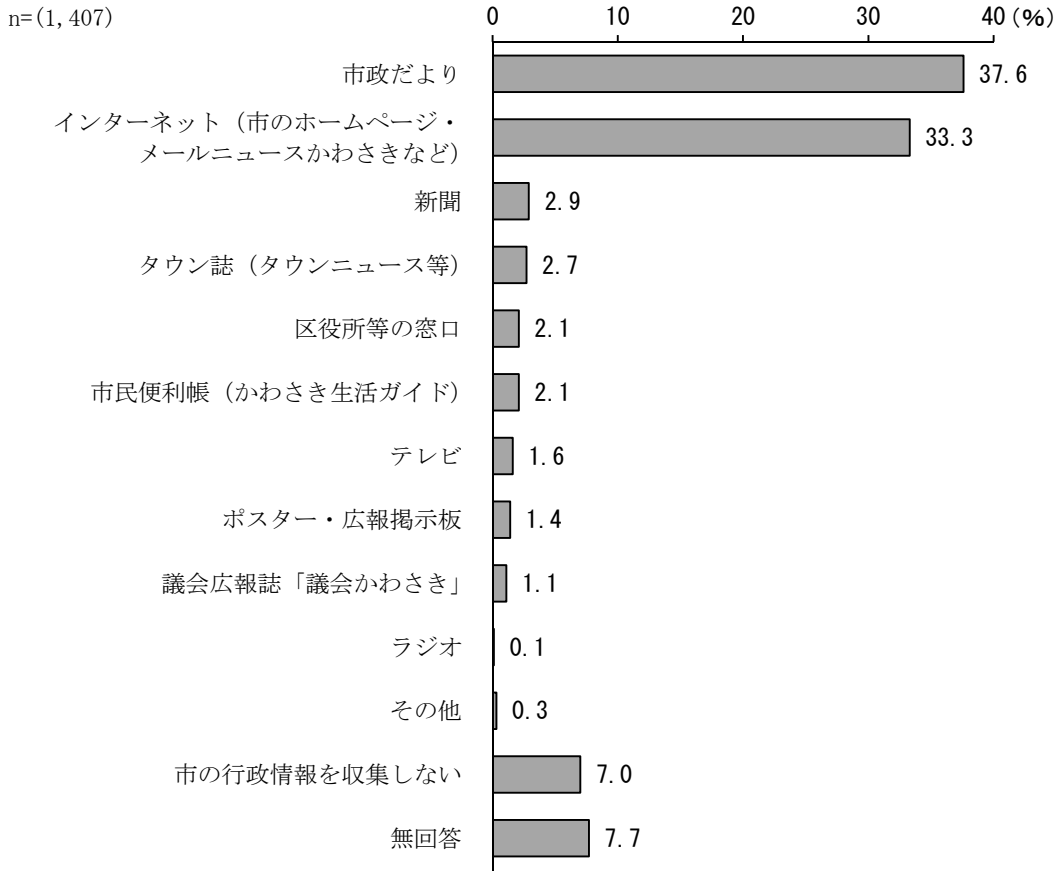
インターネットの利用目的と使用機器を見ると、利用目的に関わらず全体的に「パソコン」を利用する人が多くなっているが、「ＳＮＳや掲示板、チャットを使用し、双方向のコミュニケーションを行うため」、「電子メールを利用し、知人・友人に連絡をとるため」、「位置情報の取得や経路案内などＧＰＳサービスを利用するため」の利用は、スマートフォンが最も多くなっている。（図表１－３）

１－３　川崎市の行政情報の入手方法

◎市の行政情報は「市政だより」からが37.6%

問３　あなたが市の行政情報を収集する際に最も利用するものは何ですか。（○は１つだけ）

図表１－４　川崎市の行政情報の入手方法



川崎市の行政情報を収集する際に利用されているものは、「市政だより」(37.6%) が最も多く、次いで、「インターネット（市のホームページ・メールニュースかわさきなど)」(33.3%) の順となっている。（図表１－４）

図表１－５　川崎市の行政情報の入手方法（性／年齢別）

（%）

	n	インターネット(市のホームページ・メールニュースかわさきなど)	市政だより	区役所等の窓口	ポスター・広報掲示板	テレビ	ラジオ	新聞	議会広報誌「議会かわさき」	市民便利帳(かわさき生活ガイド)	タウン誌(タウンニュース等)	その他	市の行政情報を収集しない	無回答
合計	1,407	33.3	37.6	2.1	1.4	1.6	0.1	2.9	1.1	2.1	2.7	0.3	7.0	7.7
男性20歳代	45	51.1	6.7	2.2	2.2	－	－	6.7	－	－	2.2	－	24.4	4.4
男性30歳代	100	59.0	16.0	1.0	3.0	2.0	－	1.0	－	－	3.0	－	10.0	5.0
男性40歳代	117	47.0	26.5	3.4	1.7	－	－	1.7	0.9	0.9	1.7	0.9	10.3	5.1
男性50歳代	101	44.6	18.8	3.0	1.0	2.0	1.0	5.9	1.0	4.0	4.0	1.0	7.9	5.9
男性60歳代	113	21.2	43.4	4.4	－	0.9	－	12.4	0.9	1.8	4.4	－	3.5	7.1
男性70歳以上	87	5.7	65.5	2.3	2.3	5.7	－	5.7	－	2.3	1.1	－	2.3	6.9
女性20歳代	73	60.3	2.7	2.7	1.4	2.7	－	1.4	－	1.4	4.1	－	19.2	4.1
女性30歳代	187	51.9	24.6	0.5	1.6	0.5	0.5	－	－	－	3.2	－	7.0	10.2
女性40歳代	183	40.4	36.6	1.6	1.1	－	－	0.5	3.3	1.6	3.3	－	3.8	7.7
女性50歳代	134	19.4	45.5	3.0	－	1.5	－	1.5	3.7	6.0	1.5	－	9.0	9.0
女性60歳代	122	4.9	76.2	1.6	0.8	2.5	－	0.8	0.8	3.3	0.8	0.8	－	7.4
女性70歳以上	106	0.9	67.0	1.9	2.8	3.8	－	2.8	0.9	1.9	3.8	－	2.8	11.3

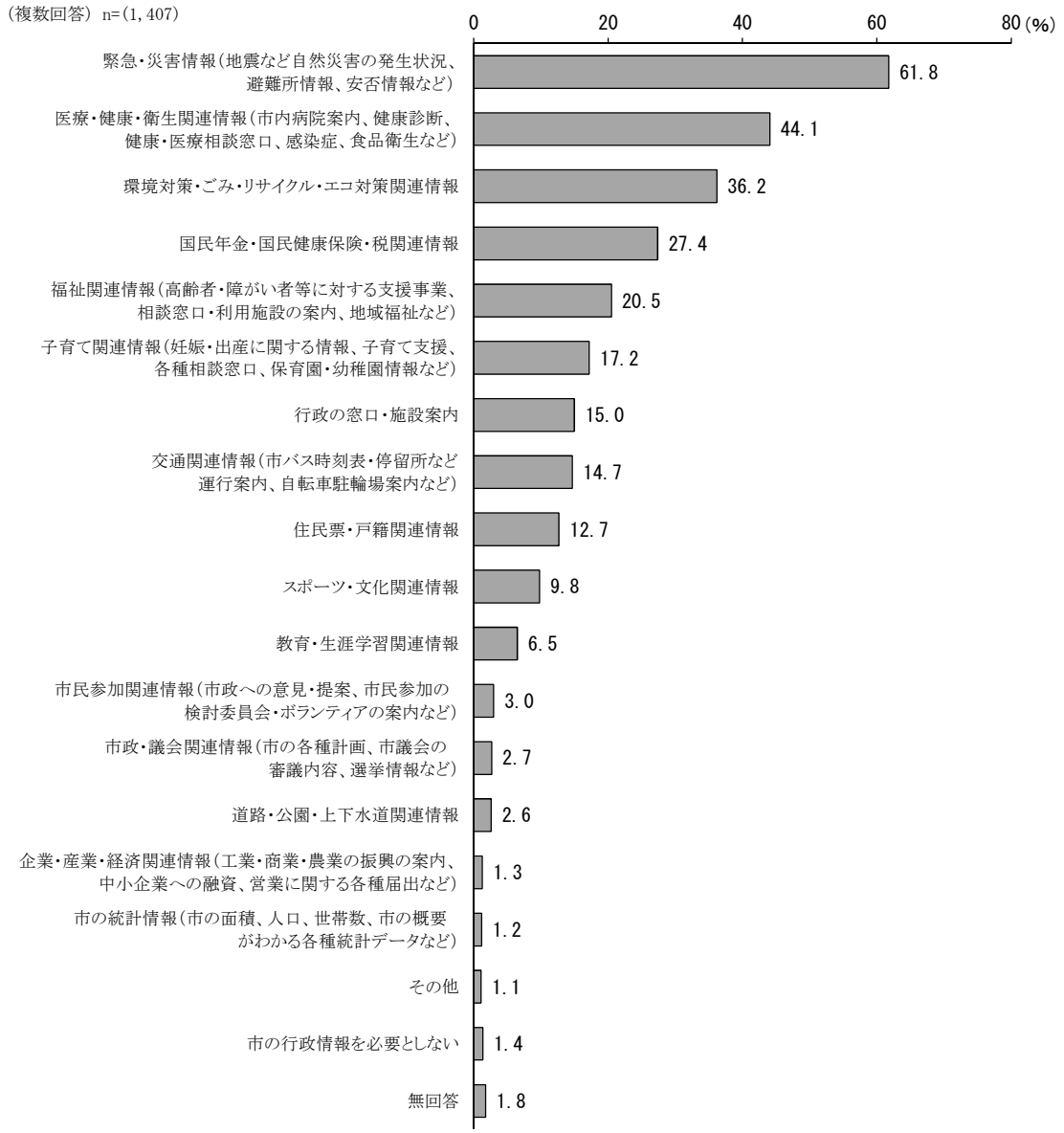
性／年齢別では、男性は20歳代から50歳代までは「インターネット（市のホームページ・メールニュースかわさきなど)」の利用が最も多く、60歳代以上では「市政だより」の利用が最も多い。女性では、20歳代から40歳代までは、「インターネット（市のホームページ・メールニュースかわさきなど)」の利用が最も多く、50歳代以上では、「市政だより」の利用が最も多くなっている。（図表１－５）

１－４　必要としている行政情報

◎必要な行政情報は「緊急・災害情報（地震など自然災害の発生状況、避難所情報、安否情報など）」が61.8%

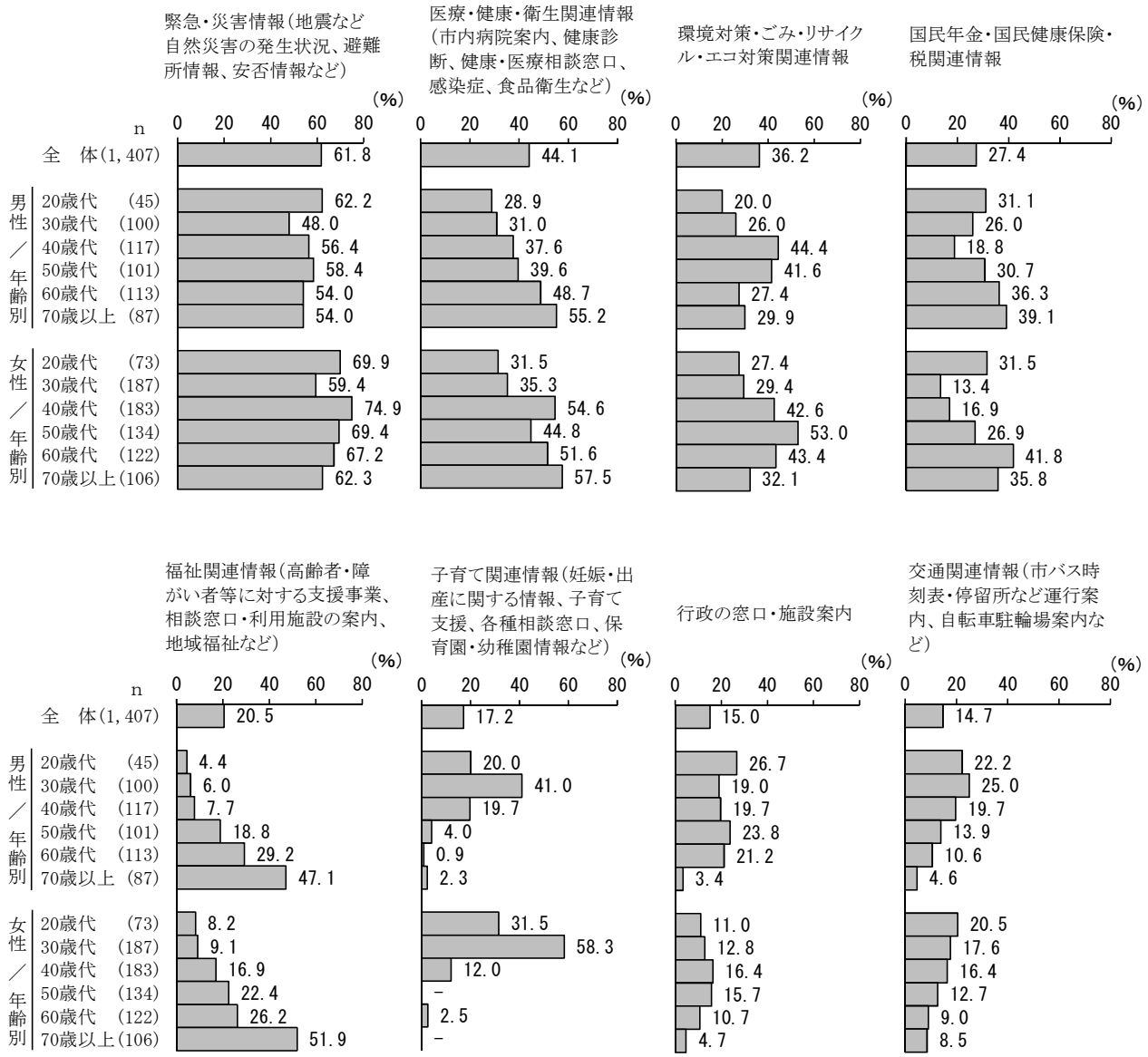
問４　あなたが必要としている行政情報は何ですか。必要だと思うものを上位３つまでお選びください。（あてはまるもの３つまでに○）

図表１－６　必要としている行政情報



必要としている行政情報は、「緊急・災害情報（地震など自然災害の発生状況、避難所情報、安否情報など）」が61.8%と最も多くなっている。次いで、「医療・健康・衛生関連情報（市内病院案内、健康診断、健康・医療相談窓口、感染症、食品衛生など）」（44.1%）、「環境対策・ごみ・リサイクル・エコ対策関連情報」（36.2%）の順となっている。（図表１－６）

図表１－７　必要としている行政情報（性／年齢別、上位８項目）



性／年齢別では、「福祉関連情報（高齢者・障がい者等に対する支援事業、相談窓口・利用施設の案内、地域福祉など）」については、男女ともに、年代が上がるごとに多くなっている。

「子育て関連情報（妊娠・出産に関する情報、子育て支援、各種相談窓口、保育園・幼稚園情報など）」については、男女ともに 20 歳代から 40 歳代が多くなっている。（図表１－７）

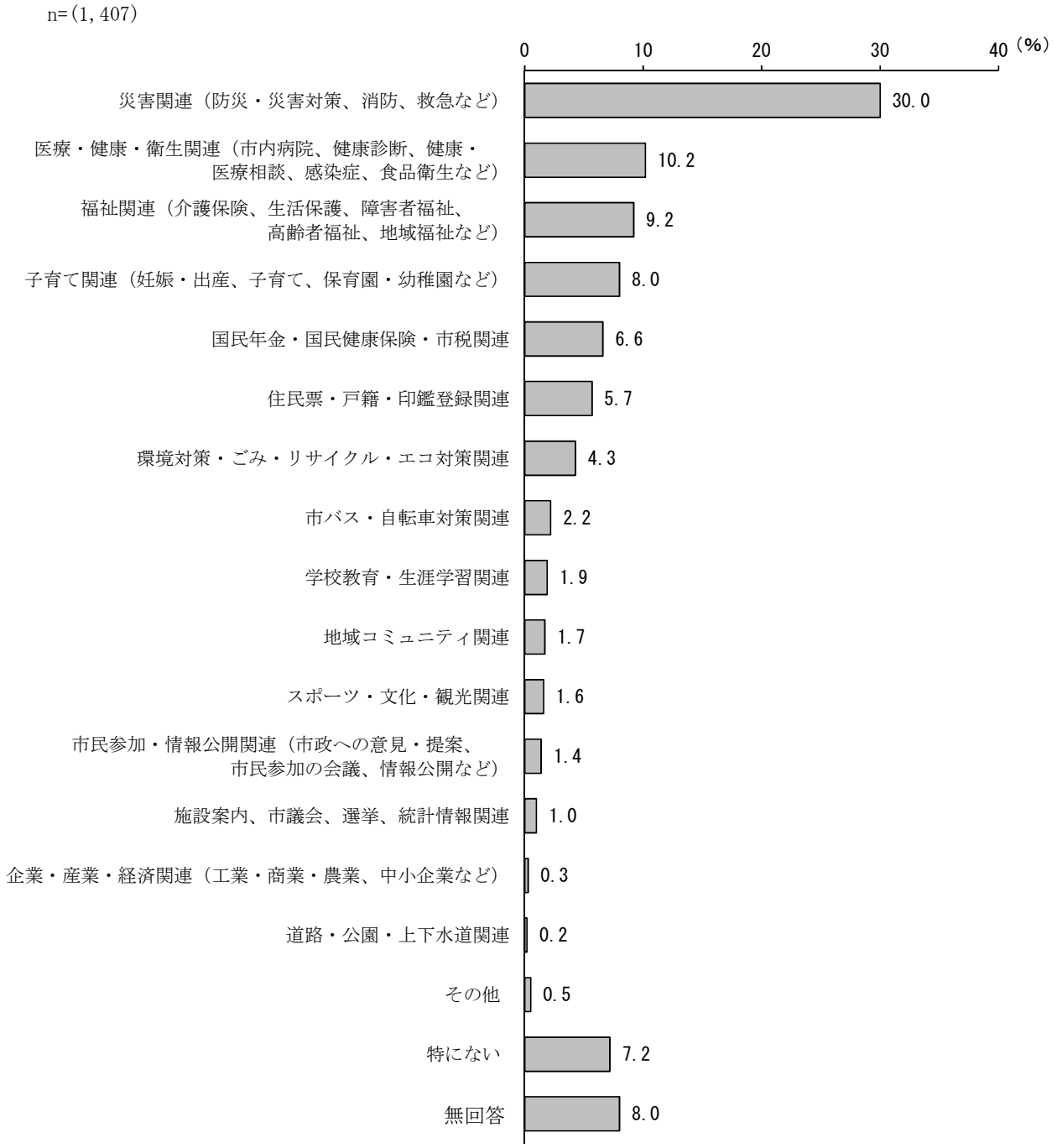
（第１回アンケート）

１－５　情報化を進めてほしい分野

◎「災害関連（防災・災害対策、消防、救急など）」分野が30.0%

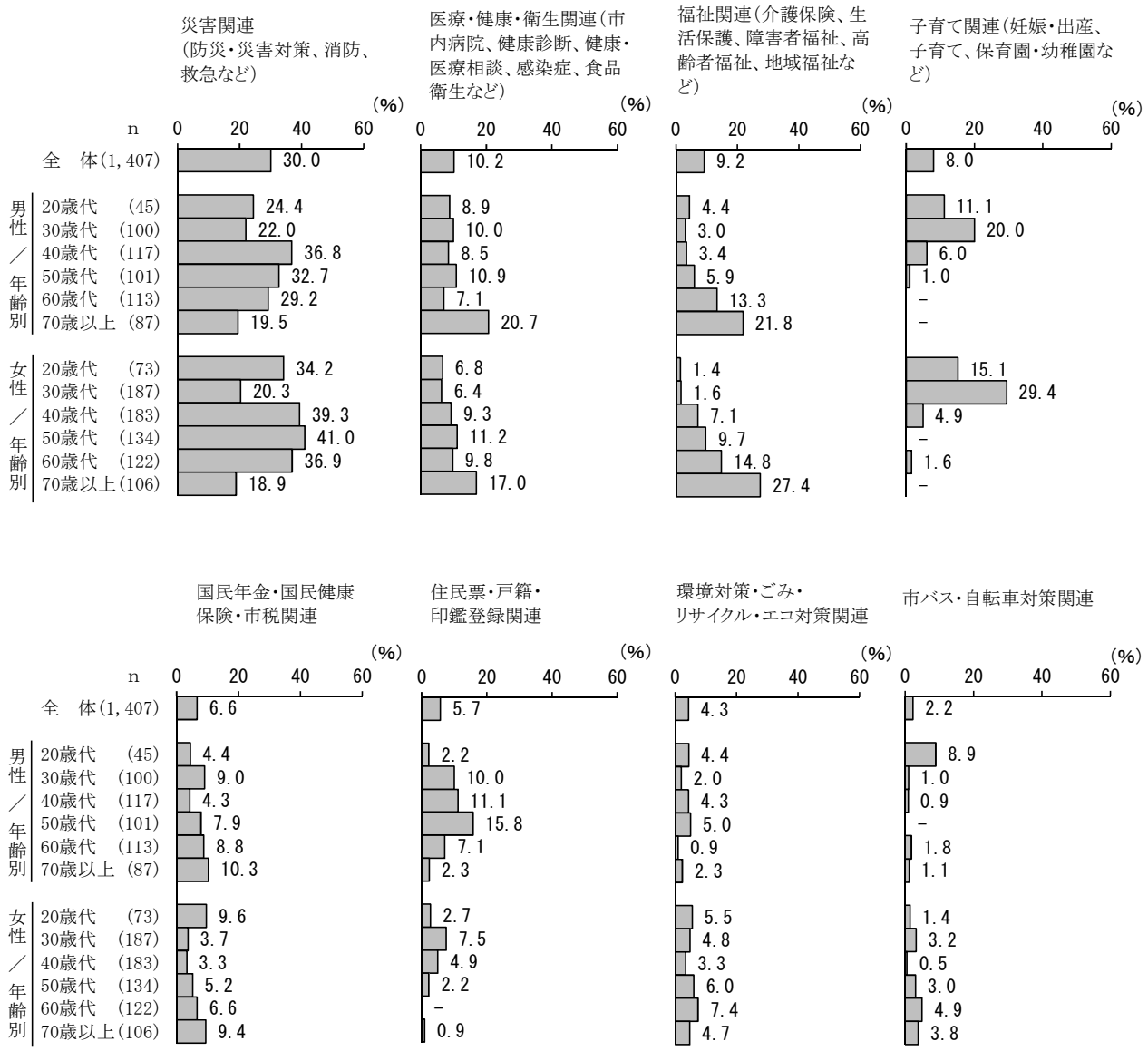
問５　あなたが最も情報化を進めてほしいと思う分野は何ですか（○は１つだけ）

図表１－８　情報化を進めてほしい分野



情報化を進めてほしい分野は、「災害関連（防災・災害対策、消防、救急など）」が 30.0%と、他分野に比べて非常に多くなっている。（図表１－８）

図表１－９　情報化を進めてほしい分野（性／年齢別、上位８項目）



性／年齢別では、「福祉関連（介護保険、生活保護、障害者福祉、高齢者福祉、地域福祉など）」は、男女ともに年代が上がるほど多くなる傾向にある。

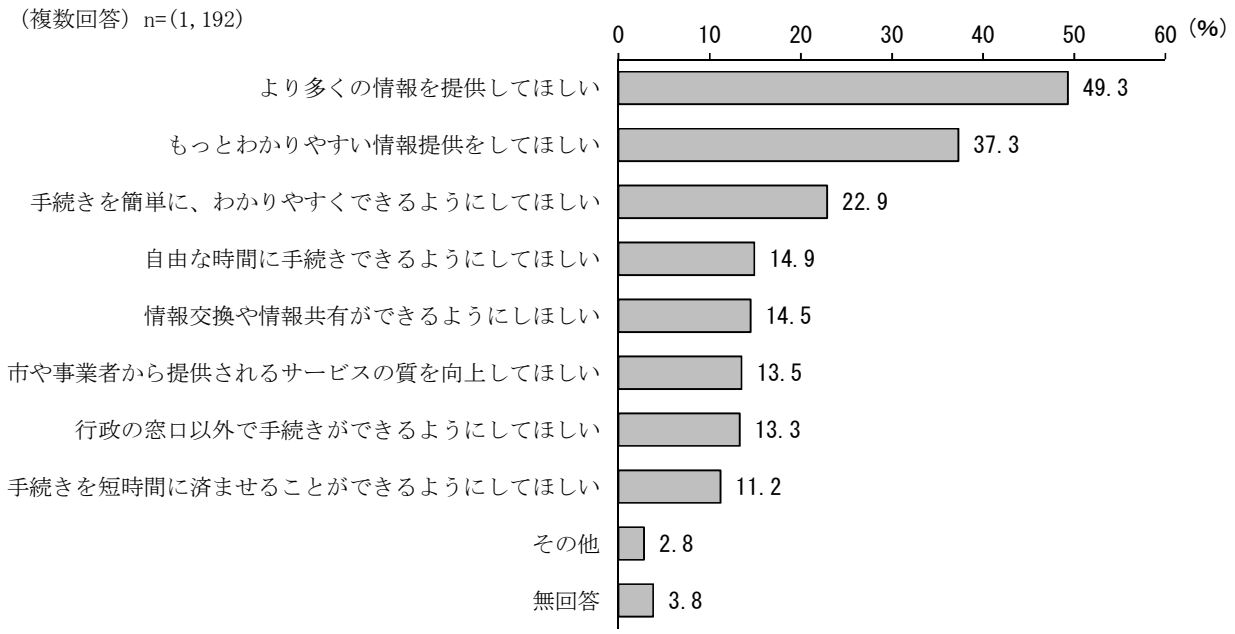
「子育て関連（妊娠・出産、子育て、保育園・幼稚園など）」については、男女ともに 20 歳代から 40 歳代で多く、必要とする行政情報と同様な傾向にある。（図表１－９）

１－６　情報化の進展を望むこと

◎「より多くの情報を提供してほしい」が 49.3%

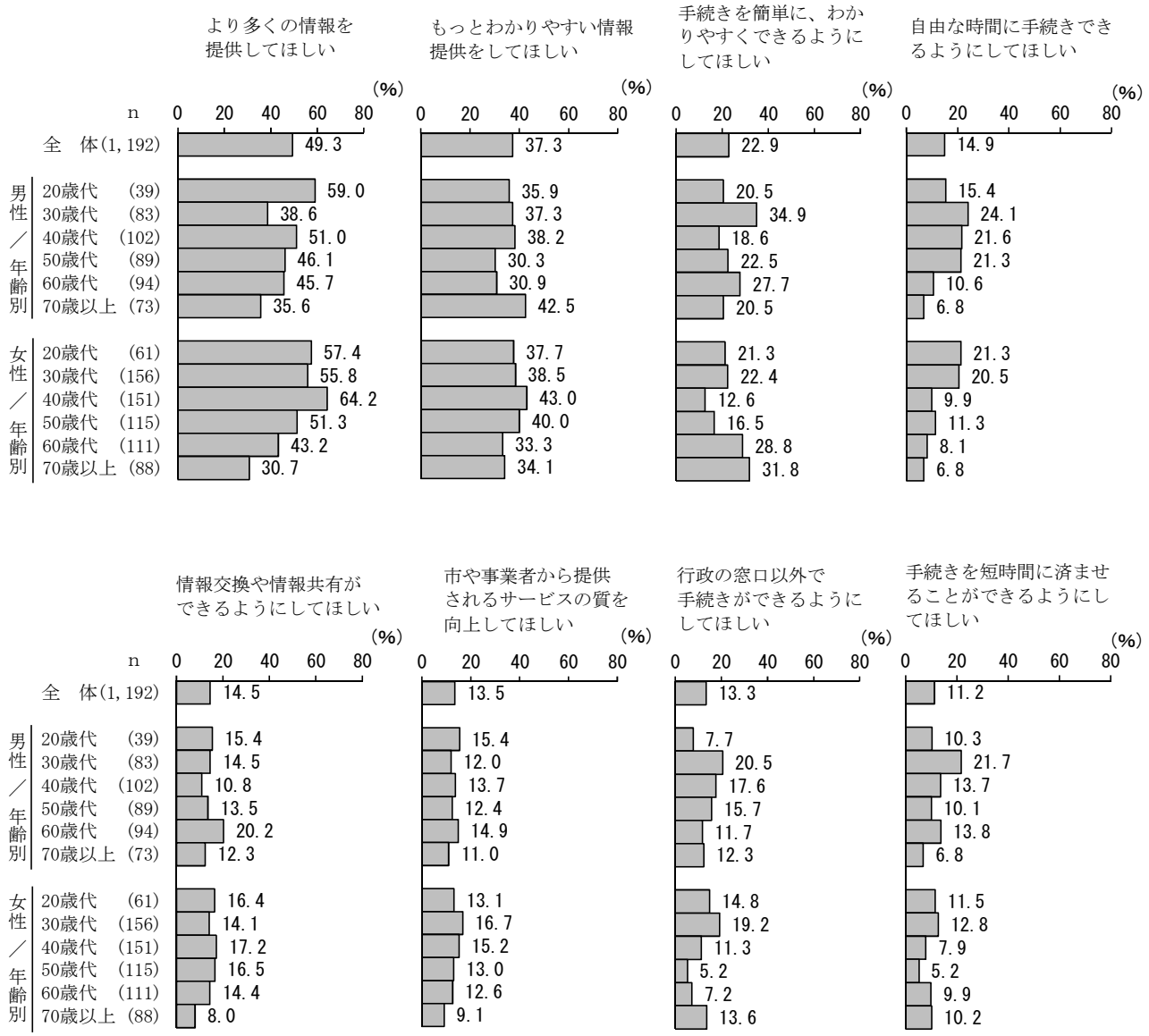
問６　あなたが問５で回答した最も情報化を望んでいる分野について、具体的にどのような進展を望んでいますか。（あてはまるもの全てに○）

図表１－10　情報化の進展を望むこと



具体的にどのような情報化の進展を望むのかについては、「より多くの情報を提供してほしい」（49.3%）が最も多く、次いで、「もっとわかりやすい情報提供をしてほしい」（37.3%）、「手続きを簡単に、わかりやすくできようにしてほしい」（22.9%）の順となっている。（図表１－10）

図表１－11　情報化の進展を望むこと（性／年齢別、上位８項目）



性／年齢別では、男女ともに「より多くの情報を提供してほしい」、「もっとわかりやすい情報提供をしてほしい」と答える人が、各年代を通じて多い。「自由な時間に手続きできるようにしてほしい」については、男性では 30 歳代から 50 歳代、女性では 20 歳代、30 歳代で多くなっている。（図表１－11）

図表１－12　情報化の進展を望むこと（進めてほしい分野×進展を望むこと）

上段：人数、下段：％

	合計	もっとわかりやすい情報提供をしてほしい	より多くの情報を提供してほしい	手続きを簡単に、わかりやすくできるようにしてほしい	行政の窓口以外で手続きができるようにしてほしい	自由な時間に手続きできるようにしてほしい	手続きを短時間に済ませることができるようにしてほしい	市や事業者から提供されるサービスの質を向上してほしい	情報交換や情報共有ができるようにしてほしい	その他	無回答
合計	1,192 100.0	445 37.3	588 49.3	273 22.9	158 13.3	178 14.9	133 11.2	161 13.5	173 14.5	33 2.8	45 3.8
災害関連(防災・災害対策、消防、救急など)	422 100.0	184 43.6	265 62.8	35 8.3	14 3.3	19 4.5	18 4.3	32 7.6	89 21.1	14 3.3	15 3.6
医療・健康・衛生関連(市内病院、健康診断、健康・医療相談、感染症、食品衛生など)	143 100.0	45 31.5	80 55.9	40 28.0	11 7.7	19 13.3	18 12.6	25 17.5	11 7.7	3 2.1	7 4.9
福祉関連(介護保険、生活保護、障害者福祉、高齢者福祉、地域福祉など)	130 100.0	47 36.2	51 39.2	56 43.1	22 16.9	18 13.8	24 18.5	34 26.2	13 10.0	3 2.3	6 4.6
子育て関連(妊娠・出産、子育て、保育園・幼稚園など)	112 100.0	38 33.9	74 66.1	43 38.4	30 26.8	35 31.3	23 20.5	29 25.9	20 17.9	－ －	－ －
国民年金・国民健康保険・市税関連	93 100.0	41 44.1	18 19.4	43 46.2	17 18.3	20 21.5	15 16.1	6 6.5	2 2.2	2 2.2	10 10.8
住民票・戸籍・印鑑登録関連	80 100.0	7 8.8	4 5.0	23 28.8	50 62.5	49 61.3	21 26.3	2 2.5	2 2.5	1 1.3	－ －
環境対策・ごみ・リサイクル・エコ対策関連	61 100.0	27 44.3	18 29.5	15 24.6	4 6.6	4 6.6	4 6.6	8 13.1	6 9.8	2 3.3	2 3.3
市バス・自転車対策関連	31 100.0	15 48.4	9 29.0	2 6.5	1 3.2	1 3.2	2 6.5	2 6.5	－ －	6 19.4	3 9.7
学校教育・生涯学習関連	27 100.0	8 29.6	19 70.4	2 7.4	2 7.4	3 11.1	2 7.4	6 22.2	8 29.6	1 3.7	1 3.7
地域コミュニティ関連	24 100.0	8 33.3	10 41.7	1 4.2	－ －	－ －	－ －	2 8.3	10 41.7	－ －	－ －
スポーツ・文化・観光関連	22 100.0	7 31.8	14 63.6	3 13.6	3 13.6	5 22.7	1 4.5	6 27.3	2 9.1	1 4.5	－ －
市民参加・情報公開関連(市政への意見・提案、市民参加の会議、情報公開など)	19 100.0	5 26.3	7 36.8	4 21.1	1 5.3	－ －	2 10.5	5 26.3	4 21.1	－ －	1 5.3
施設案内、市議会、選挙、統計情報関連	14 100.0	7 50.0	10 71.4	3 21.4	1 7.1	2 14.3	1 7.1	1 7.1	3 21.4	－ －	－ －
企業・産業・経済関連(工業・商業・農業、中小企業など)	4 100.0	－ －	2 50.0	－ －	－ －	1 25.0	－ －	1 25.0	1 25.0	－ －	－ －
道路・公園・上下水道関連	3 100.0	1 33.3	2 66.7	1 33.3	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －
その他	7 100.0	5 71.4	5 71.4	2 28.6	2 28.6	2 28.6	2 28.6	2 28.6	2 28.6	－ －	－ －

情報化を進めてほしいと思う分野（問５）と情報化の進展を望むこと（問６）を見た場合、各分野を通じて、「より多くの情報を提供してほしい」、「もっとわかりやすい情報提供をしてほしい」が多くなっている。

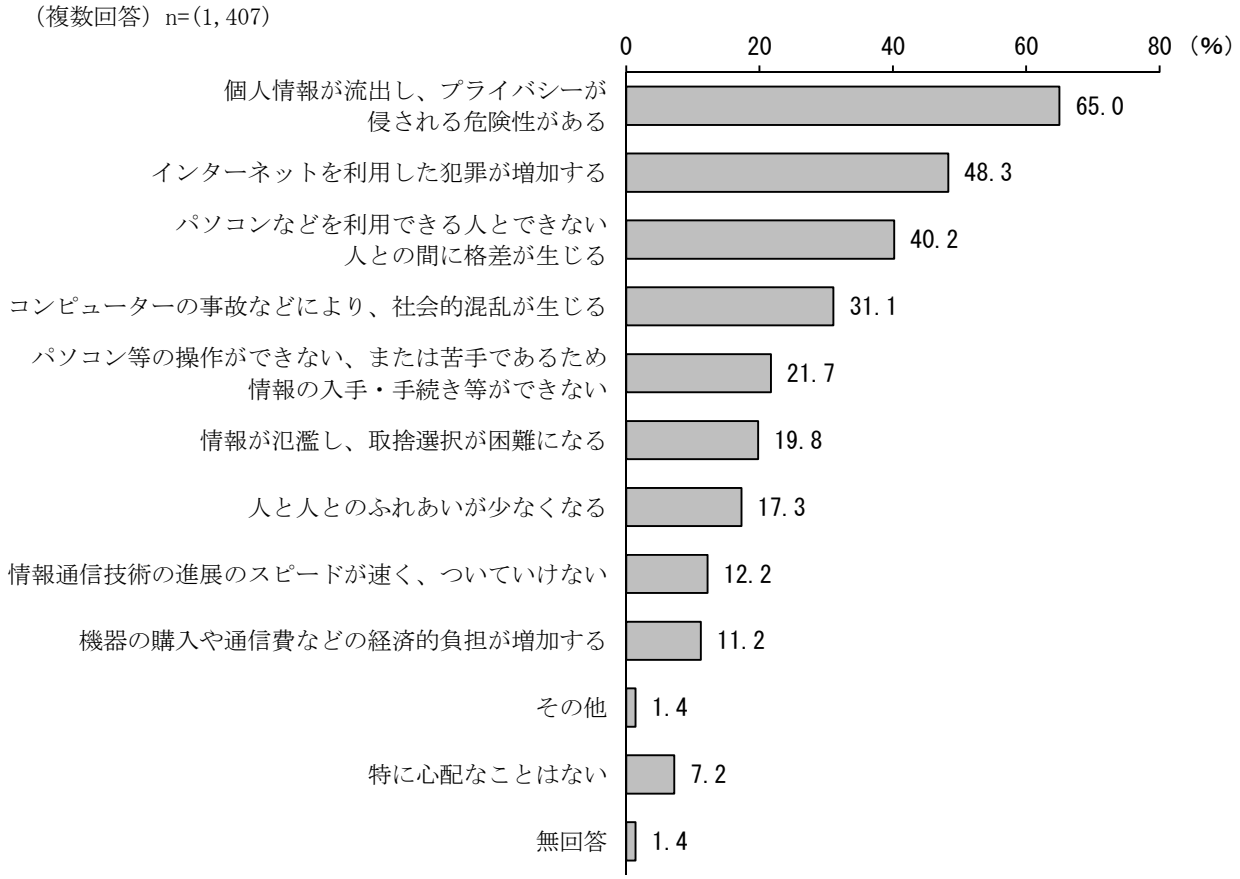
その他、分野ごとの特徴としては、「住民票・戸籍・印鑑登録関連」では、「行政の窓口以外で手続きができるようにしてほしい」、「自由な時間に手続きできるようにしてほしい」が多く、「国民年金・国民健康保険・市税関連」、「福祉関連（介護保険、生活保護、障害者福祉、高齢者福祉、地域福祉など）」では、「手続きを簡単に、わかりやすくできるようにしてほしい」が多い。また、「地域コミュニティ関連」では、「情報交換や情報共有ができるようにしてほしい」が多くなっている。（図表１－12）

１－７　情報化への不安・不満

◎「個人情報が流出し、プライバシーが侵される危険性がある」が 65.0%

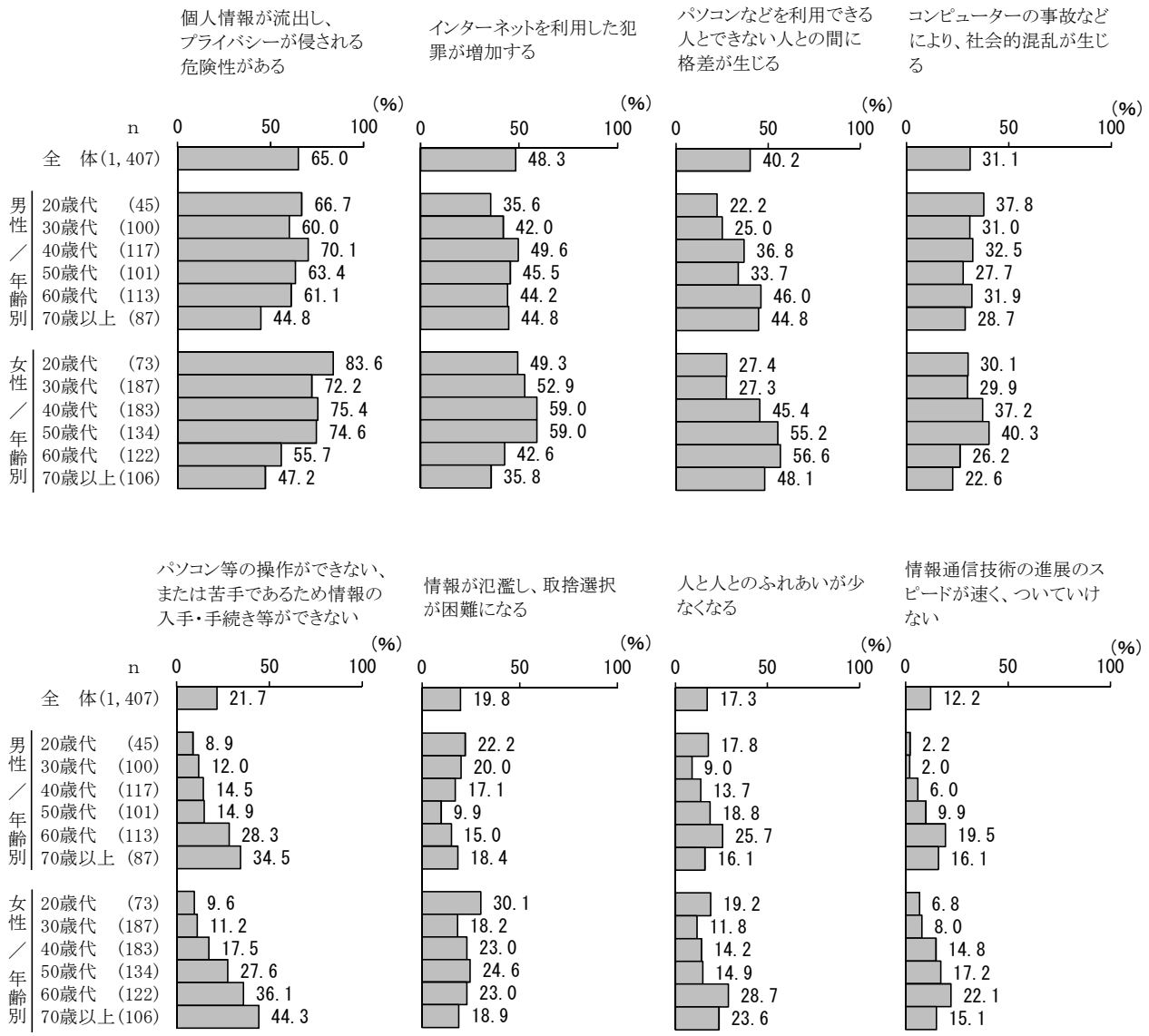
問７　あなたは、情報化が進むことに対して、どのようなことに不安・不満を感じますか。（あてはまるもの全てに○）

図表１－13　情報化への不安・不満



情報化が進むことへの不安・不満については、「個人情報が流出し、プライバシーが侵される危険性がある」が最も多く 65.0%であった。次いで、「インターネットを利用した犯罪が増加する」（48.3%）、「パソコンなどを利用できる人とできない人との間に格差が生じる」（40.2%）の順となっている。（図表１－13）

図表１－14　情報化への不安・不満（性／年齢別、上位８項目）



性／年齢別では、男女ともに各年代を通じて、「個人情報が流出し、プライバシーが侵される危険性がある」、「インターネットを利用した犯罪が増加する」などが多い傾向にある。「パソコン等の操作ができない、または苦手であるため情報の入手・手続き等ができない」については、男女ともに、年代が上がるごとに多くなっている。（図表１－14）

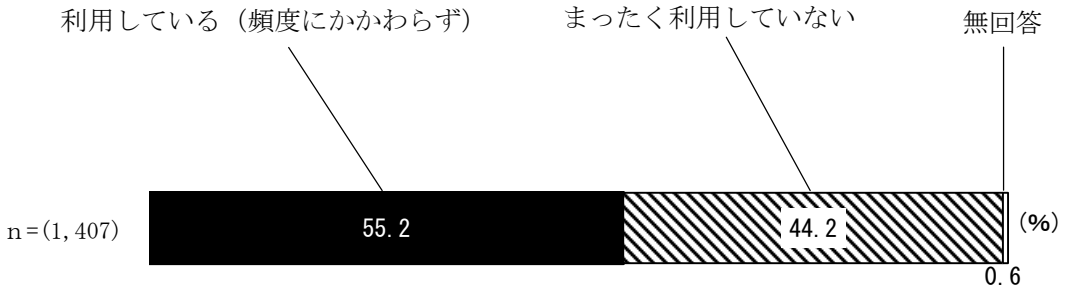
２　自転車の利用状況および自転車走行ルール等の認識について

２－１　自転車の利用状況

◎「利用している」が 55.2%

問８　あなたは自転車を利用していますか。（○は１つだけ）

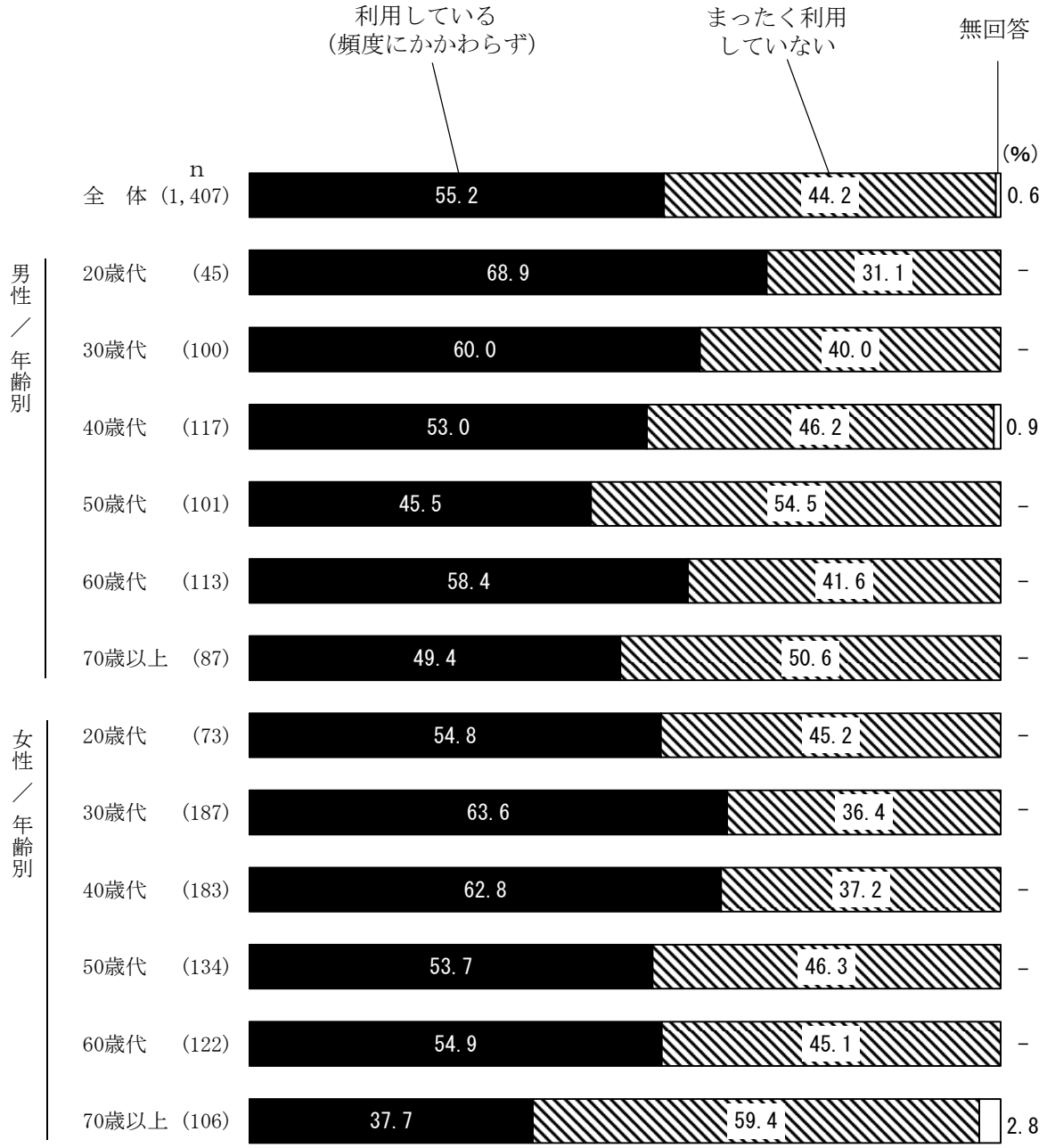
図表２－１　自転車の利用状況



自転車の利用状況は、「利用している（頻度にかかわらず）」が 55.2%、「まったく利用していない」が 44.2%となっている。（図表２－１）

（第１回アンケート）

図表２－２　自転車の利用状況（性／年齢別）



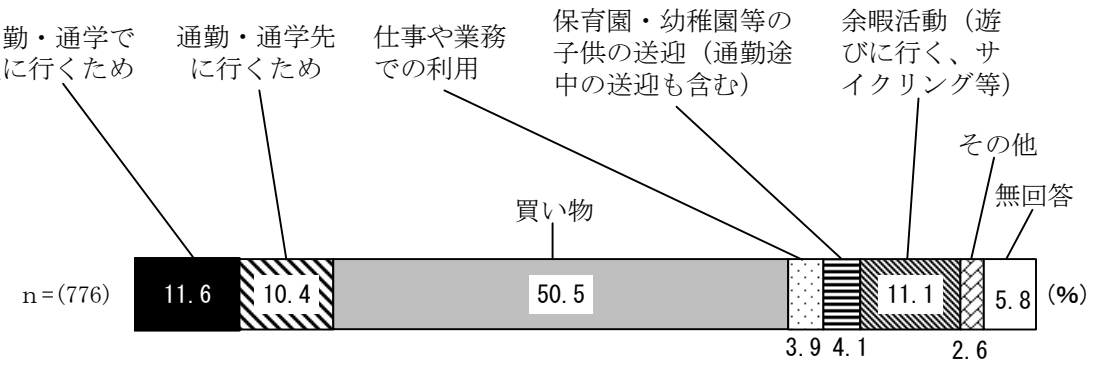
性／年齢別では、男性は 20 歳代（68.9%）、30 歳代（60.0%）で「利用している（頻度にかかわらず)」が多く、女性は 30 歳代（63.6%）、40 歳代（62.8%）で多くなっている。(図表２－２)

２－２　自転車の利用目的

◎自転車の利用目的は「買い物」が 50.5%

問９　（問８で自転車を「１　利用している」と回答した方にうかがいます。）
あなたが自転車を最も利用する目的は何ですか。（○は１つだけ）

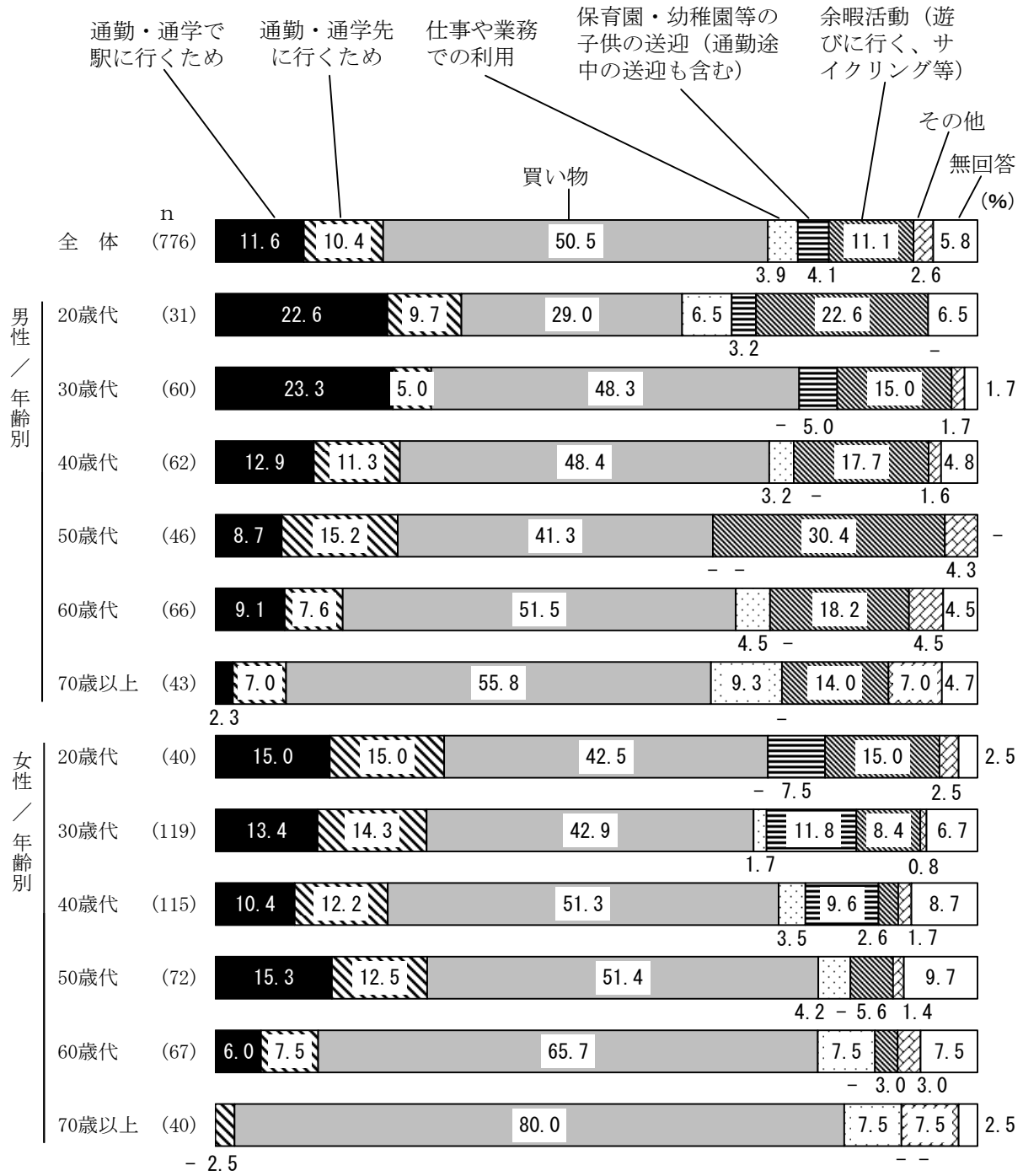
図表２－３　自転車の利用目的



自転車を利用する目的は、「買い物」が 50.5%で最も多くなっている。次いで、「通勤・通学で駅に行くため」（11.6%）、「余暇活動（遊びに行く、サイクリング等）」（11.1%）の順となっている。（図表２－３）

（第１回アンケート）

図表２－４　自転車の利用目的（性／年齢別）



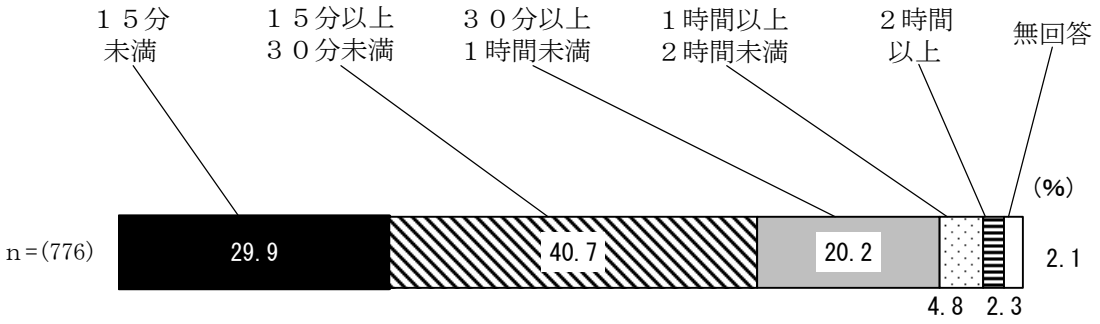
性／年齢別では、「買い物」に自転車を利用する割合が、男性に比べ女性が多く、特に、60 歳代（65.7%）、70 歳以上（80.0%）で多くなっている。（図表２－４）

２－３　自転車の走行時間

◎自転車の走行時間は「15 分以上 30 分未満」が 40.7%

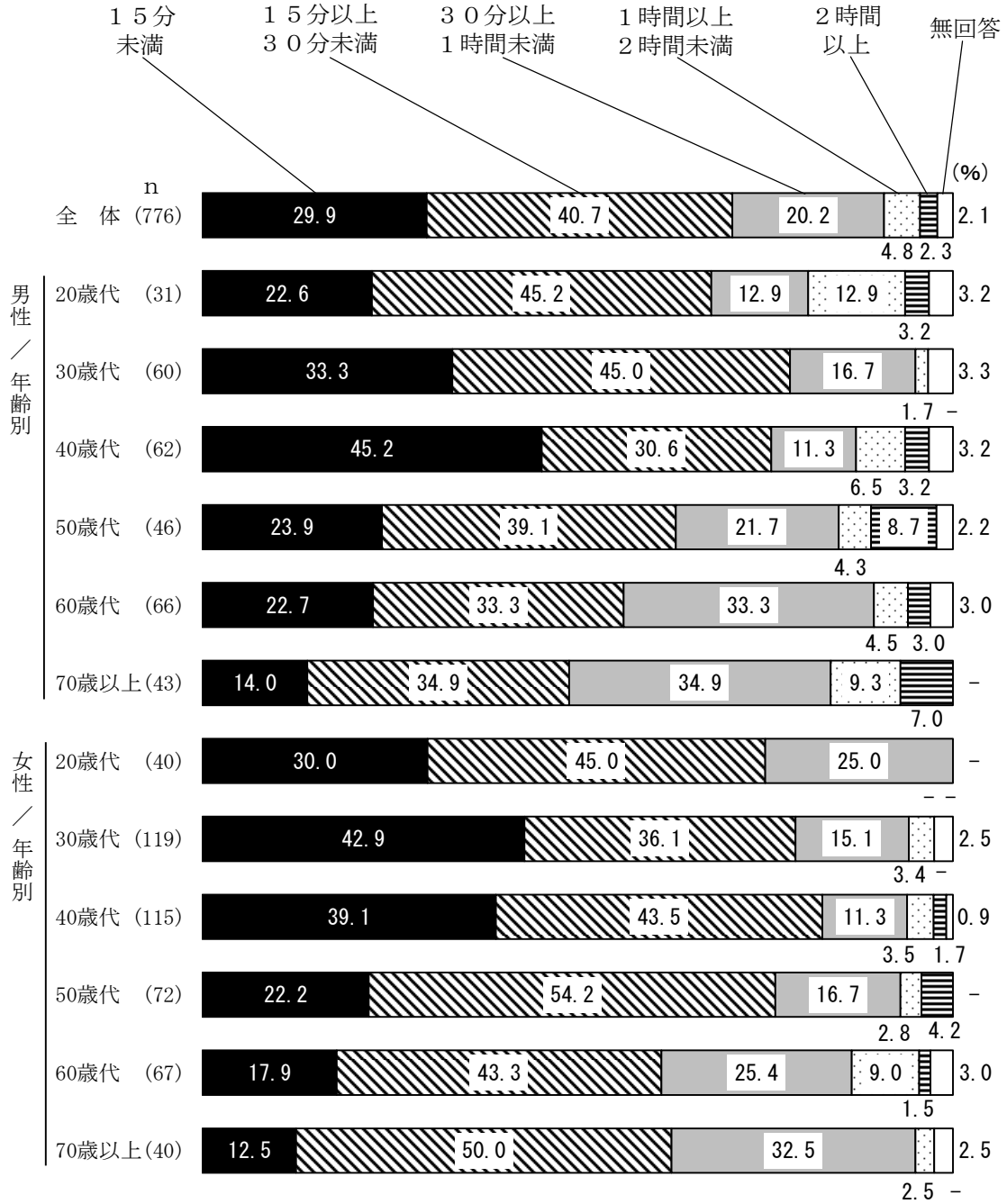
問 10　（問８で自転車を「１　利用している」と回答した方にうかがいます。）
あなたが問９で○をつけた自転車利用目的について、走行する時間はおよそどのくらいですか。（○は１つだけ）
※走行時間は、問９で回答した選択肢の１日の走行時間とします。

図表２－５　自転車の走行時間



自転車の走行時間について、「１５分未満」(29.9%)、「１５分以上３０分未満」(40.7%）を合わせた３０分未満が約７割となっている。（図表２－５）

図表２－６　自転車の走行時間（性／年齢別）



自転車の走行時間の性／年齢別では、「１５分未満」は、男性の 40 歳代（45.2%）、女性の 30 歳代（42.9%）で最も多く、「１５分以上３０分未満」は、男性の 20 歳代（45.2%）、女性の 50 歳代（54.2%）で最も多くなっている。「３０分以上１時間未満」は、女性に比べ男性に多い傾向にある。（図表２－６）

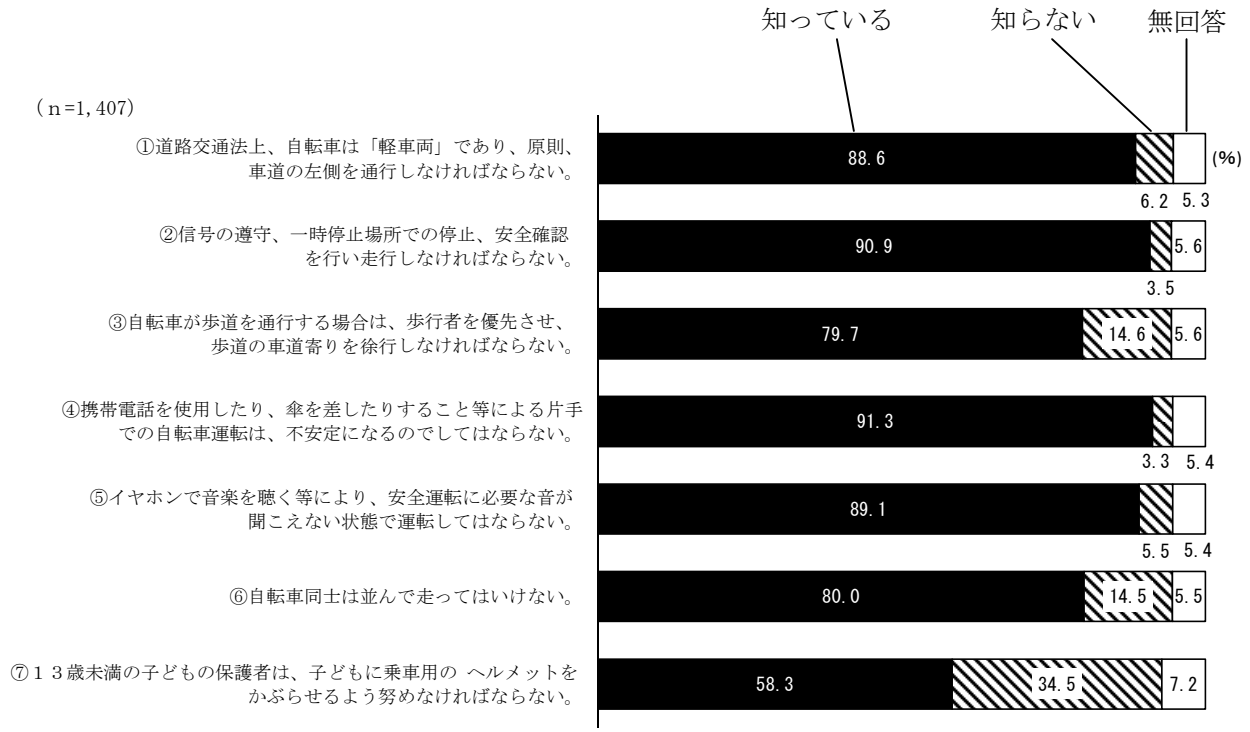
２－４　自転車利用の交通ルールの認知・遵守

◎自転車利用の交通ルールを「知っている」は各項目とも５割以上

問 11　あなたは、次の自転車利用に関する交通ルールを知っていますか。また、実際に交通ルールを守っていますか。「ルールの認知」と「ルールの遵守」に関して、それぞれあてはまるものをお選びください。（○はそれぞれ１つずつ）
※「ルールの遵守」に関しては、問８で自転車を「１　利用している」と回答した方にうかがいます。

図表２－７－１　自転車利用の交通ルールの認知

【ルールの認知】

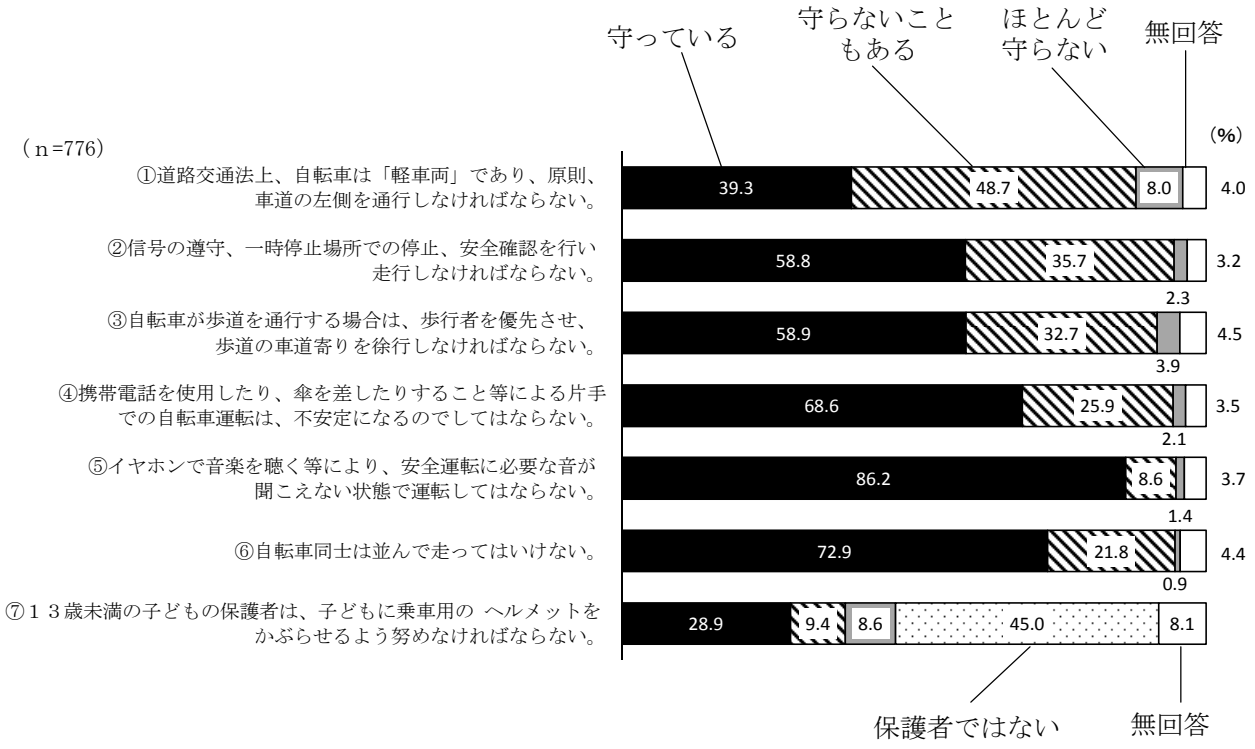


自転車利用の交通ルールの認知では、「携帯電話を使用したり、傘を差したりすること等による片手での自転車運転は、不安定になるのでしてはならない」、「信号の遵守、一時停止場所での停止、安全確認を行い走行しなければならない」を「知っている」が多く９割を超えている。一方、「知らない」は、「１３歳未満の子どもの保護者は、子どもに乗車用のヘルメットをかぶらせるよう努めなければならない」を挙げる人が他のルールに比べ、３割台と多い。（図表２－７－１）

（第１回アンケート）

図表２－７－２　自転車利用の交通ルールの遵守

【ルールの遵守】



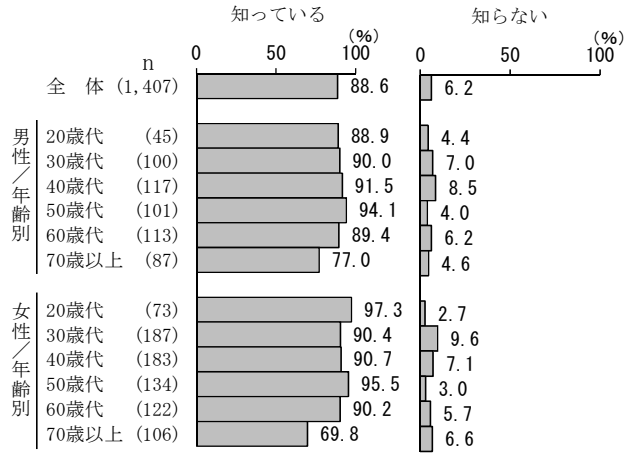
自転車利用の交通ルールの遵守では、「守っている」と答えた割合が多いものは、「イヤホンで音楽を聴く等により、安全運転に必要な音が聞こえない状態で運転してはならない」（86.2%）、「自転車同士は並んで走ってはいけない」（72.9%）、「携帯電話を使用したり、傘を差したりすること等による片手での自転車運転は、不安定になるのでしてはならない」（68.6%）の順となっている。（図表２－７－２）

図表２－８－１　左側通行の認知・遵守

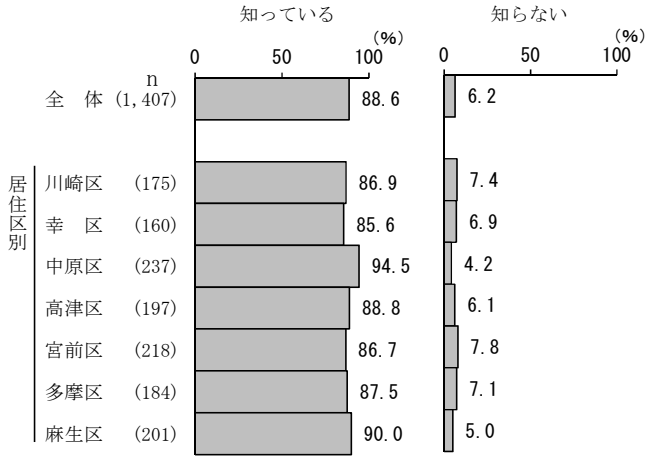
①　道路交通法上、自転車は「軽車両」であり、原則、車道の左側を通行しなければならない。

【ルールの認知】

（性／年齢別）

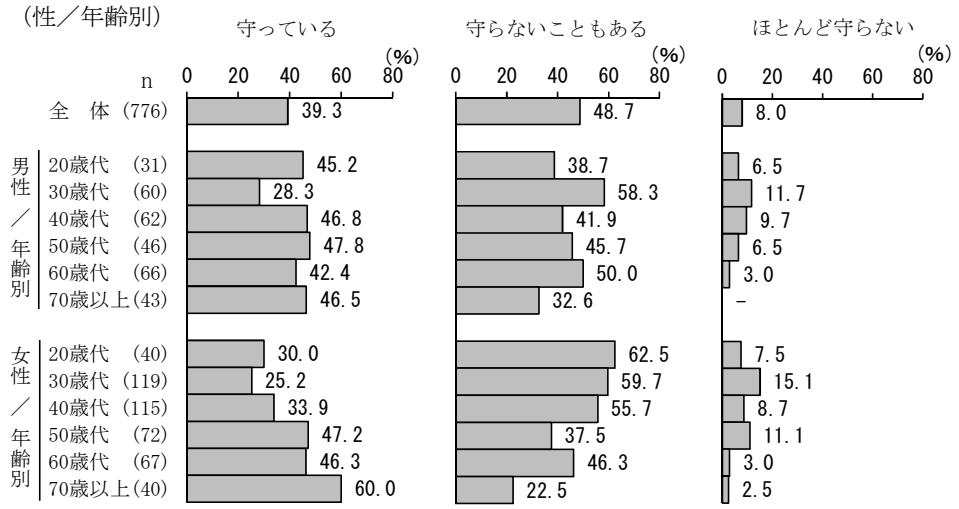


（居住区別）

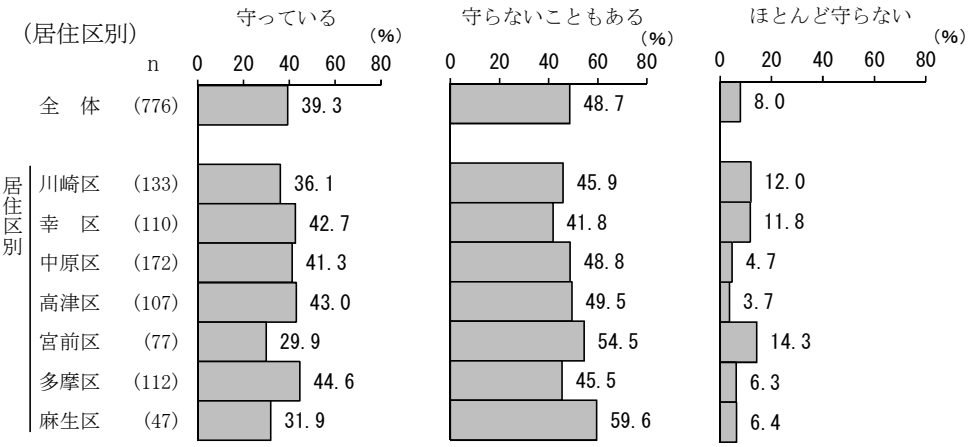


【ルールの遵守】

（性／年齢別）



（居住区別）



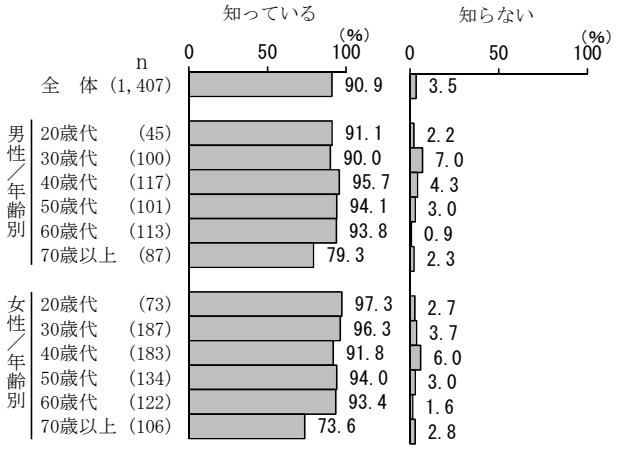
（第１回アンケート）

図表２－８－２　信号、一時停止、安全確認の認知・遵守

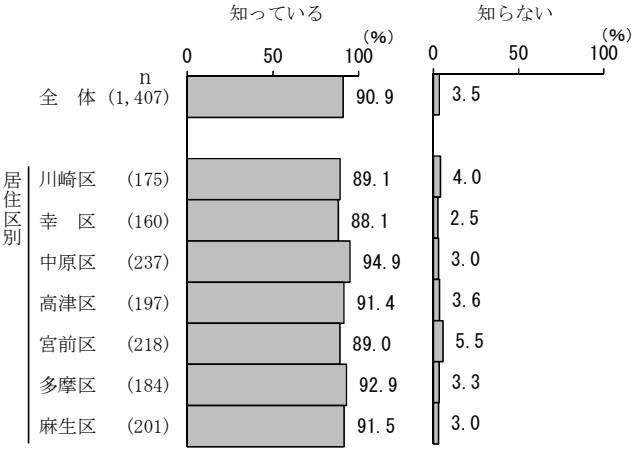
②　信号の遵守、一時停止場所での停止、安全確認を行い走行しなければならない。

【ルールの認知】

（性／年齢別）

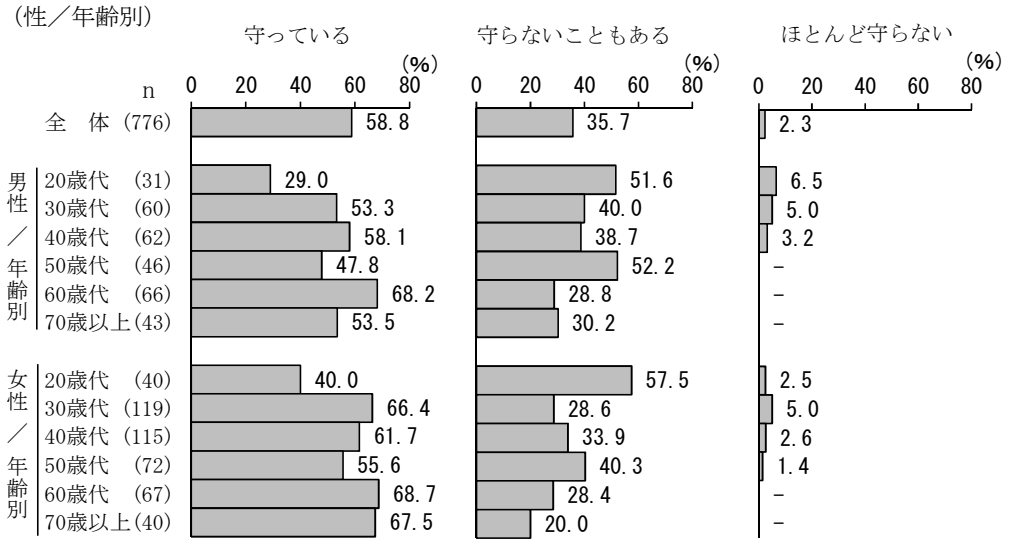


（居住区別）

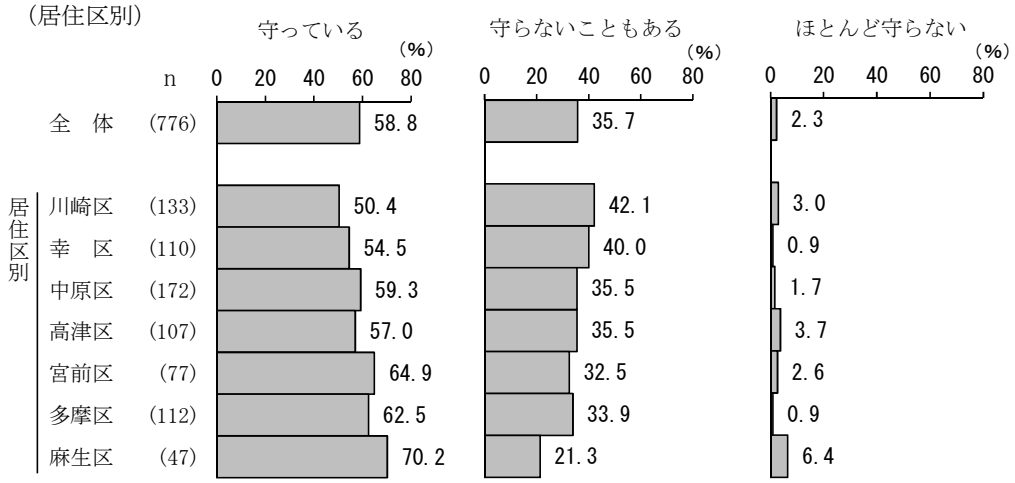


【ルールの遵守】

（性／年齢別）



（居住区別）

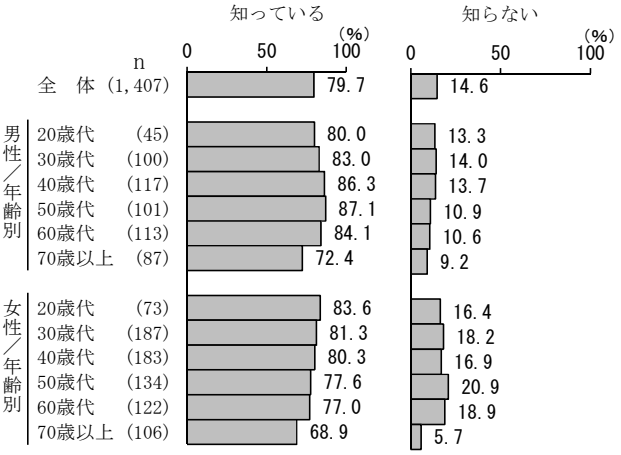


図表２－８－３　歩道通行時のルールの認知・遵守

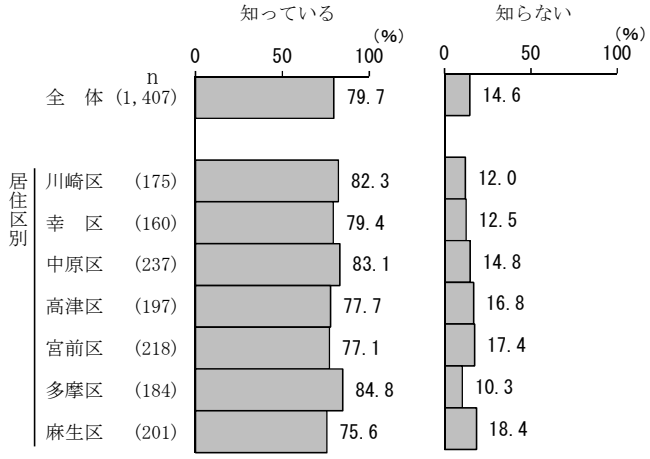
③　自転車が歩道を通行する場合は、歩行者を優先させ、歩道の車道寄りを徐行しなければならない。

【ルールの認知】

（性／年齢別）

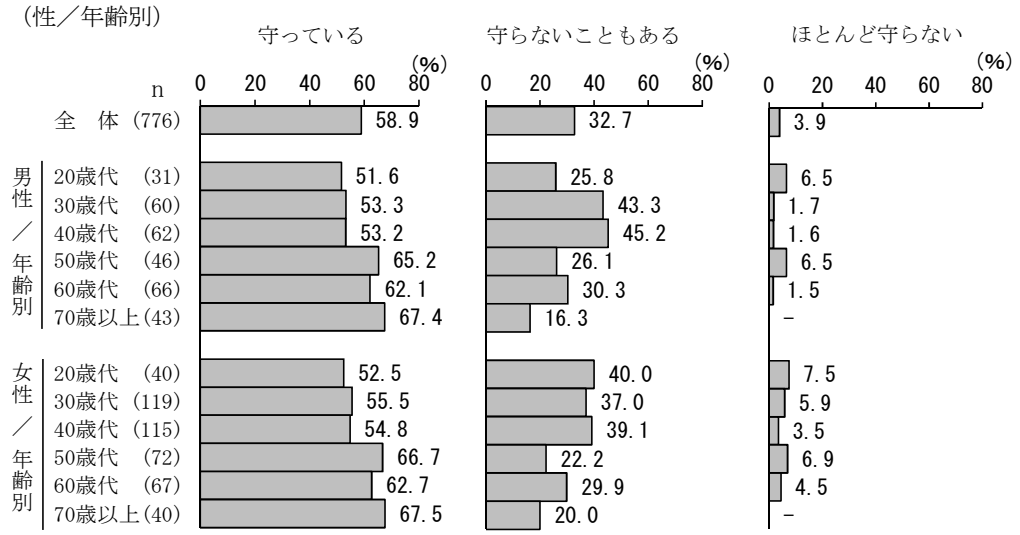


（居住区別）

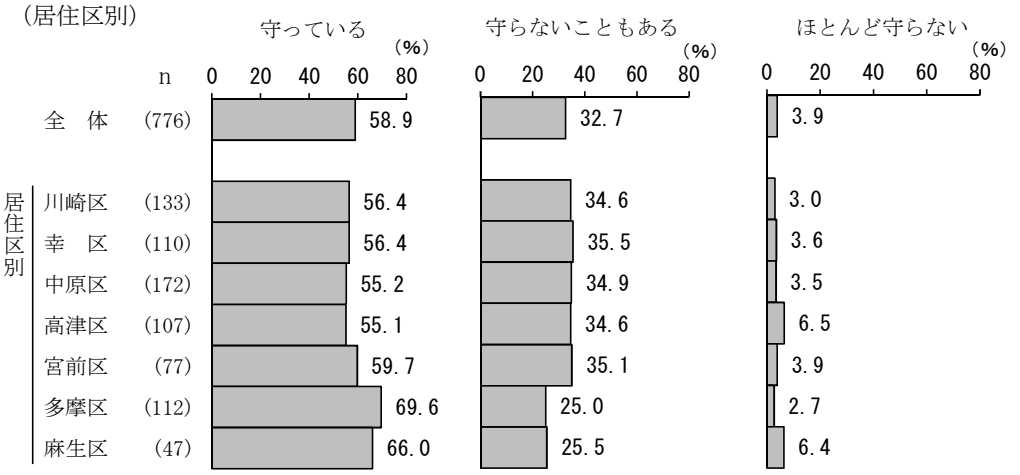


【ルールの遵守】

（性／年齢別）



（居住区別）



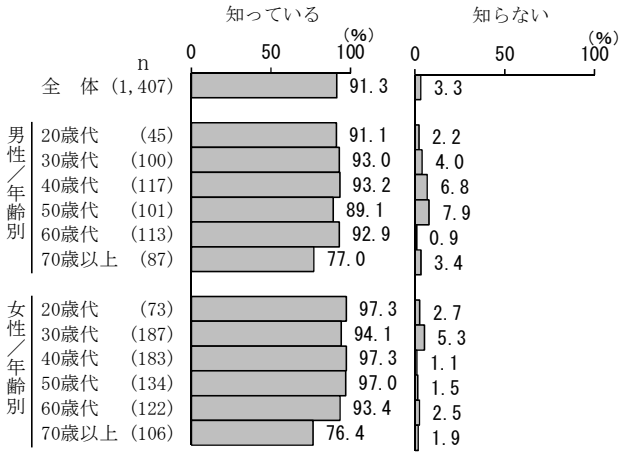
（第１回アンケート）

図表２－８－４　自転車運転時のルール（１）の認知・遵守

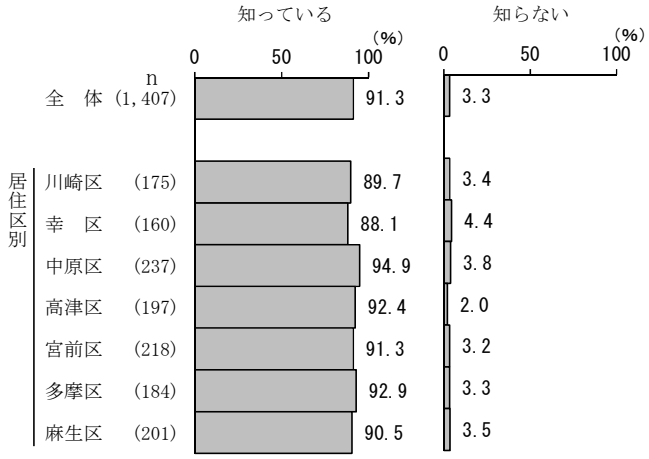
④　携帯電話を使用したり、傘を差したりすること等による片手での自転車運転は、不安定になるのでしてはならない。

【ルールの認知】

（性／年齢別）

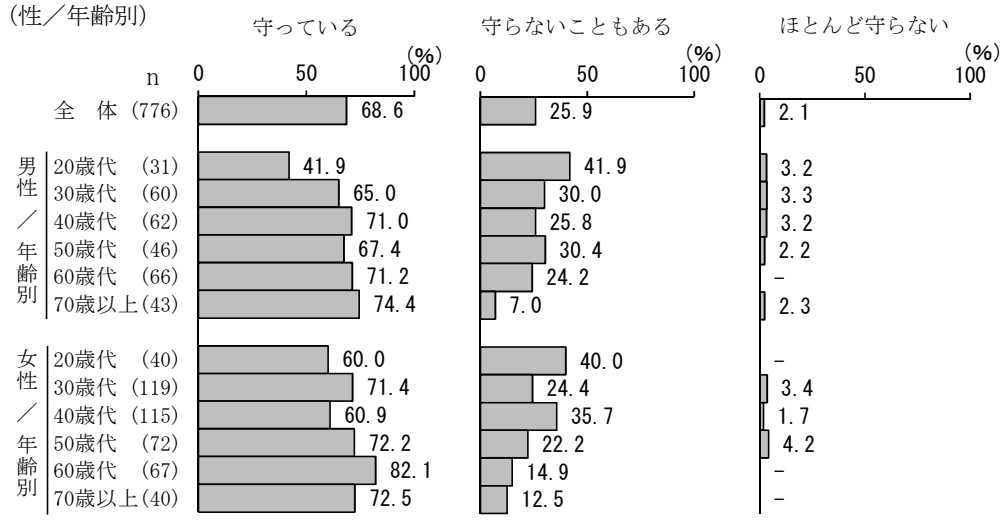


（居住区別）

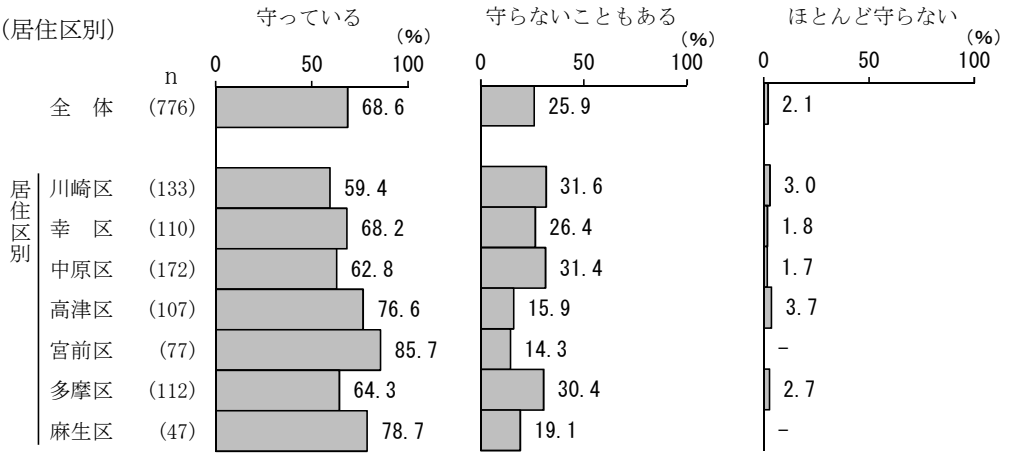


【ルールの遵守】

（性／年齢別）



（居住区別）

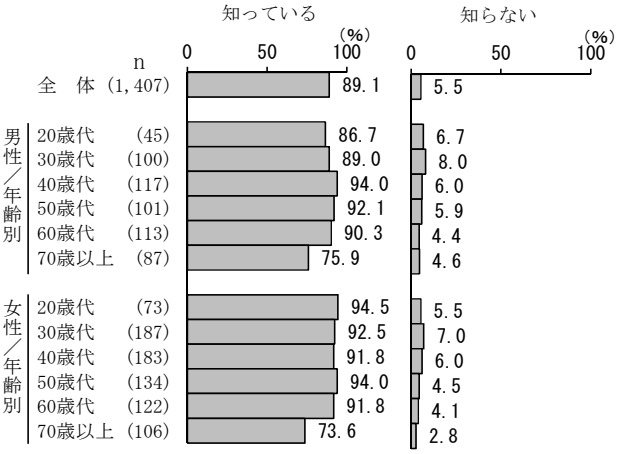


図表２－８－５　自転車運転時のルール（２）の認知・遵守

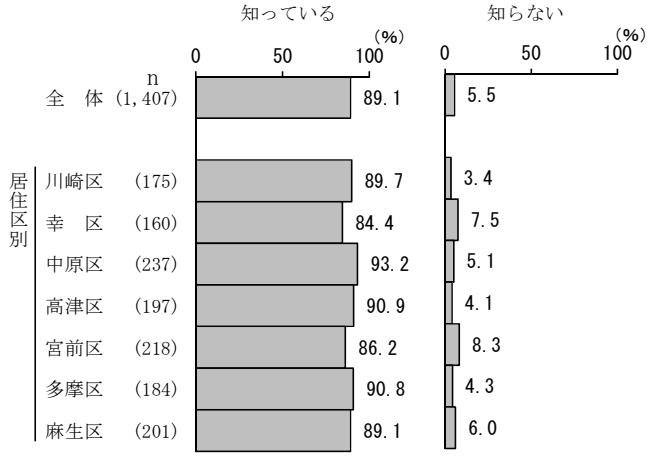
⑤　イヤホンで音楽を聴く等により、安全運転に必要な音が聞こえない状態で運転してはならない。

【ルールの認知】

（性／年齢別）

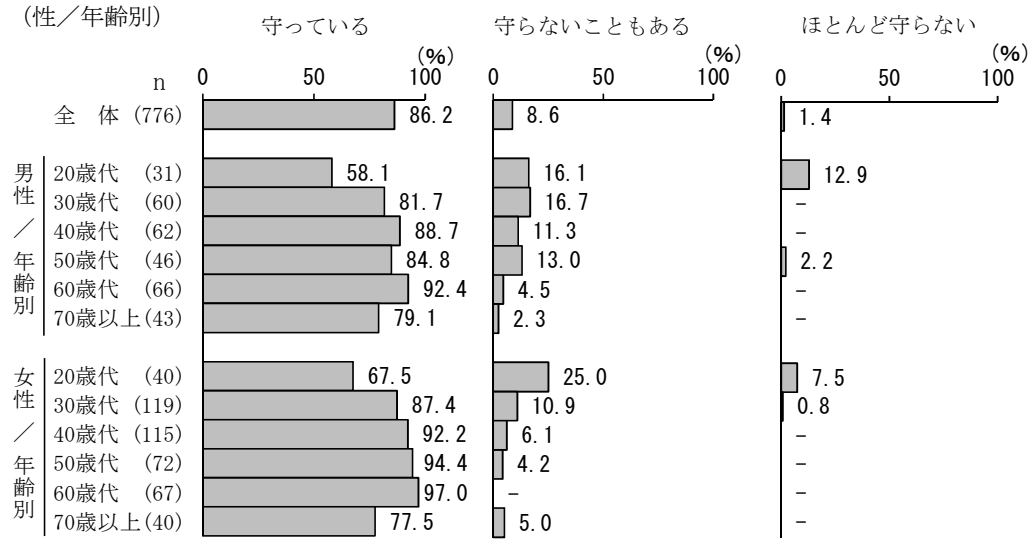


（居住区別）

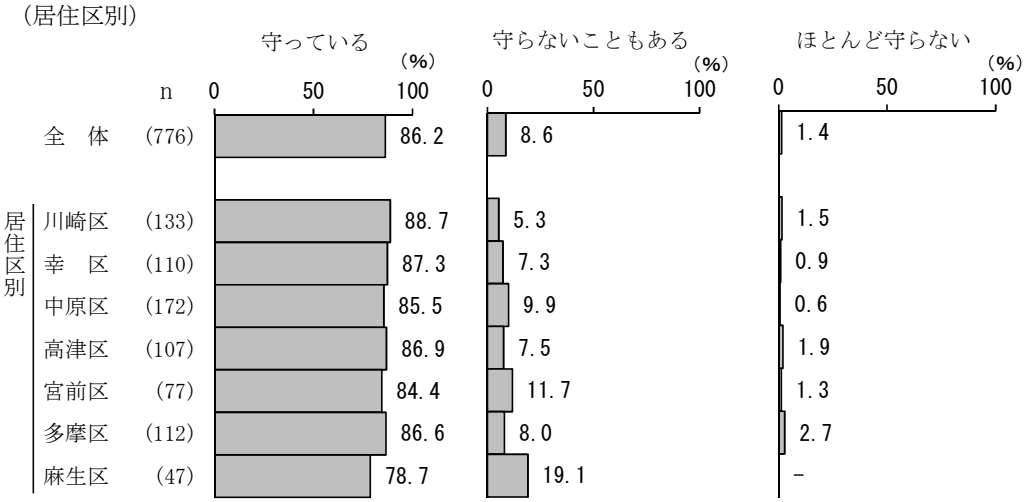


【ルールの遵守】

（性／年齢別）



（居住区別）



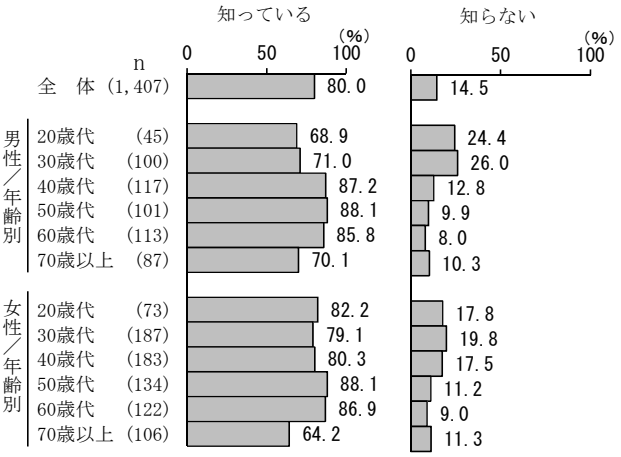
（第１回アンケート）

図表２－８－６　自転車運転時のルール（３）の認知・遵守

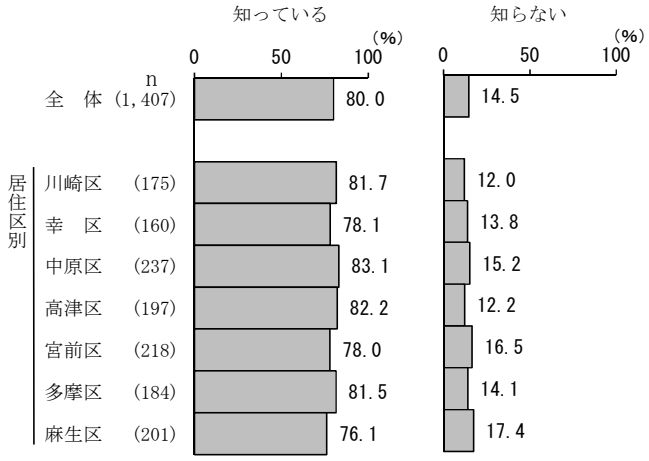
⑥　自転車同士は並んで走ってはいけない。

【ルールの認知】

（性／年齢別）

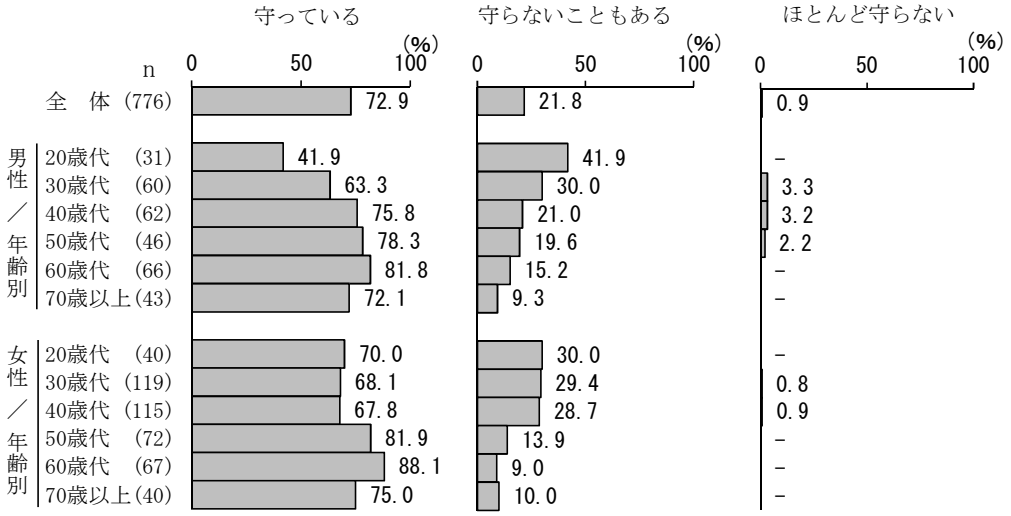


（居住区別）

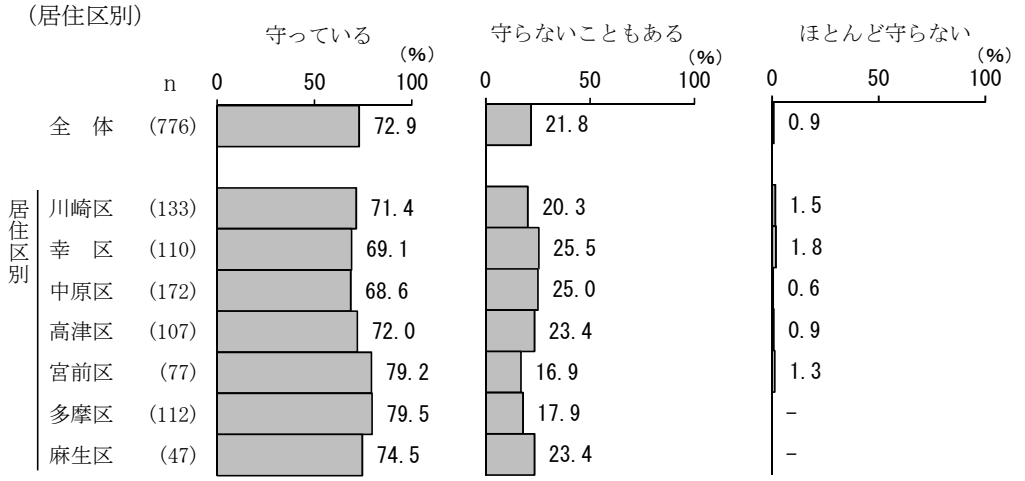


【ルールの遵守】

（性／年齢別）



（居住区別）

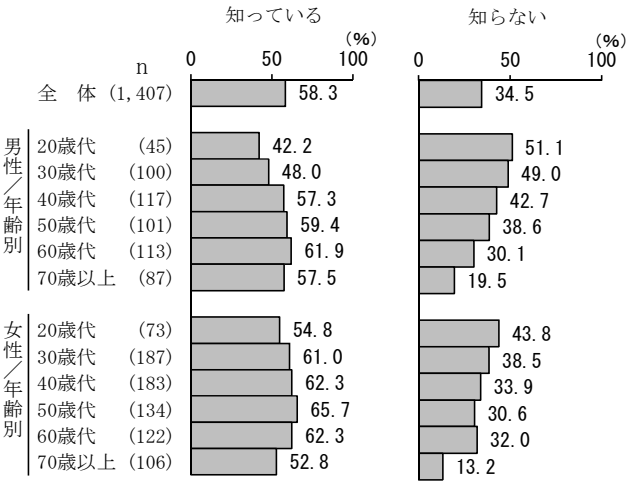


図表２－８－７　自転車運転時のルール（４）の認知・遵守

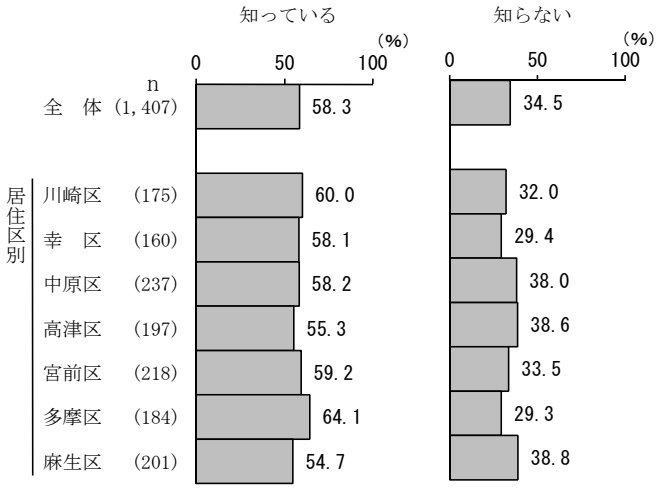
⑦　１３歳未満の子どもの保護者は、子どもに乗車用のヘルメットをかぶらせるよう努めなければならない。

【ルールの認知】

（性／年齢別）

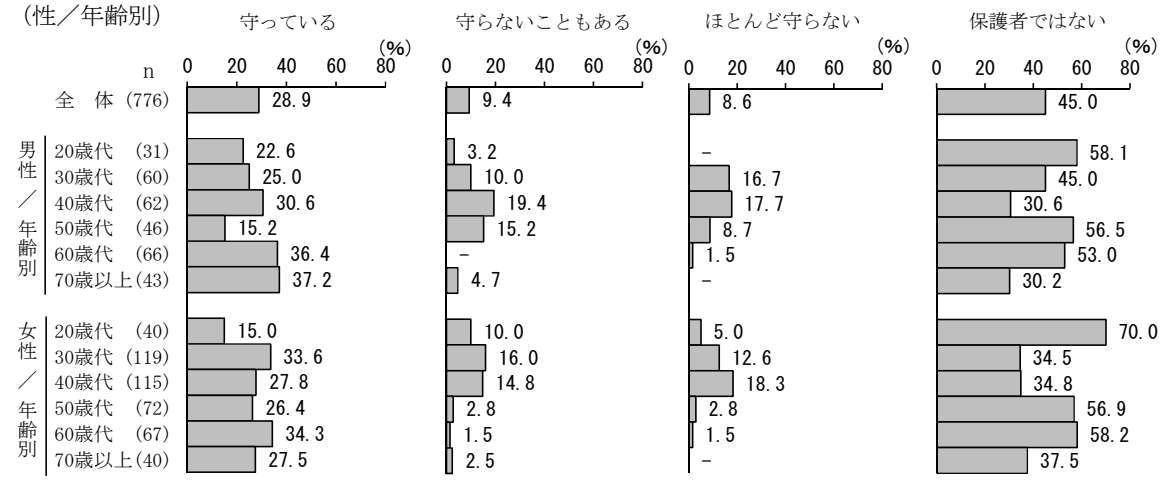


（居住区別）

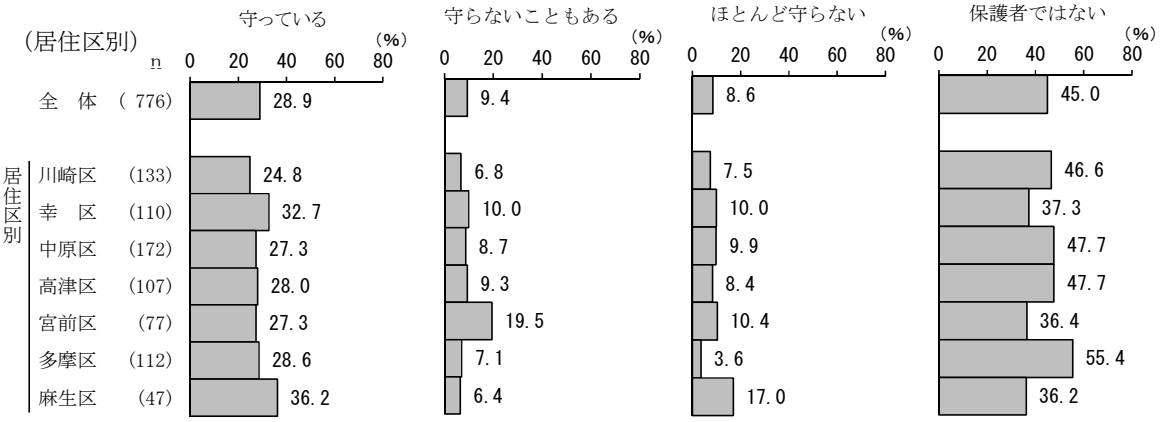


【ルールの遵守】

（性／年齢別）



（居住区別）



（第１回アンケート）

「道路交通法上、自転車は「軽車両」であり、原則、車道の左側を通行しなければならない」ことを「知っている」は、男女とも 20 歳代から 60 歳代で８割を超えている。居住区別においても、区にかかわらず、８割を超えており、非常に多い傾向にある。

そのルールを「守っているか」を尋ねたところ、男性は 30 歳代を除き全ての世代で、女性は 40 歳代から 70 歳以上で「守っている」が４割を超えている。一方、若年層となる 20 歳代の女性は、「守らないこともある」が同年齢層の男性に比べ 23.8 ポイント多くなっている。30 歳代は、男女ともに「守らないこともある」がおよそ６割を占める。居住区別では、「守っている」が比較的多い地区は、多摩区（44.6%）、高津区（43.0%）、幸区（42.7%）の順となっている。「守らないこともある」では、麻生区が５割台後半で他の区に比べ多い。（図表２－８－１）

「信号の遵守、一時停止場所での停止、安全確認を行い走行しなければならない」ことを「知っている」は、男女ともに 70 歳以上は７割、20 歳代から 60 歳代は９割を超えている。

ルールの遵守については、男女問わず 30 歳代以降で「守っている」と答える割合が多い傾向にあるが、50 歳代に関しては、他の年齢層に比べ、若干少なくなっている。居住区別では、麻生区が他の区に比べ７割と多い。（図表２－８－２）

「自転車が歩道を通行する場合は、歩行者を優先させ、歩道の車道寄りを徐行しなければならない」ことを「知っている」は、男性は 20 歳代から 60 歳代、女性は 20 歳代から 40 歳代で８割を超え、男性 70 歳以上、女性 50 歳代・60 歳代が７割、女性 70 歳以上は６割になっている。

そのルールを「守っている」は、男女ともに 20 歳代から 40 歳代は５割、50 歳代から 70 歳以上は６割、居住区別では５割から６割程度である。（図表２－８－３）

「携帯電話を使用したり、傘を差したりすること等による片手での自転車運転は、不安定になるのでしてはならない」ことを「知っている」は、男女ともに 20 歳代から 60 歳代の約９割、70 歳以上は７割になっている。

そのルールを「守っている」割合は、「知っている」に比べ少なくなっている。「守らないこともある」のは、男女ともに 20 歳代で４割と多く、居住区別では、川崎区（31.6%）、中原区（31.4%）、多摩区（30.4%）の順となっている。（図表２－８－４）

「イヤホンで音楽を聴く等により、安全運転に必要な音が聞こえない状態で運転してはならない」ことを「知っている」は、男女、年齢を問わず７割を超える。居住区別においても、区にかかわらず、８割を超えており、非常に多い傾向にある。

そのルールを「守っている」割合が、走行時の携帯電話使用等に比べ多く、「守らないこともある」が非常に少ない傾向にある。（図表２－８－５）

「自転車同士は並んで走ってはいけない」ことを「知っている」は、男性は 40 歳代から 60 歳代、女性は 20 歳代と 40 歳代から 60 歳代で８割を超えている。

ルールを「守っている」は、全体的に 30 歳代以降で多い傾向にある。しかし、「守らないこと

もある」と、20 歳代から 30 歳代の男性、女性では 20 歳代から 40 歳代にかけて多くなっている。（図表２－８－６）

「１３歳未満の子どもの保護者は、子どもに乗車用のヘルメットをかぶらせるよう努めなければならない」ことを「知っている」は、男女ともに、年齢が上がるにつれ割合が多くなる傾向にある。居住区別では、区を問わず５割を超える。

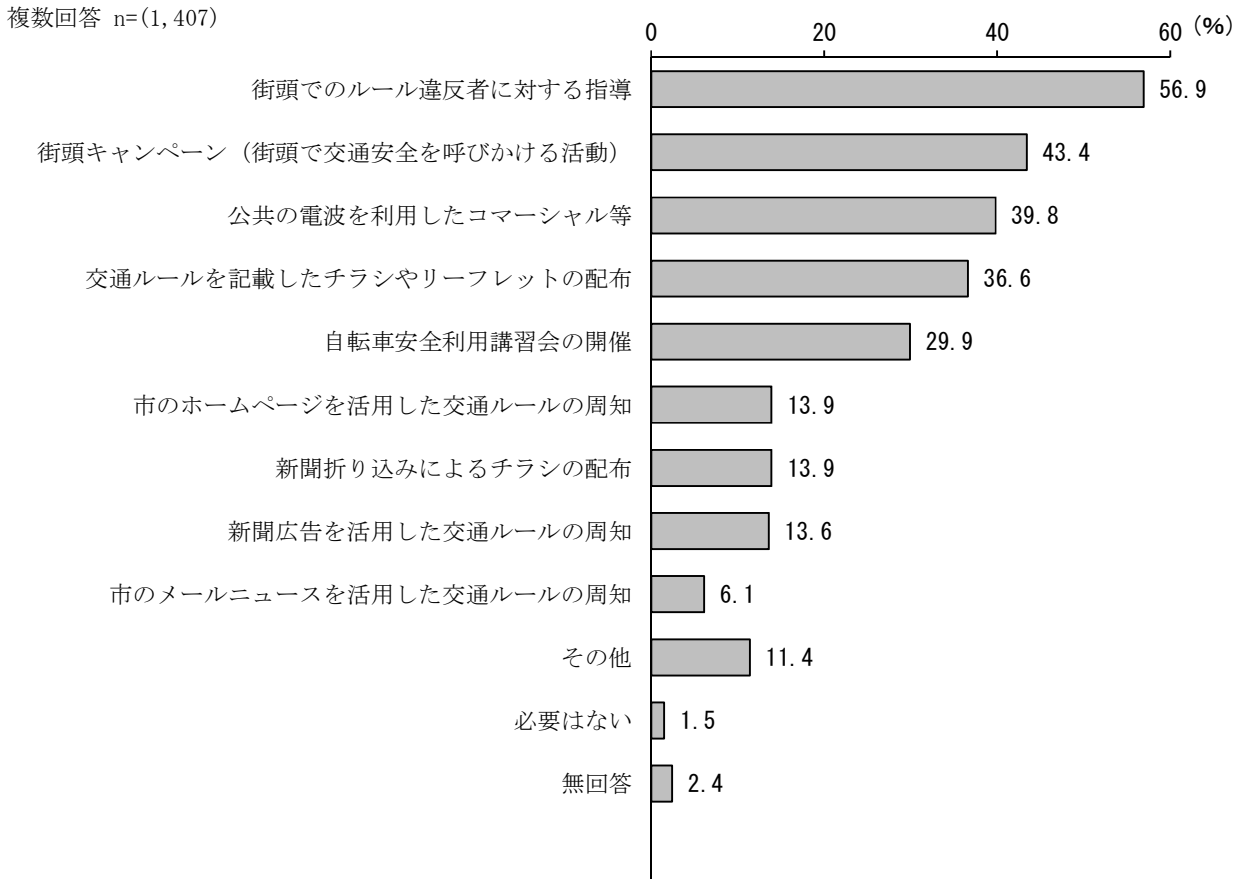
ルールを「守っている」は、子育て世代の多い 30 歳代、祖父母世代の 60 歳代、70 歳以上で多い傾向にある。しかし、「守らないこともある」、「ほとんど守らない」が、男女ともに 30 歳代から 40 歳代にかけて多くなっている。（図表２－８－７）

２－５　自転車の交通ルール周知に向け必要だと思う啓発活動

◎「街頭でのルール違反者に対する指導」が 56.9%

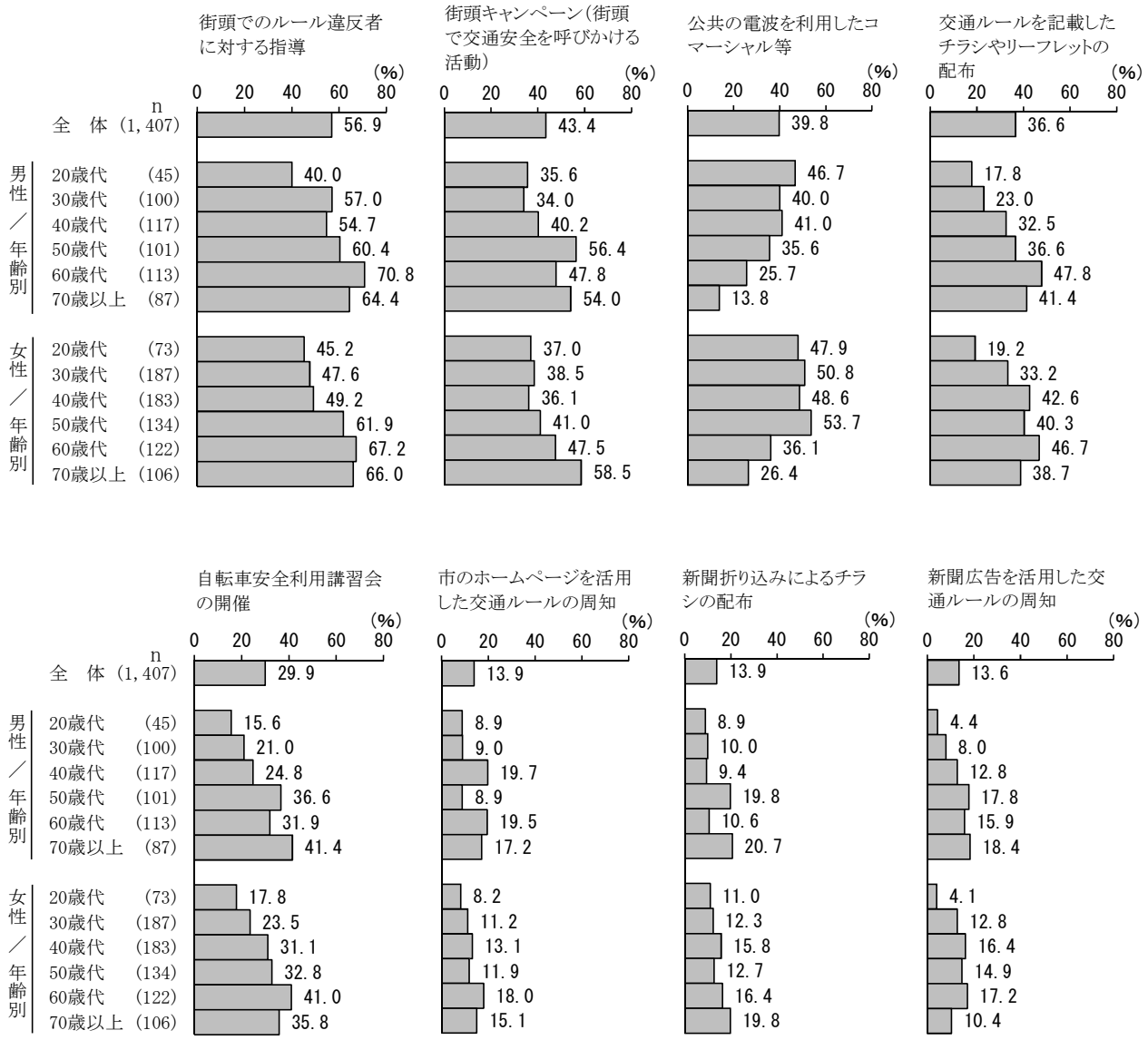
問 12　あなたは、自転車の交通ルールの周知のためにどのような啓発活動が必要だと思いますか。
（あてはまるもの全てに○）

図表２－９　自転車の交通ルール周知に向け必要だと思う啓発活動



自転車の交通ルールの周知に向けた啓発活動には、「街頭でのルール違反者に対する指導」（56.9%）がおよそ６割と最も多くなっている。次いで、「街頭キャンペーン（街頭で交通安全を呼びかける活動）」（43.4%）、「公共の電波を利用したコマーシャル等」（39.8%）、「交通ルールを記載したチラシやリーフレットの配布」（36.6%）の順となっている。（図表２－９）

図表２－10　自転車の交通ルール周知に向け必要だと思う啓発活動（性／年齢別、上位８項目）



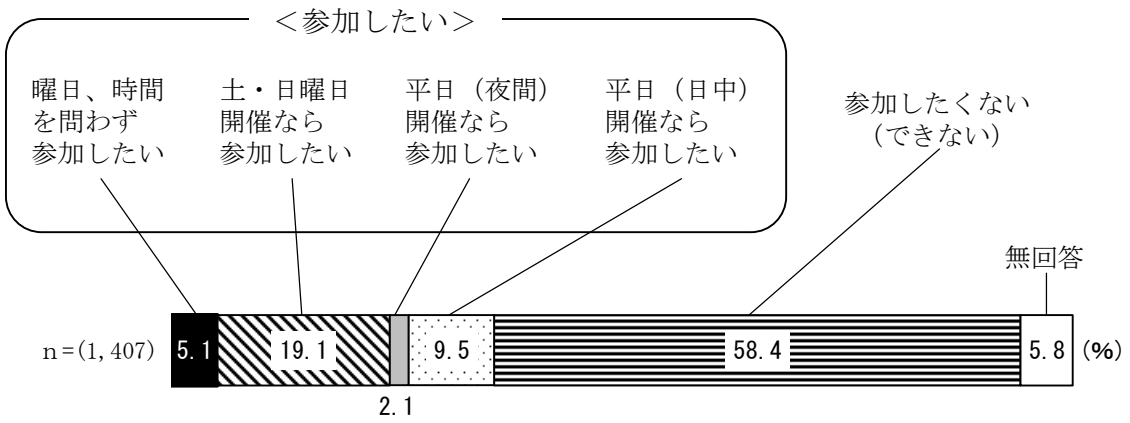
性／年齢別では、男女ともに 20 歳代から 40 歳代にかけては、「公共の電波を利用したコマーシャル等」を挙げる人が多い。一方、50 歳代から 70 歳以上は、「街頭でのルール違反者に対する指導」、「自転車安全利用講習会の開催」を挙げる人が、他の年齢層に比べ多くなっている。（図表２－10）

２－６　自転車安全利用講習会などへの参加希望

◎＜参加したい＞が 35.8%

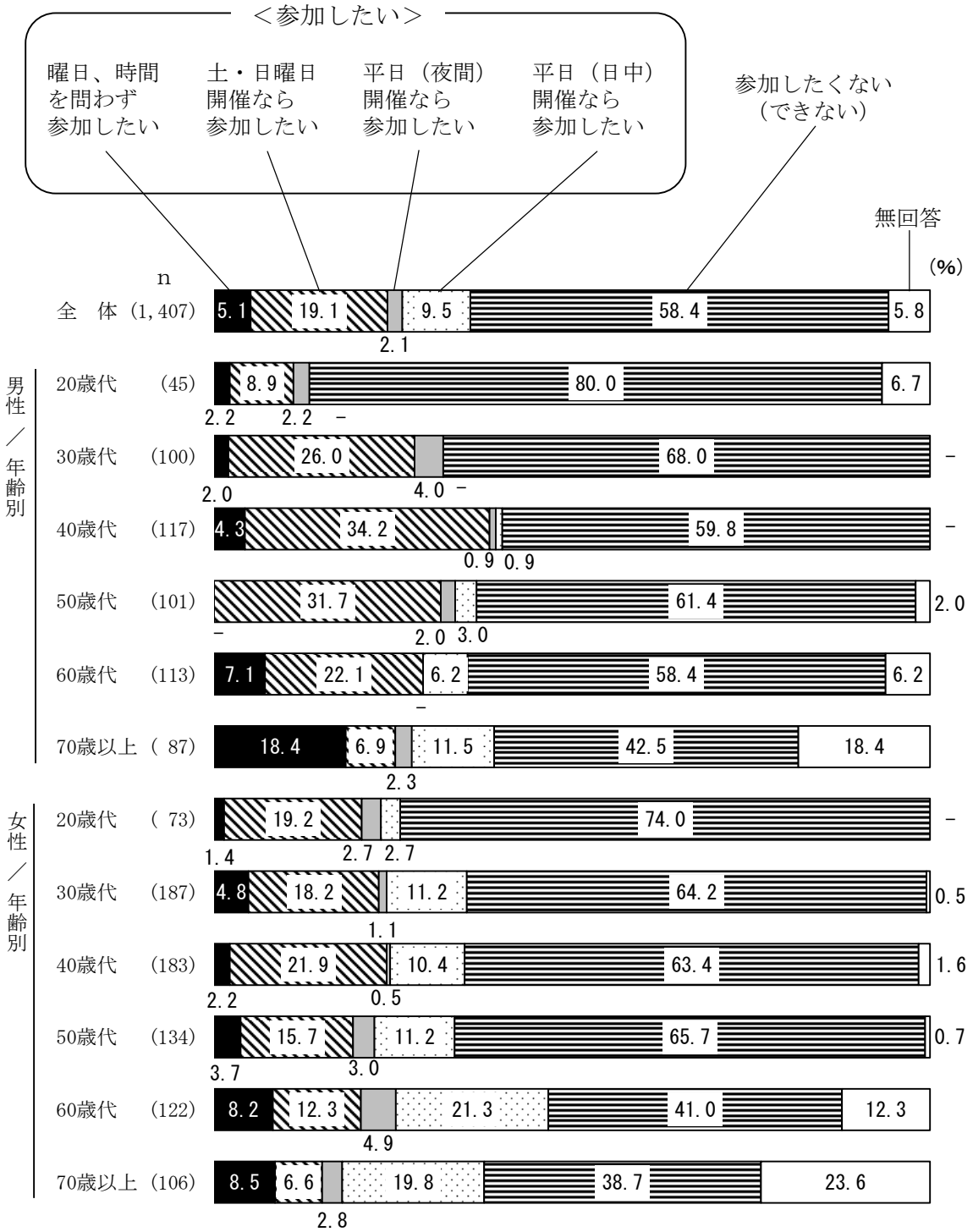
問 13　あなたは、自転車安全利用講習会（無料、在住区または近くの区で開催の場合）などの自転車走行ルールを学ぶ機会があれば参加したいと思いますか。（○は１つだけ）

図表２－11　自転車安全利用講習会などへの参加希望



自転車安全利用講習会など走行ルールを学ぶ機会があれば、参加したいと思うかを尋ねた。「曜日、時間を問わず参加したい」（5.1%）、「土・日曜日開催なら参加したい」（19.1%）、「平日（夜間）開催なら参加したい」（2.1%）、「平日（日中）開催なら参加したい」（9.5%）を合わせた＜参加したい＞は 35.8%となっている。一方、「参加したくない（できない）」は 58.4%と多くなっている。（図表２－11）

図表２－12　自転車安全利用講習会などへの参加希望（性／年齢別）



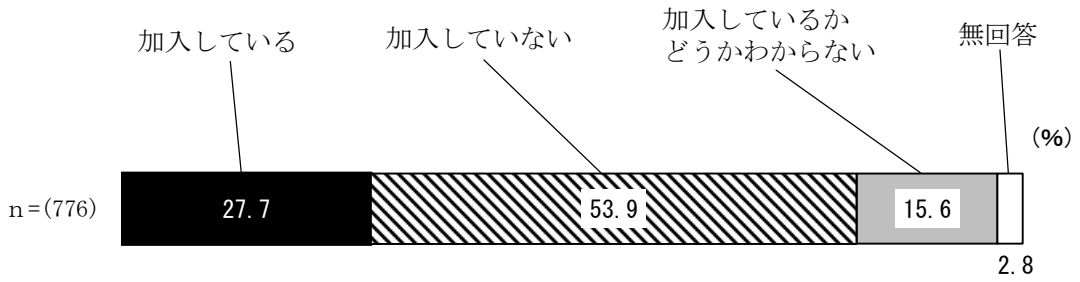
性／年齢別では、「土・日曜日開催なら参加したい」が、男性は 40 歳代（34.2%）、50 歳代（31.7%）で、女性は 40 歳代（21.9%）で多くなっている。一方、「参加したくない（できない）」と答える傾向は、男女ともに 20 歳代で特に多くなっている。（図表２－12）

２－７　損害賠償責任保険等への加入状況

◎「加入している」が27.7%

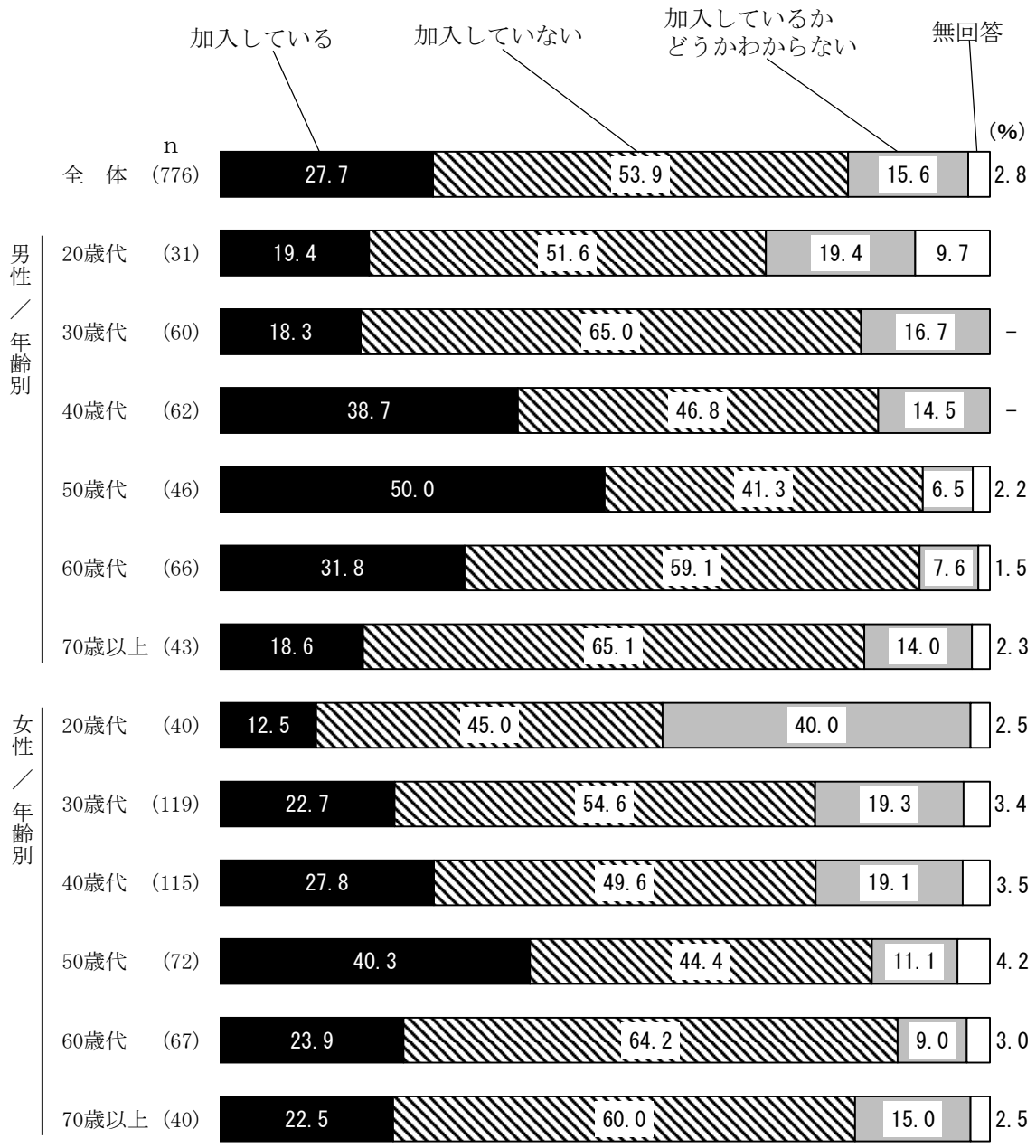
問14　（問８で自転車を「１　利用している」と回答した方にうかがいます。）
自転車事故の加害者になった場合に保険に加入していないと、多大な損害賠償を支払わなければならないことがあります。
あなたは、自転車事故を対象とした損害賠償責任保険等に加入していますか。（○は１つだけ）

図表２－13　損害賠償責任保険等への加入状況



自転車事故に備え、損害賠償責任保険等に加入しているか尋ねたところ、「加入している」が27.7%となっている。一方、「加入していない」は53.9%と多くなっている。（図表２－13）

図表２－14　損害賠償責任保険等への加入状況（性／年齢別）



性／年齢別では、「加入している」は、男性は 40 歳代（38.7%）、50 歳代（50.0%）で、女性は 50 歳代（40.3%）で多くなっている。「加入していない」は、男性では 70 歳以上で、女性では 60 歳代、70 歳以上で多くなり、６割を超える。（図表２－14）

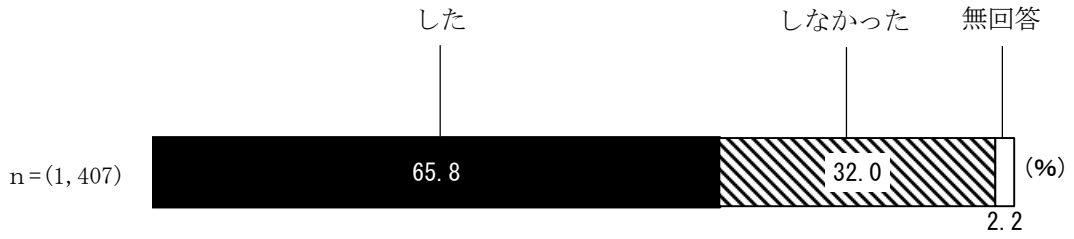
３　スポーツについて

３－１　過去１年間のスポーツの実施状況

◎過去１年間でスポーツを「した」は６５.８％

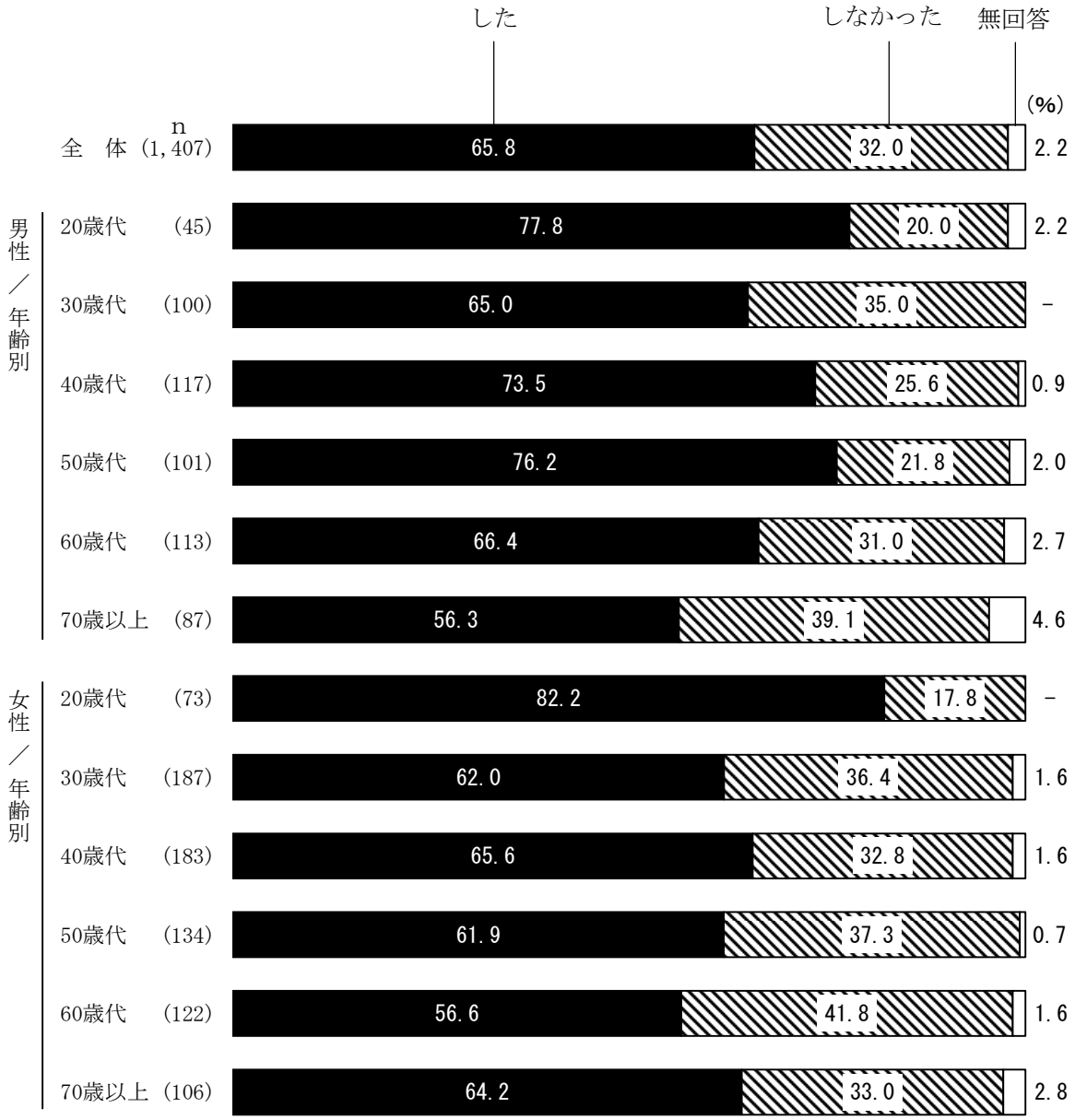
問 15　“する”スポーツについてお聞きします。あなたは、過去１年間にスポーツをしましたか。
（○は１つだけ）

図表３－１　過去１年間のスポーツの実施状況



過去１年間にスポーツを「した」人は、およそ７割となっている。（図表３－１）

図表３－２　過去１年間のスポーツの実施状況（性／年齢別）



性／年齢別では、この１年間にスポーツを「した」と回答したのは、男性の 20 歳代（77.8%）、40 歳代（73.5%）、50 歳代（76.2%）で多く、女性も同様に 20 歳代（82.2%）、40 歳代（65.6%）が多い傾向にある。

また、高齢者層においては、女性は 70 歳以上（64.2%）が、男性は 60 歳代（66.4%）がスポーツを「した」と回答する人が多い。（図表３－２）

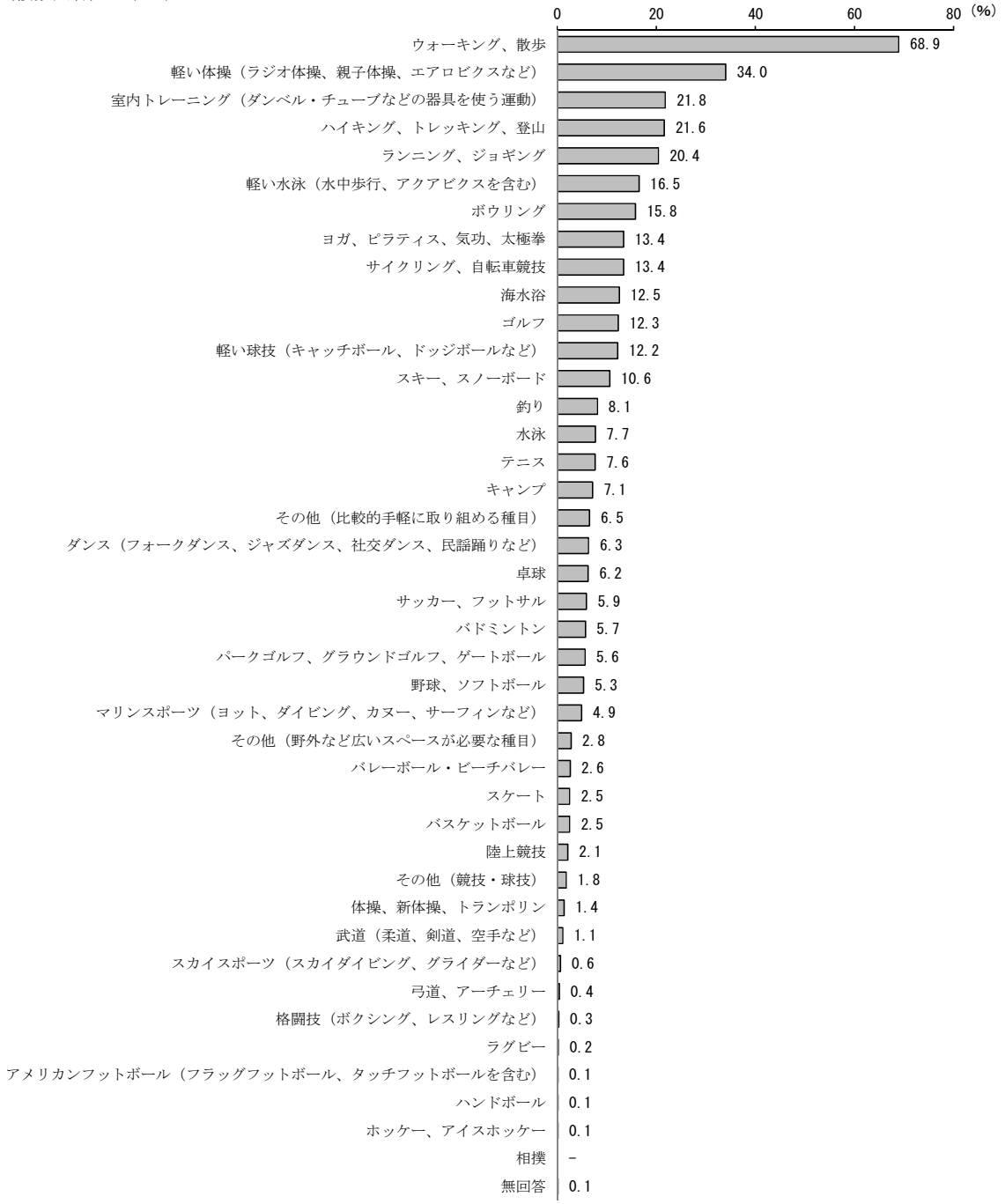
３－２　具体的なスポーツ種目

◎「ウォーキング、散歩」が６８.９％

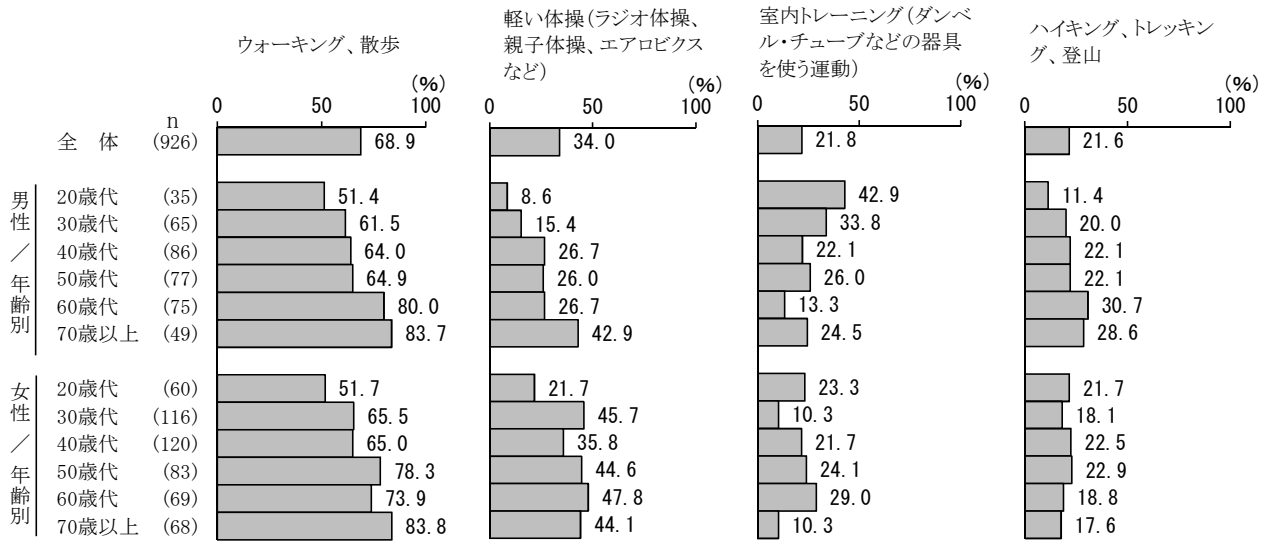
問 15－１　（問 15 で過去１年間にスポーツを「１　した」と回答した方にうかがいます。）
具体的にどのようなスポーツをしましたか。下記の中からいくつでもお選びください。
（あてはまるもの全てに○）

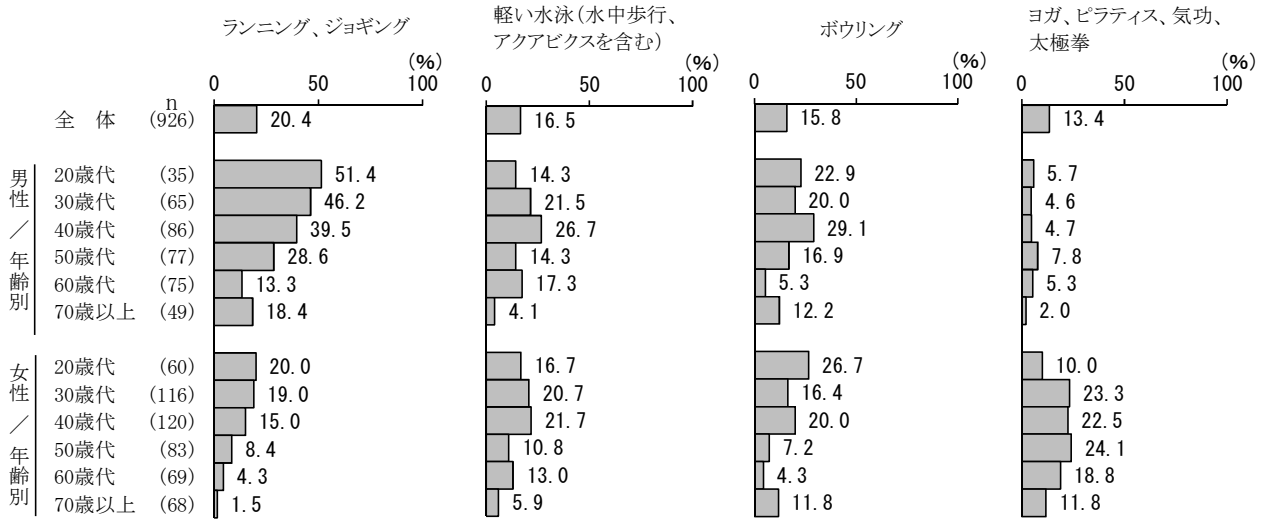
図表３－３　具体的なスポーツ種目

（複数回答）n=(926)



図表３－４　具体的なスポーツ種目（性／年齢別、上位８項目）





過去１年間にスポーツをしたと答えた 926 人に、そのスポーツ種目について尋ねた。「ウォーキング、散歩」（68.9%）が最も多くなっている。続いて、「軽い体操（ラジオ体操、親子体操、エアロビクスなど)」（34.0%)、「室内トレーニング（ダンベル・チューブなどの器具を使う運動)」（21.8%)、「ハイキング、トレッキング、登山」（21.6%）の順であった。（図表３－３）

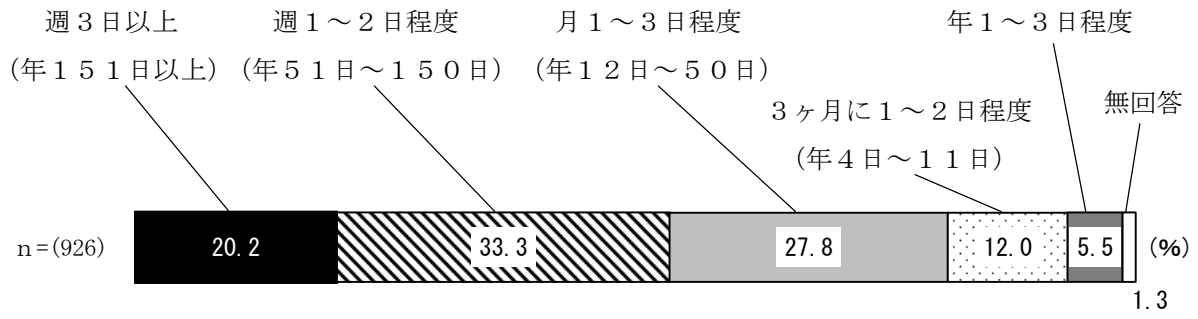
性／年齢別では、男女ともに「ウォーキング、散歩」が多いが、年齢を問わず、女性は「軽い体操（ラジオ体操、親子体操、エアロビクスなど)」を好み、男性は「ランニング、ジョギング」を好む傾向にある。（図表３－４）

３－３　１年間にスポーツをした日数・頻度

◎「週１～２日程度」が３３.３％

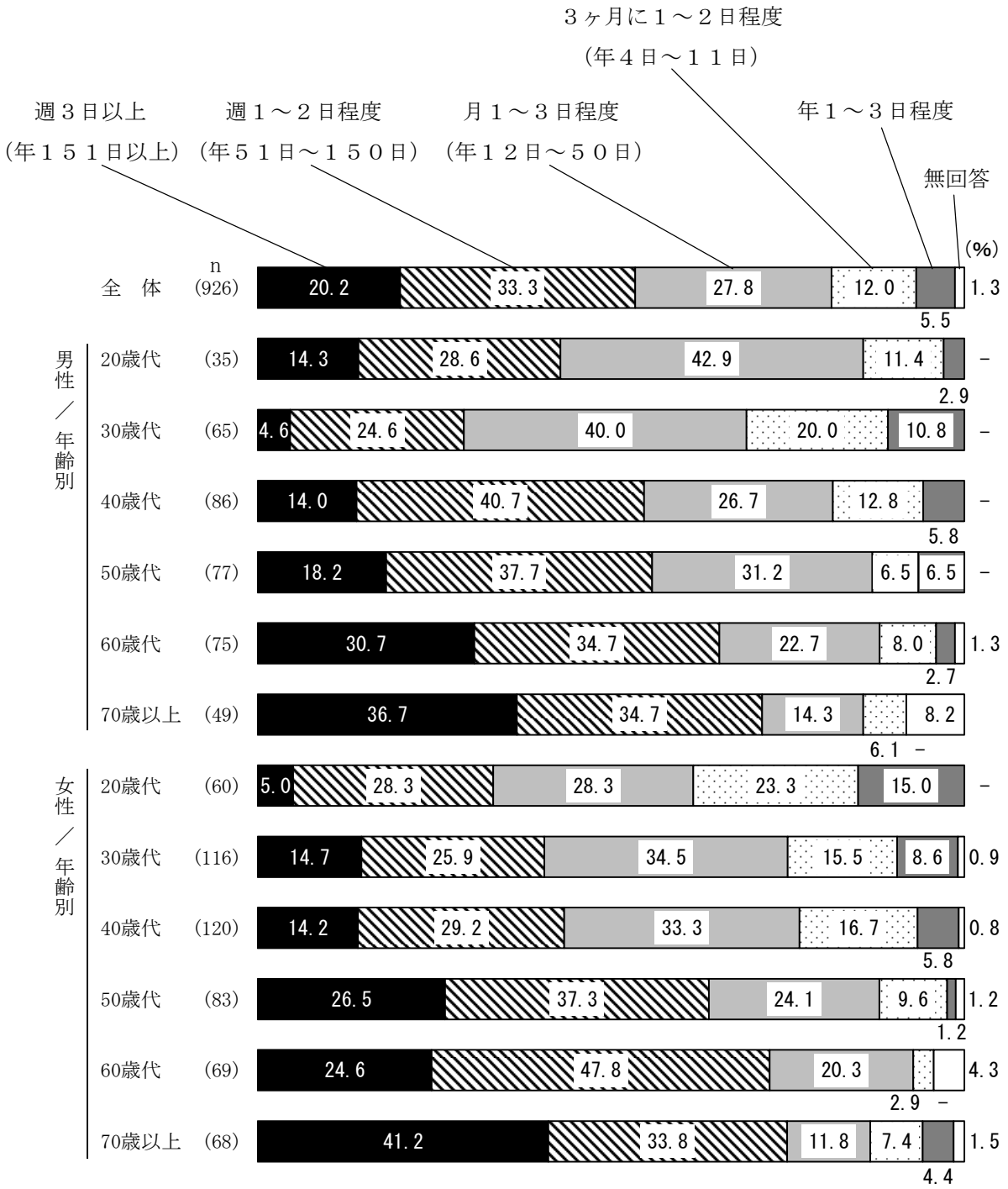
問 15－２　（問 15 で過去１年間にスポーツを「１　した」と回答した方にうかがいます。）
スポーツをした日数を全て合わせると、１年間で何日くらいになりますか。
（○は１つだけ）

図表３－５　１年間にスポーツをした日数・頻度



過去１年間にスポーツをしたと答えた人に、その日数・頻度を尋ねた。「週３日以上（年１５１日以上)」(20.2%)、「週１～２日程度（年５１日～１５０日)」(33.3%）を合わせ、スポーツをする人の５割以上は週に何日かスポーツをしている。(図表３－５)

図表３－６　１年間にスポーツをした日数・頻度（性／年齢別）



性／年齢別では、男女ともに、年齢層が上がるにつれ「週３日以上（年１５１日以上）」の比率が高まる傾向にある。（図表３－６）

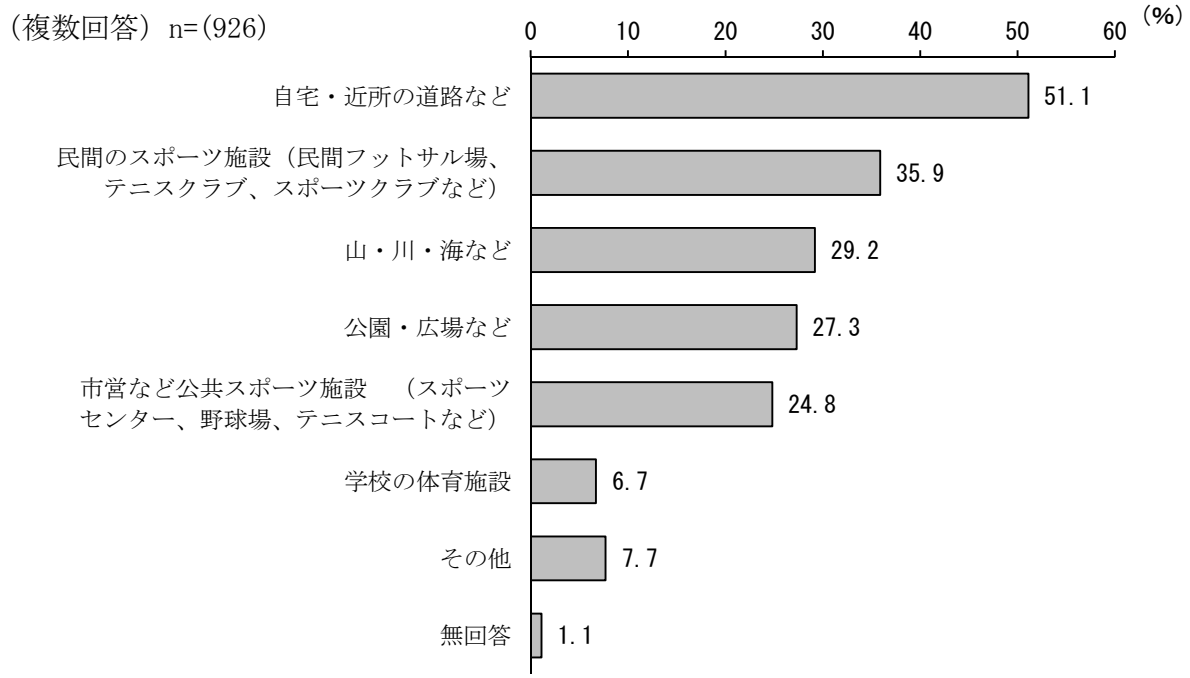
（第１回アンケート）

３－４　スポーツをする場所

◎「自宅・近所の道路など」が51.1％

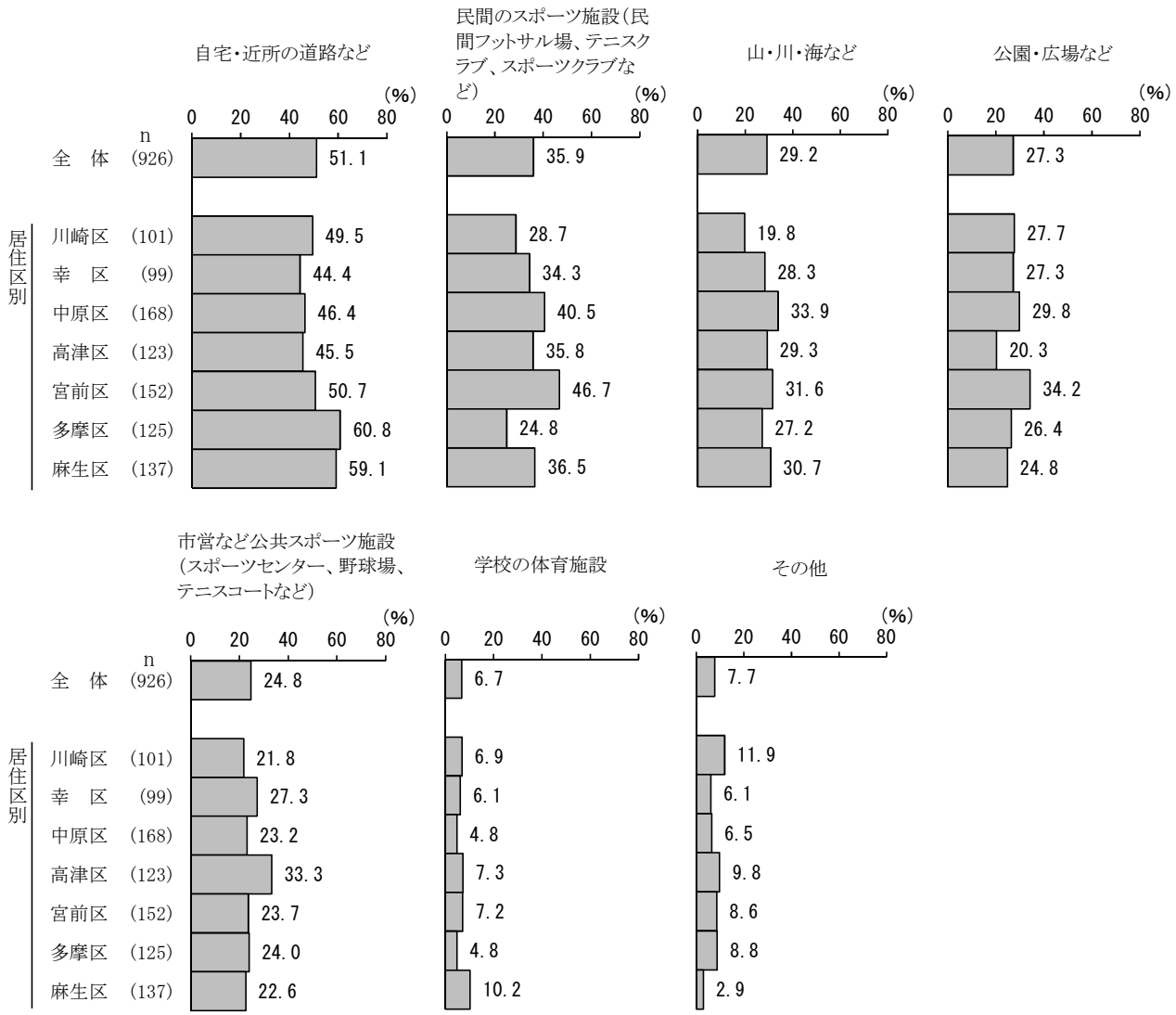
問 15－３　（問 15 で過去１年間にスポーツを「１　した」と回答した方にうかがいます。）
どのような場所でスポーツをしましたか。（あてはまるもの全てに○）

図表３－７　スポーツをする場所



スポーツをする主な場所は、「自宅・近所の道路など」が最も多く 51.1％であった。次いで、「民間のスポーツ施設（民間フットサル場、テニスクラブ、スポーツクラブなど)」(35.9％)、「山・川・海など」(29.2％）の順となっている。（図表３－７）

図表３－８　スポーツをする場所（居住区別）



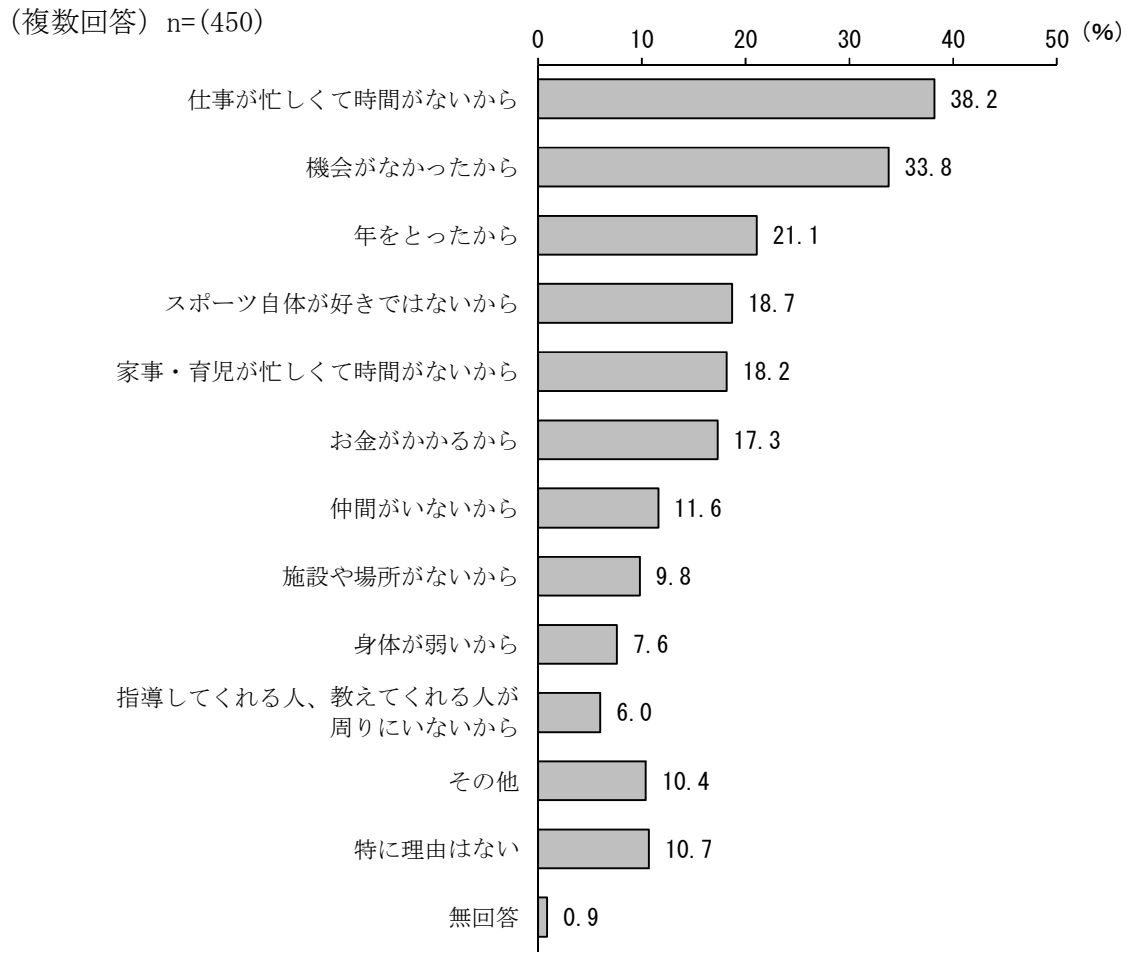
居住区別では、「自宅・近所の道路など」でスポーツを行っている割合が、特に多摩区（60.8%）、麻生区（59.1%）で多い。また宮前区では「民間のスポーツ施設（民間フットサル場、テニスクラブ、スポーツクラブなど）」（46.7%）が多い傾向にある。（図表３－８）

３－５　スポーツをしない理由

◎「仕事が忙しくて時間がないから」が 38.2%

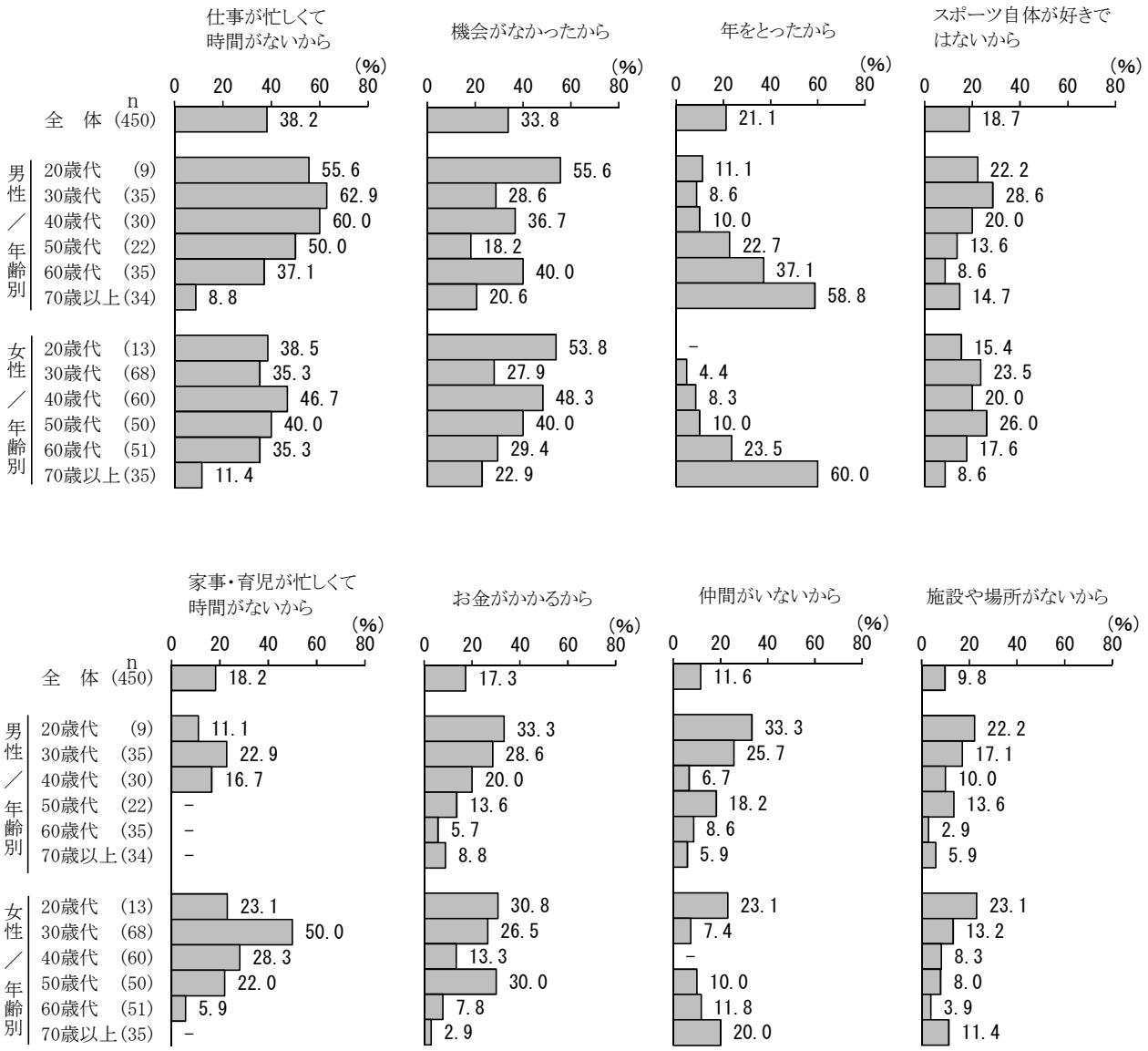
問 15－４　（問 15 で過去１年間にスポーツを「２　しなかった」と回答した方にうかがいます。）
スポーツをしなかったのはどのような理由からですか。（あてはまるもの全てに○）

図表３－９　スポーツをしない理由



スポーツをしていないと答えた 450 人に、その理由を尋ねた。主な理由として、「仕事が忙しくて時間がないから」（38.2%）、「機会がなかったから」（33.8%）を挙げる人が多く、次いで、「年をとったから」（21.1%）となっている。（図表３－９）

図表３－10　スポーツをしない理由（性／年齢別、上位８項目）



性／年齢別では、男性の 30 歳代から 40 歳代にかけては、「仕事が忙しくて時間がないから」が多い。同じく女性の 30 歳代から 40 歳代は「家事・育児が忙しくて時間がないから」と理由に挙げる割合が、他の年齢層に比べ多くなっている。（図表３－10）

３－６　競技場等で観戦したスポーツ

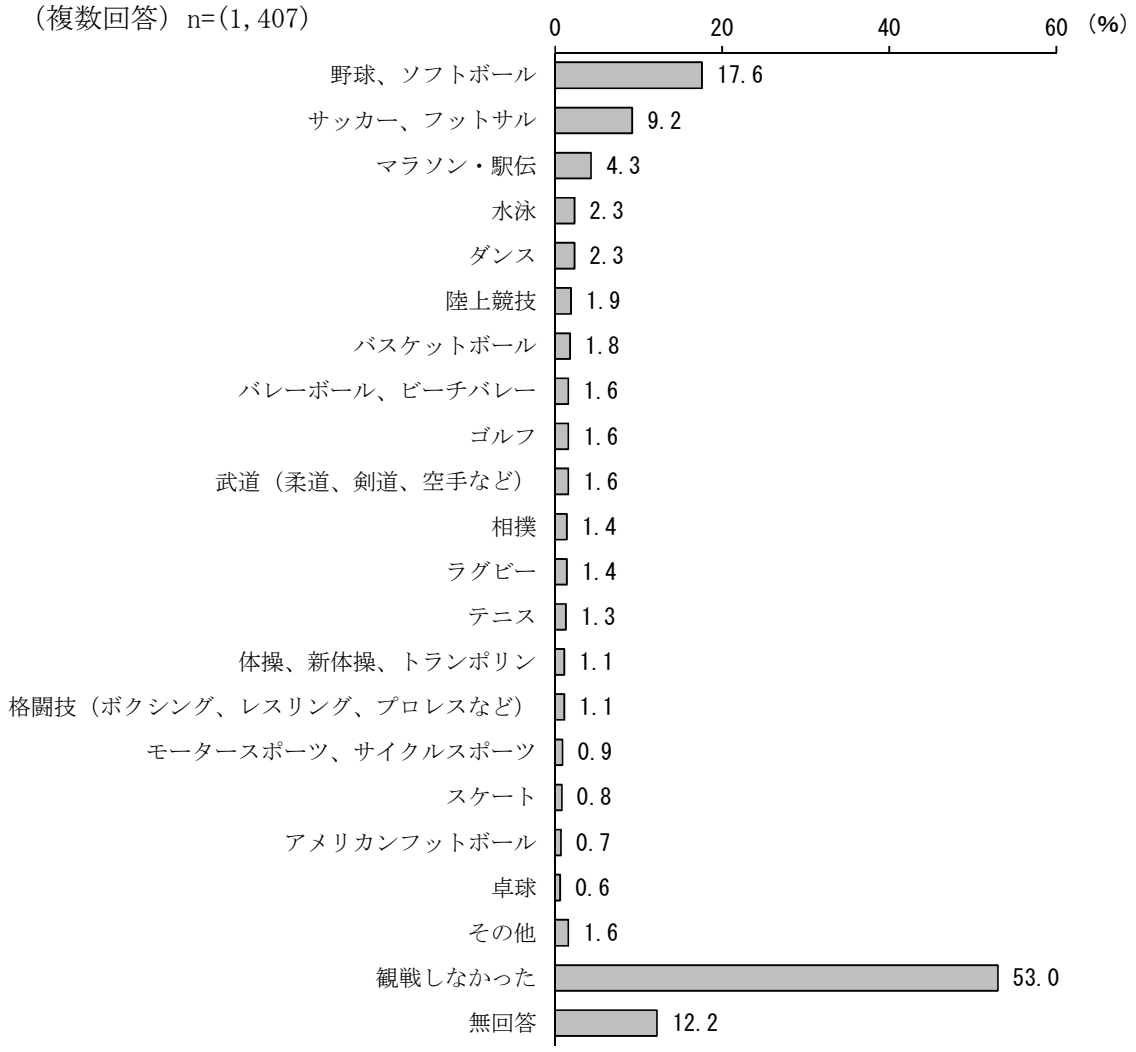
◎「野球、ソフトボール」が 17.6%

問 16　スポーツ観戦についてうかがいます。

あなたは、過去１年間で実際に競技場など（スタジアム・沿道・学校等）でスポーツを直接観戦しましたか。観戦した種目を下記の中からいくつでもお選びください。（あてはまるもの全てに○）

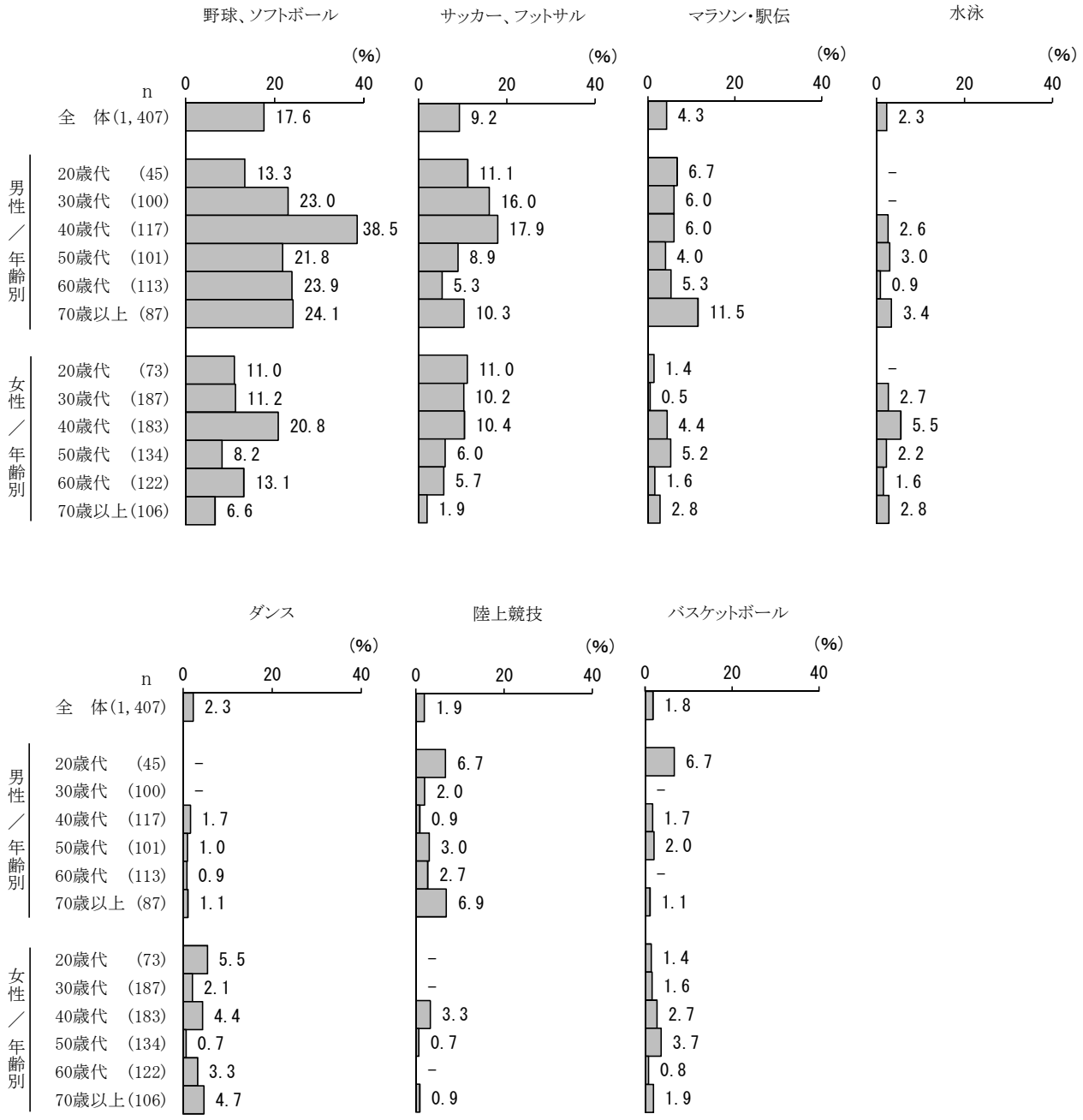
※観戦したスポーツの対象は、プロスポーツや実業団等のアマチュアスポーツのほか、子どもの部活動や地域のスポーツ大会などを含めてお答えください。

図表３－11　競技場等で観戦したスポーツ



競技場などで観戦した主な種目は、「野球、ソフトボール」(17.6%)、「サッカー、フットサル」(9.2%）の順である。一方、「観戦しなかった」は 53.0%となっている。(図表３－11)

図表３－12　競技場等で観戦したスポーツ（性／年齢別、上位７項目）



性／年齢別では、全体的に男性がスポーツ観戦を好む傾向にある。

また 40 歳代の男女は、他の年齢層と比べ、ともに「野球、ソフトボール」を観戦した割合が多い。（図表３－12）

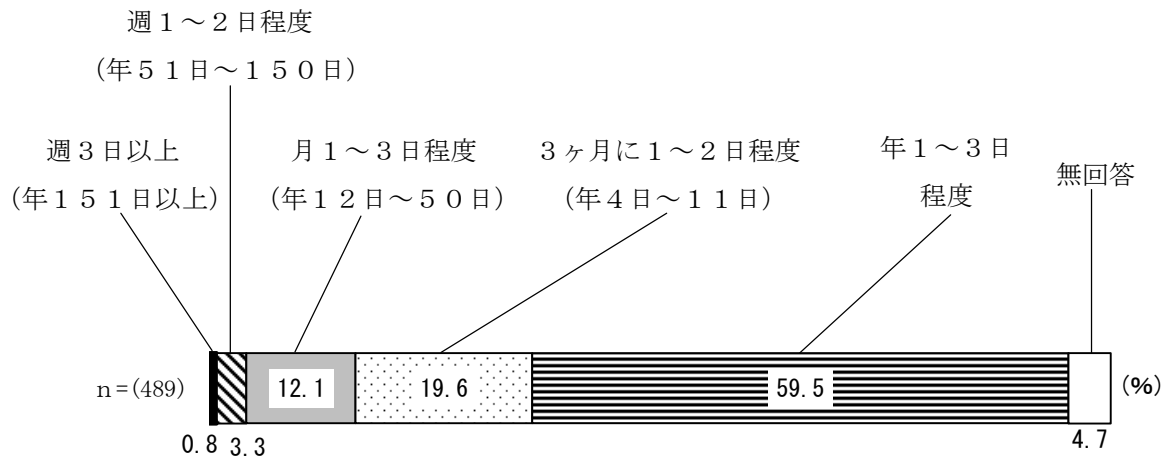
（第１回アンケート）

３－７　競技場等でのスポーツ観戦日数・頻度

◎「年１～３日程度」が５９.５％

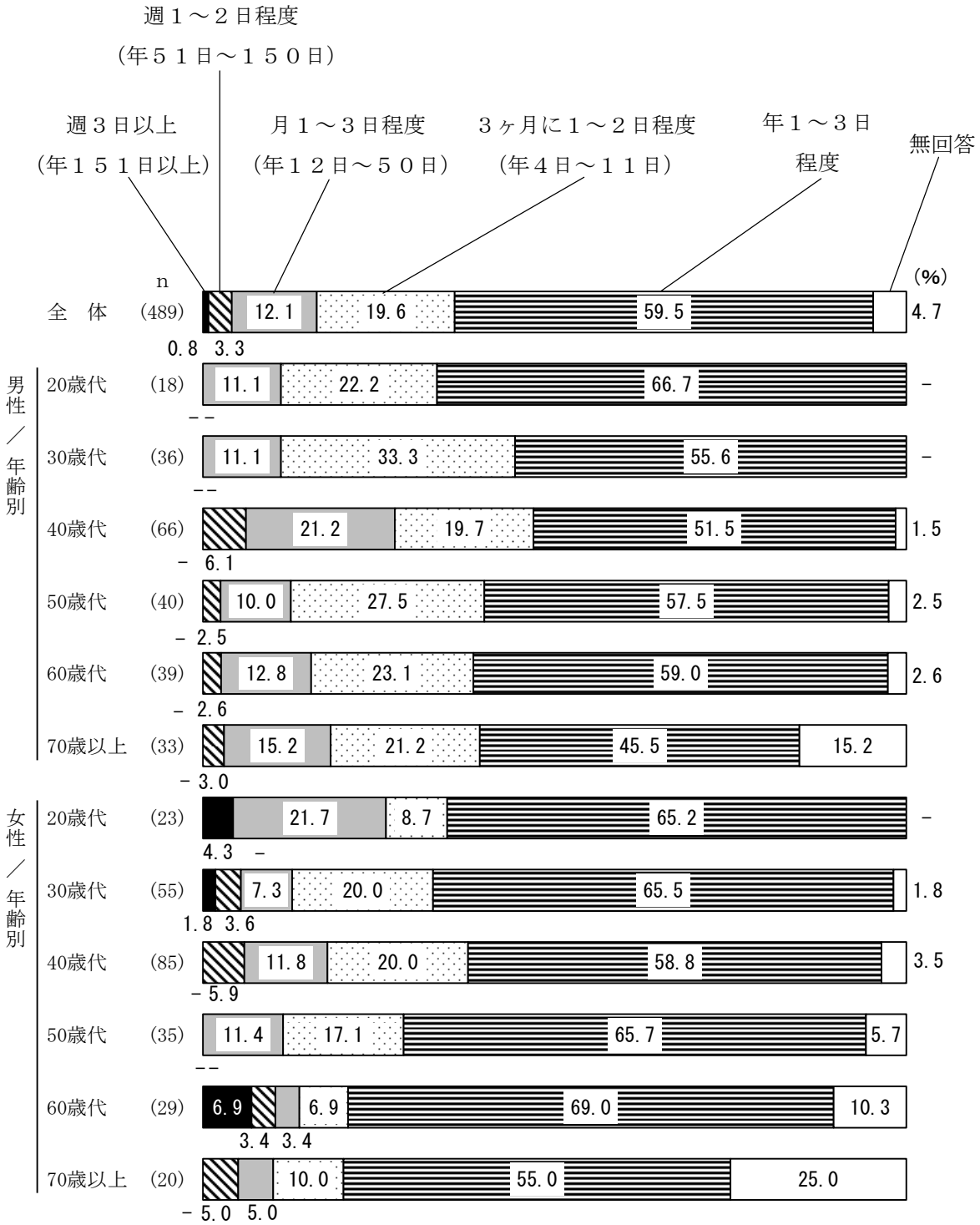
問 16－１　（問 16 で「競技場などでスポーツを観戦した」と回答した方にうかがいます。）
競技場などで直接観戦した日数を全て合わせると、過去１年間で何日くらいになりますか。（○は１つだけ）

図表３－13　競技場等でのスポーツ観戦日数・頻度



競技場などでスポーツを観戦したと答えた 489 人に、その日数・頻度を尋ねた。直接観戦した日数は、「年１～３日程度」が最も多く６割であった。（図表３－13）

図表３－14　競技場等でのスポーツ観戦日数・頻度（性／年齢別）



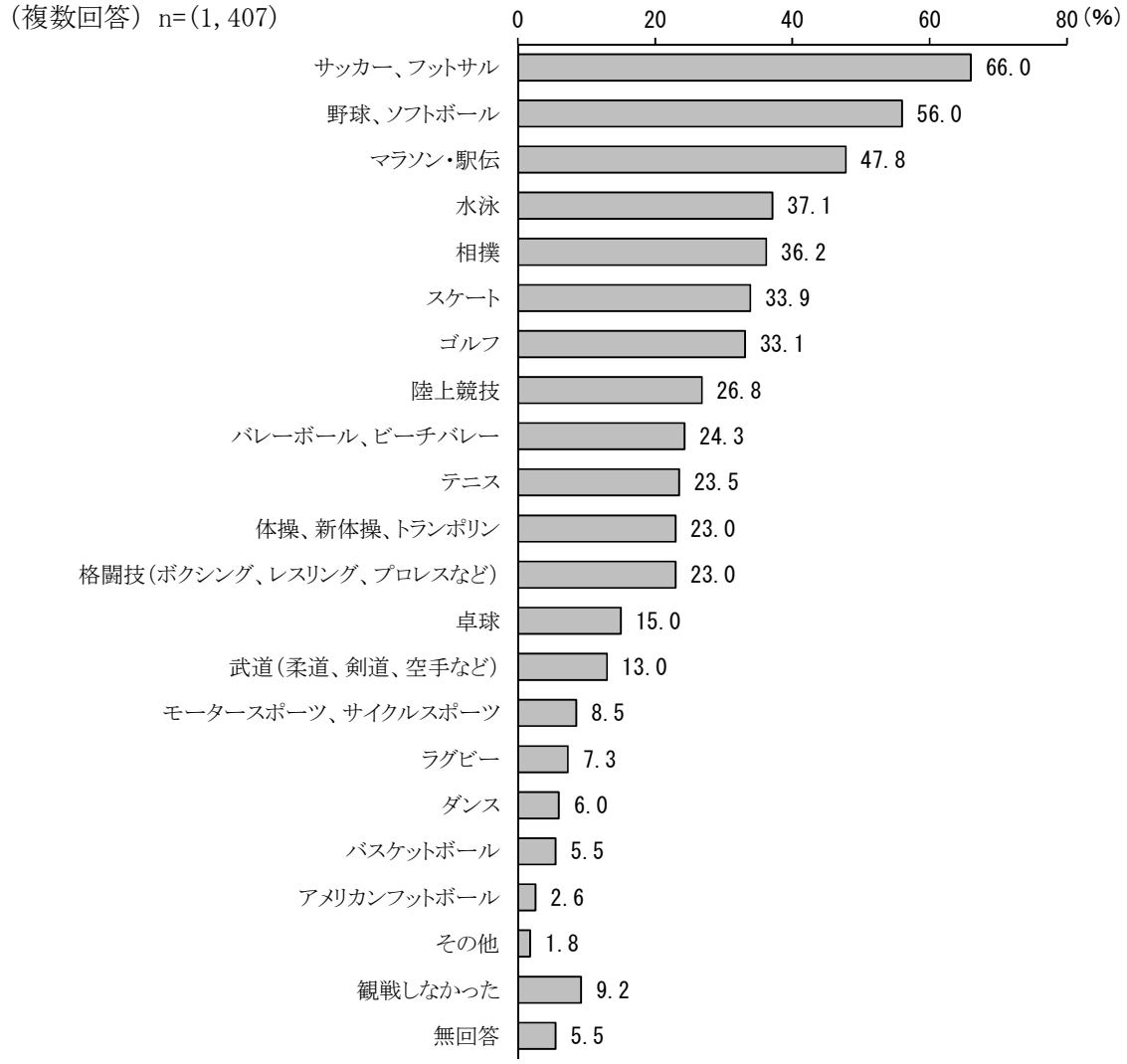
性／年齢別では、30 歳代の男性の「３ヶ月に１～２日程度（年４日～１１日）」(33.3%)、20 歳代の女性の「月１～３日程度（年１２日～５０日）」(21.7%）が、他の年齢層に比べ多い傾向にある。(図表３－14)

３－８　テレビ等で観戦したスポーツ

◎「サッカー、フットサル」が６６.０％

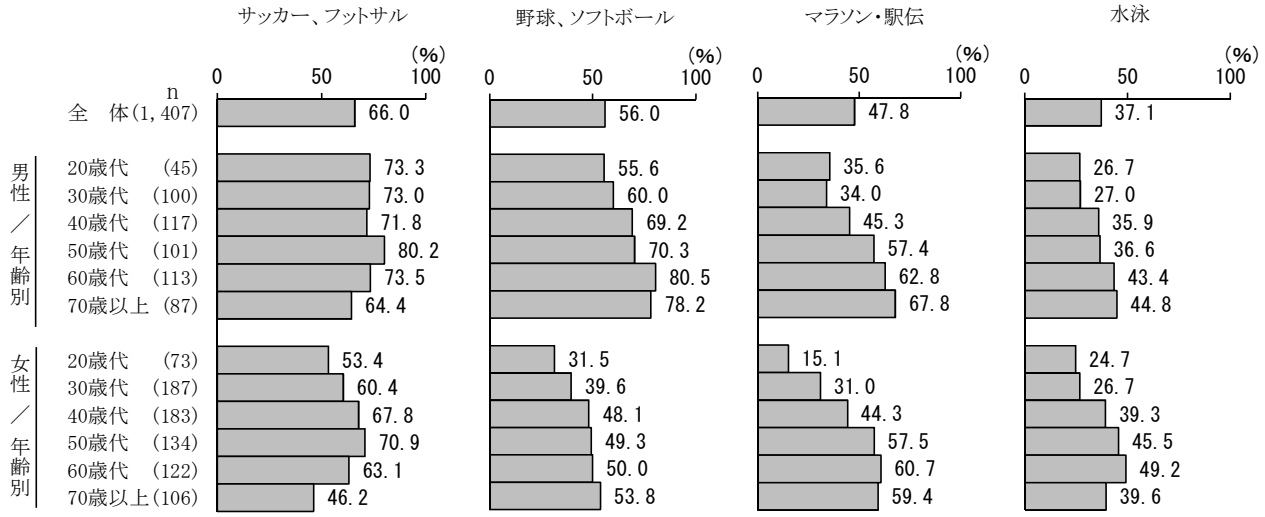
問 17　続いて、テレビなどでのスポーツ観戦についてうかがいます。
あなたは、過去１年間にスポーツの試合や大会をテレビやラジオ、インターネットなどで観戦しましたか。観戦した種目を下記の中からいくつでもお選びください。（あてはまるもの全てに○）
※　観戦したスポーツの対象は、プロスポーツや実業団等のアマチュアスポーツのほか、子どもの部活動などを含めてお答えください。

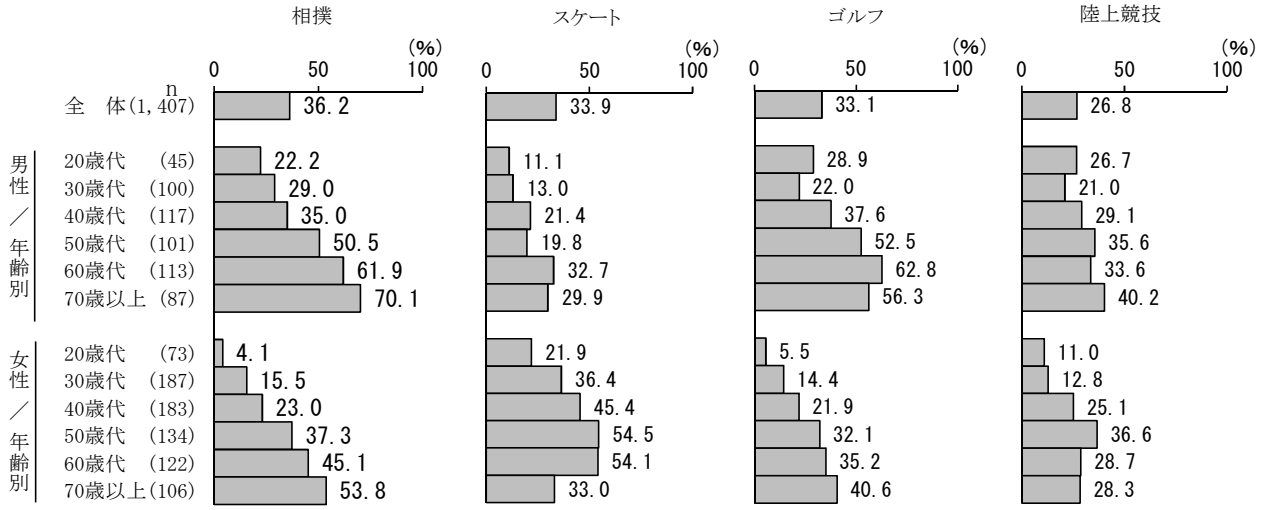
図表３－15　テレビ等で観戦したスポーツ



テレビなどで観戦した種目は「サッカー、フットサル」がおよそ７割と最も多い。次いで、「野球、ソフトボール」（56.0％）、「マラソン・駅伝」（47.8％）の順となっている。（図表３－15）

図表３－16 テレビ等で観戦したスポーツ（性/年齢別、上位８項目）





性／年齢別では、「サッカー、フットサル」や「野球、ソフトボール」については、比較的年齢層を問わず観戦率が高い。その一方で、「マラソン・駅伝」や「相撲」については、男女ともに比較的若い世代では観戦率は低いが、年齢層が上がるにつれ観戦率が高まる傾向にある。(図表３－16)

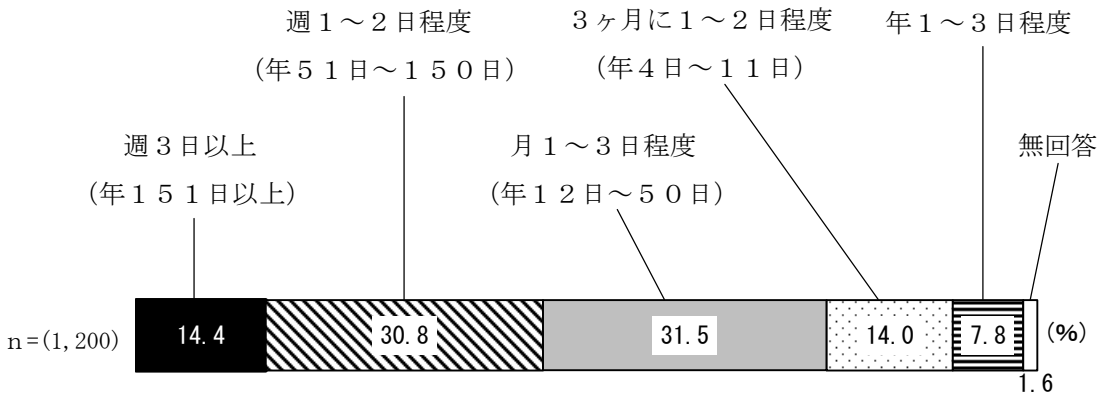
（第１回アンケート）

３－９　テレビ等でのスポーツ観戦日数・頻度

◎「週１～2 日程度」、「月１～３日程度」が３割

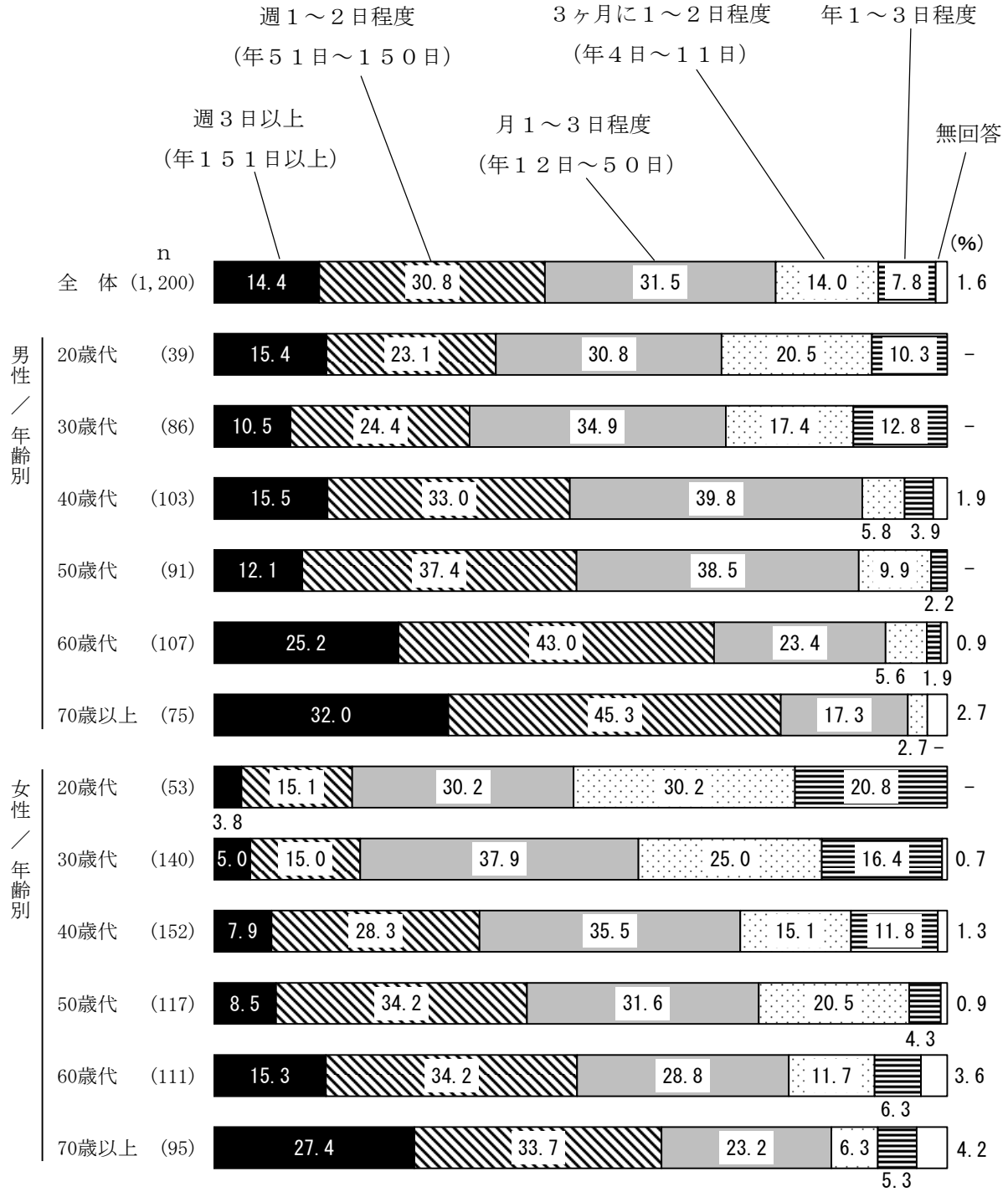
問 17－１（問 17 で「テレビなどでスポーツを観戦した」と回答した方にうかがいます。）
テレビなどで観戦した日数を全て合わせると、過去１年間で何日くらいになりますか。
（○は１つだけ）

図表３－17　テレビ等でのスポーツ観戦日数・頻度



テレビなどでスポーツを観戦したと答えた 1,200 人に、その日数・頻度を尋ねた。テレビ等での観戦日数は、「週１～２日程度（年５１日～１５０日）」、「月１～３日程度（年１２日～５０日）」がともに３割となっている。（図表３－17）

図表３－18　テレビ等でのスポーツ観戦日数・頻度（性／年齢別）



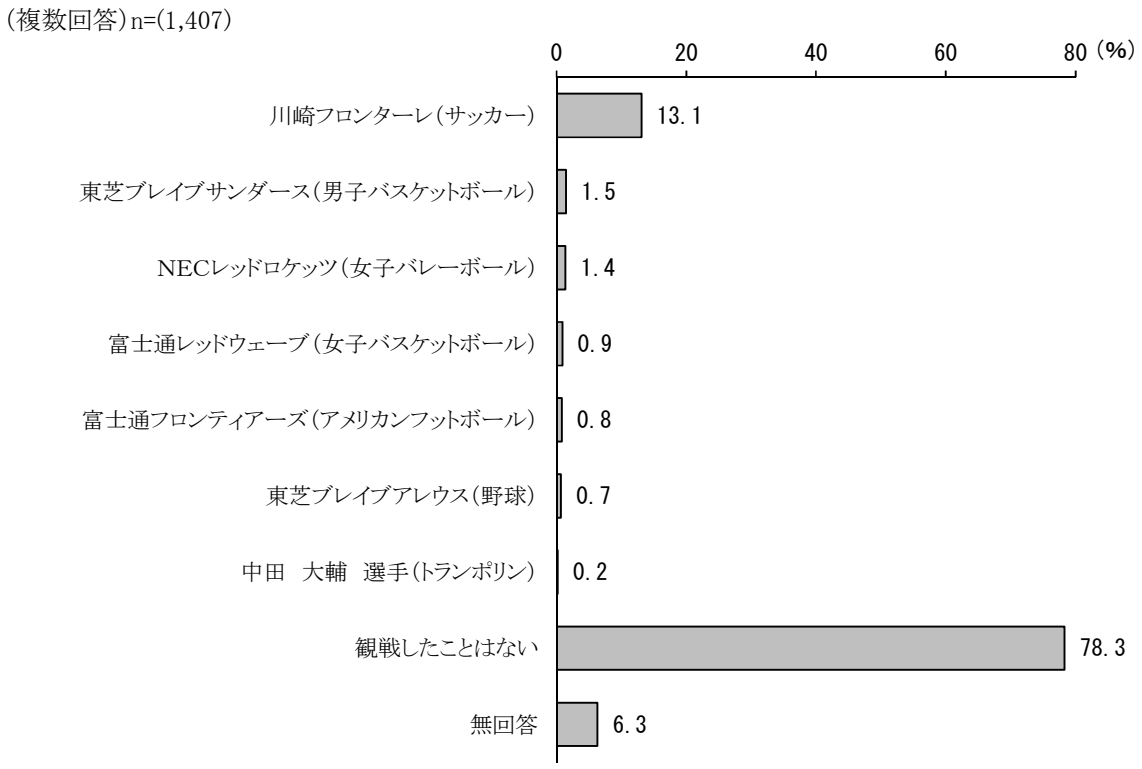
性／年齢別では、男女ともに年齢層が上がるにつれて「週３日以上（年１５１日以上）」、「週１～２日程度（年５１日～１５０日）」が増加する傾向にある。（図表３－18）

３－10　川崎市を拠点にしたチーム・アスリートの試合観戦経験

◎「川崎フロンターレ」が 13.1％

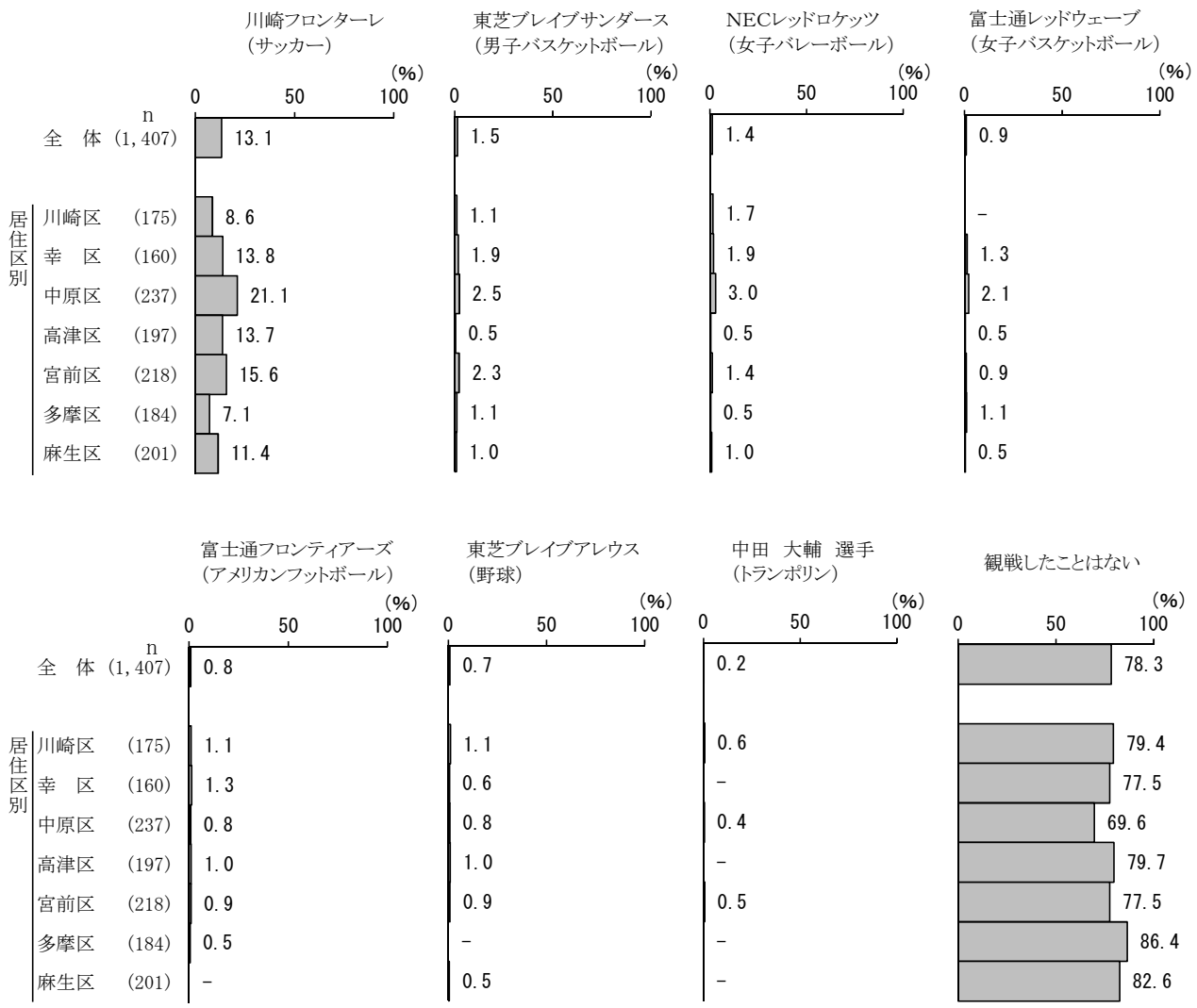
問 18　川崎市では、市内を拠点にトップレベルで活躍するチームやアスリートを「かわさきスポーツパートナー」「かわさきトップアスリート」として認定し、試合への市民招待などを行っています。あなたは、これまで下記のチームや選手の試合・競技を競技場で直接観戦したことはありますか。（あてはまるもの全てに○）

図表３－19　川崎市を拠点にしたチーム・アスリートの試合観戦経験



川崎市を拠点としたチーム・アスリートの試合をこれまで観戦したことがあるか尋ねた。「川崎フロンターレ（サッカー）」は 13.1％であったが、およそ 8 割は「観戦したことはない」と回答している。（図表３－19）

図表３－20　川崎市を拠点にしたチーム・アスリートの試合観戦経験（居住区別）



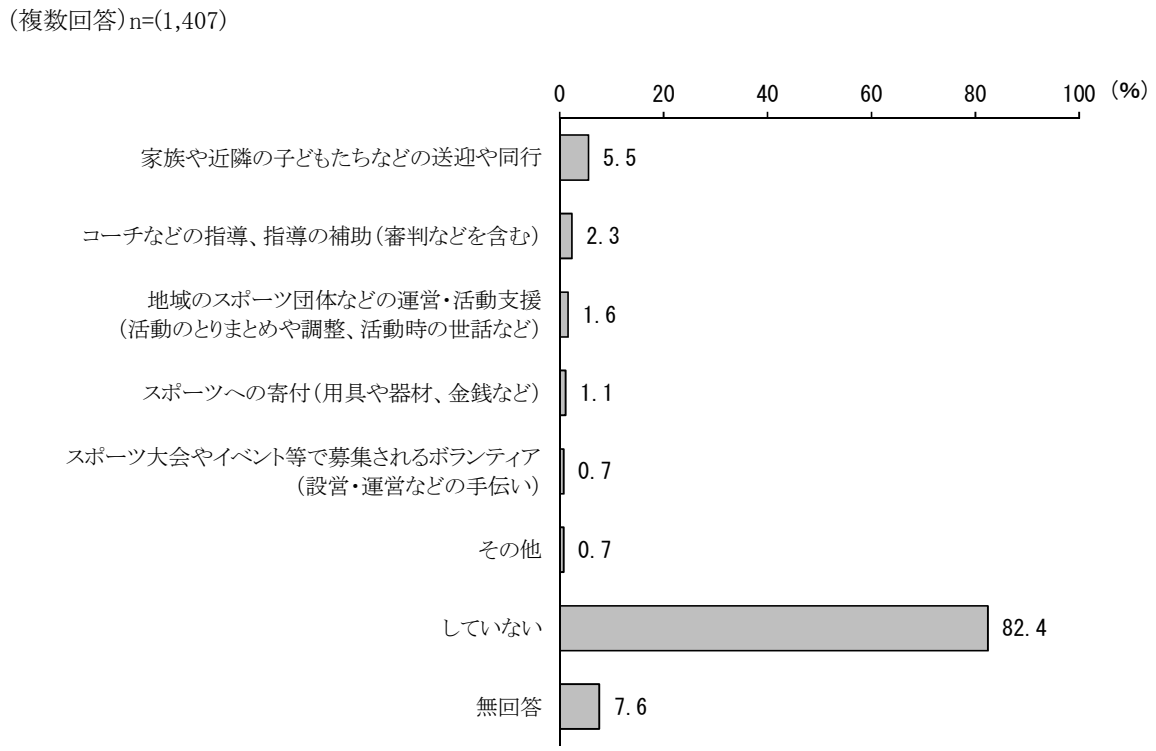
居住区別では、中原区は、各チーム・アスリートの試合を観戦したことがある率が全般的に高い。（図表３－20）

３－11　スポーツを“支える”活動への関わり

◎スポーツを支える活動は「していない」が 82.4％

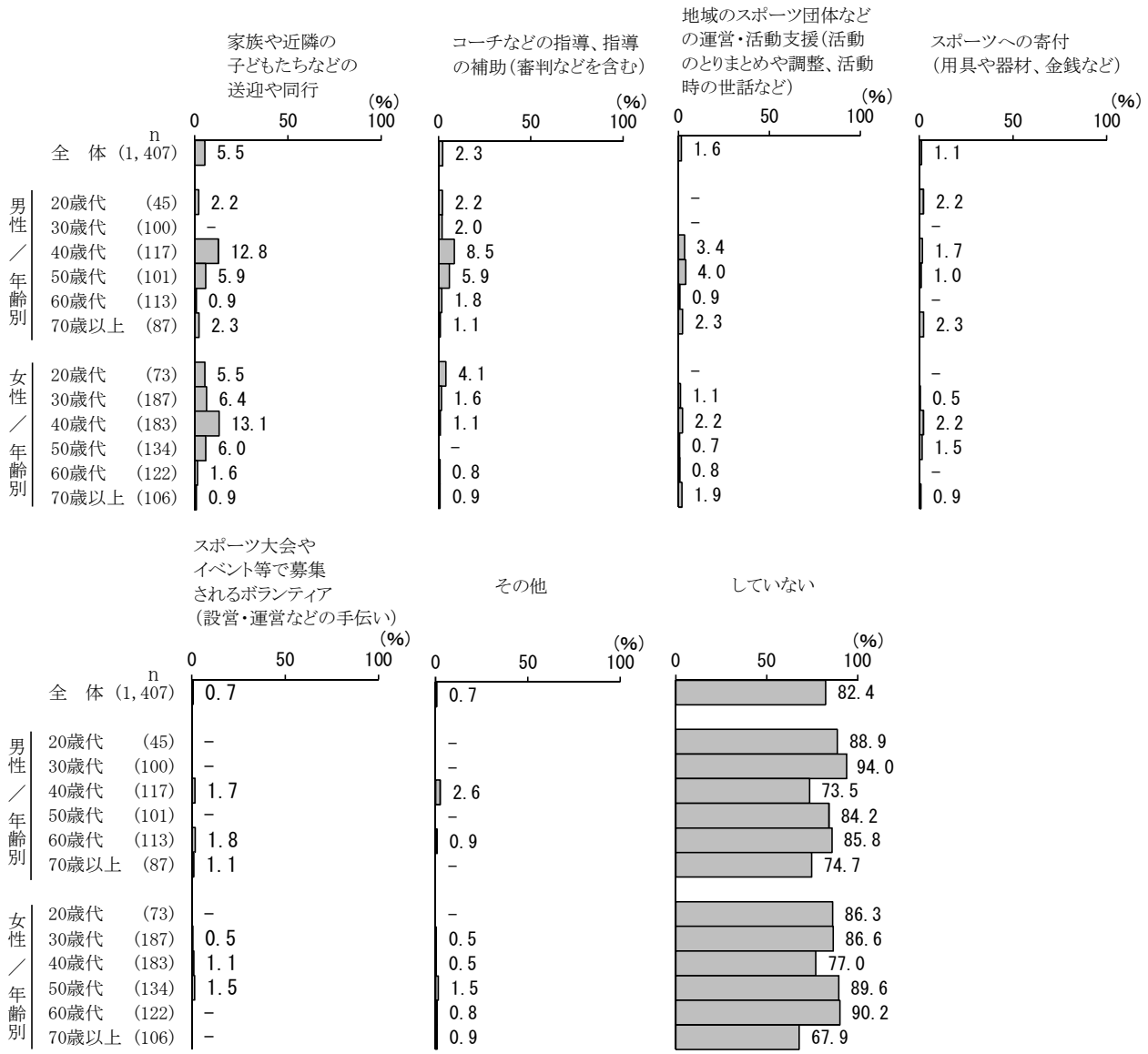
問 19　スポーツを“支える”活動についてうかがいます。
この中に、過去１年間であなたが関わったスポーツを支える活動があれば、全てお選びください。（あてはまるもの全てに○）

図表３－21　スポーツを“支える”活動への関わり



スポーツを“支える”活動に携わっているか尋ねたが、「していない」が 82.4％となった。一方、携わっている人は、主に「家族や近隣の子どもたちなどの送迎や同行」（5.5％）、「コーチなどの指導、指導の補助（審判などを含む）」（2.3％）などであった。（図表３－21）

図表３－22　スポーツを“支える”活動への関わり（性／年齢別）



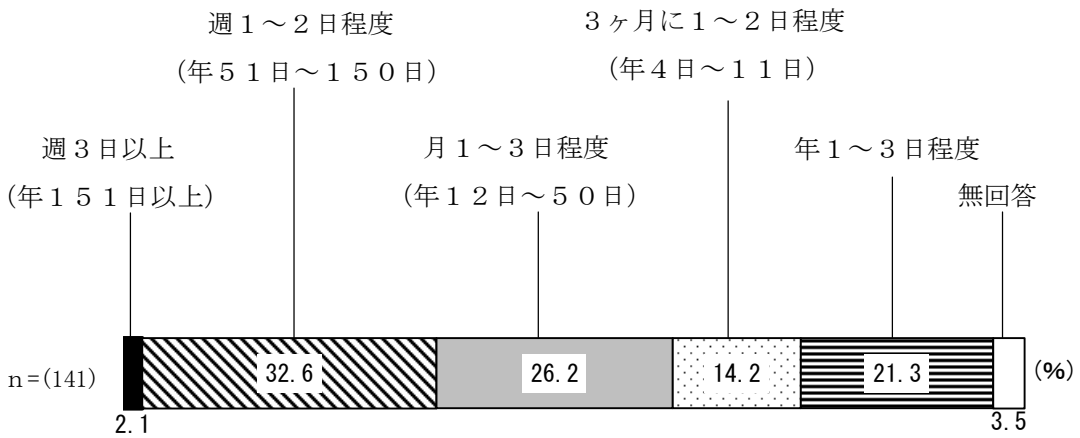
性／年齢別では、男女ともに 40 歳代が「家族や近隣の子どもたちなどの送迎や同行」を挙げている。（図表３－22）

３－12　スポーツを“支える”活動への参加日数・頻度

◎「週１～２日程度」が３２.６％

問 19－１　（問 19 で「スポーツを支える活動をした」と回答した方にうかがいます。）
過去１年間でスポーツを“支える”活動を行った日数を全て合わせると、何日くらいになりますか。（○は１つだけ）

図表３－23　スポーツを“支える”活動への参加日数・頻度



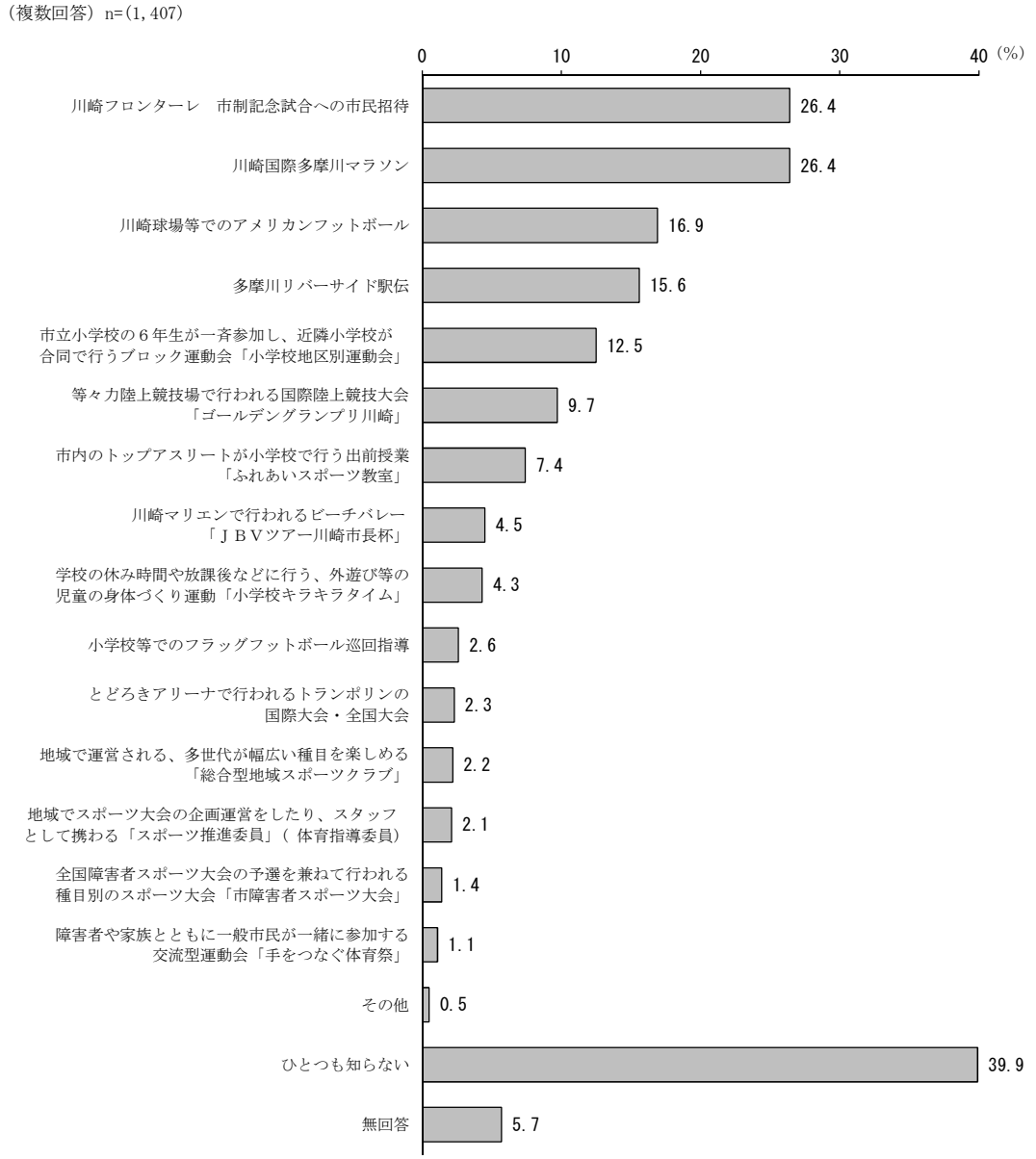
スポーツを“支える”活動をしたと答えた 141 人に、活動を行った日数・頻度を尋ねた。「週１～２日程度（年５１日～１５０日）」(32.6%)、「月１～３日程度（年１２日～５０日）」(26.2%)、「年１～３日程度」（21.3%）の順となっている。（図表３－23）

３－13　川崎市が推進するスポーツ事業・イベントの認知度

◎「川崎フロンターレ　市制記念試合への市民招待」、「川崎国際多摩川マラソン」が 26.4%

問 20　あなたは、市がこれまで進めてきた主なスポーツ事業・イベントについて、どのようなものを知っていますか。次のうち知っているものをお選びください。（あてはまるもの全てに○）

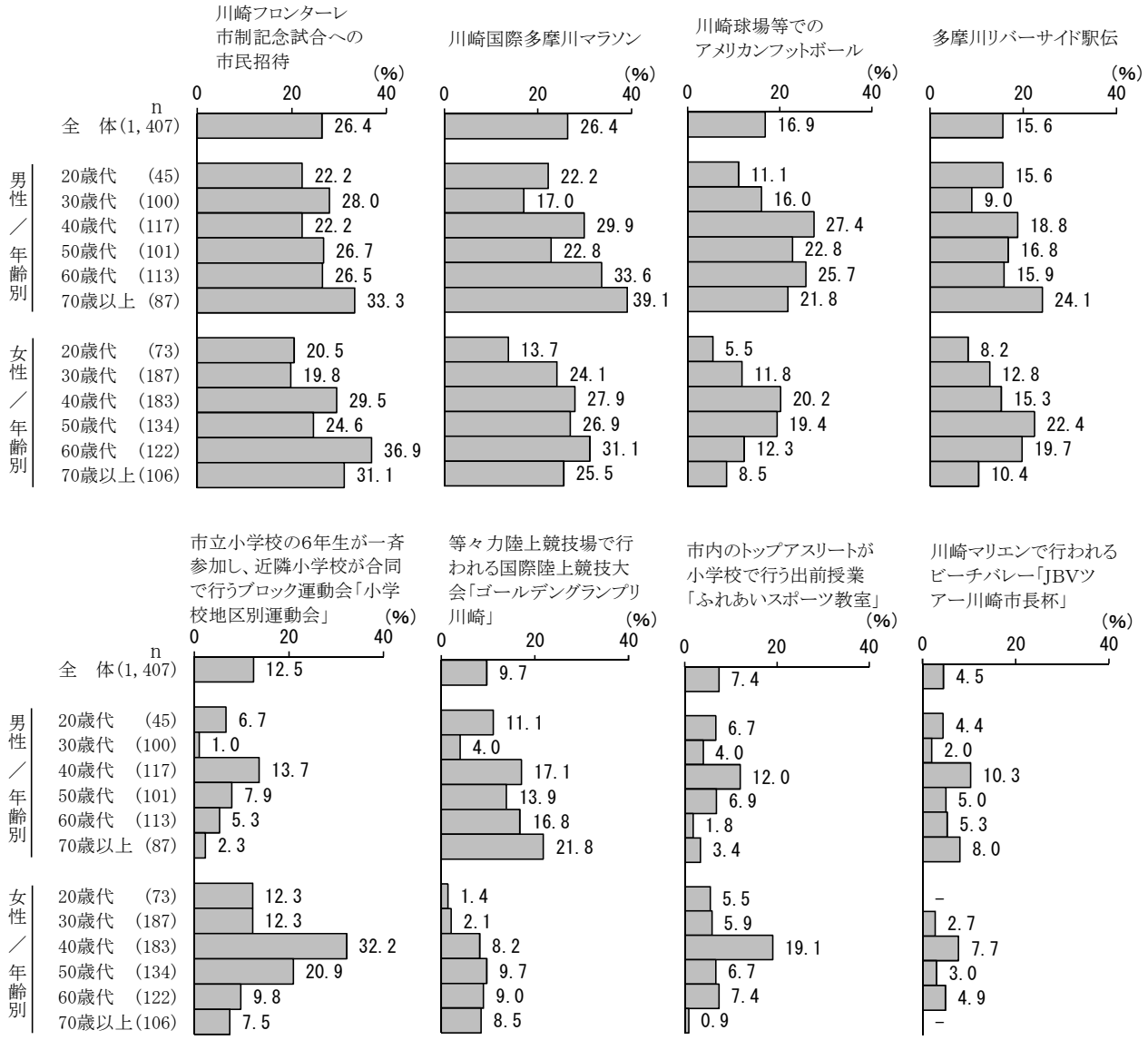
図表３－24　川崎市が推進するスポーツ事業・イベントの認知度



川崎市が推進するスポーツ事業等で知っているものは､｢川崎フロンターレ市制記念試合への市民招待｣､「川崎国際多摩川マラソン」がともに 26.4%であった。一方、「ひとつも知らない」はおよそ４割となっている。（図表３－24）

（第１回アンケート）

図表３－25 川崎市が推進するスポーツ事業・イベントの認知度（性／年齢別、上位８項目）



性／年齢別では、子どもに関する２つの事業「市立小学校の６年生が一斉参加し、近隣小学校が合同で行うブロック運動会『小学校地域別運動会』」、「市内のトップアスリートが小学校で行う出前授業『ふれあいスポーツ教室』」については、他の年齢層に比べ男女ともに 40 歳代が “知っている” 人が多くなっている。（図表３－25）

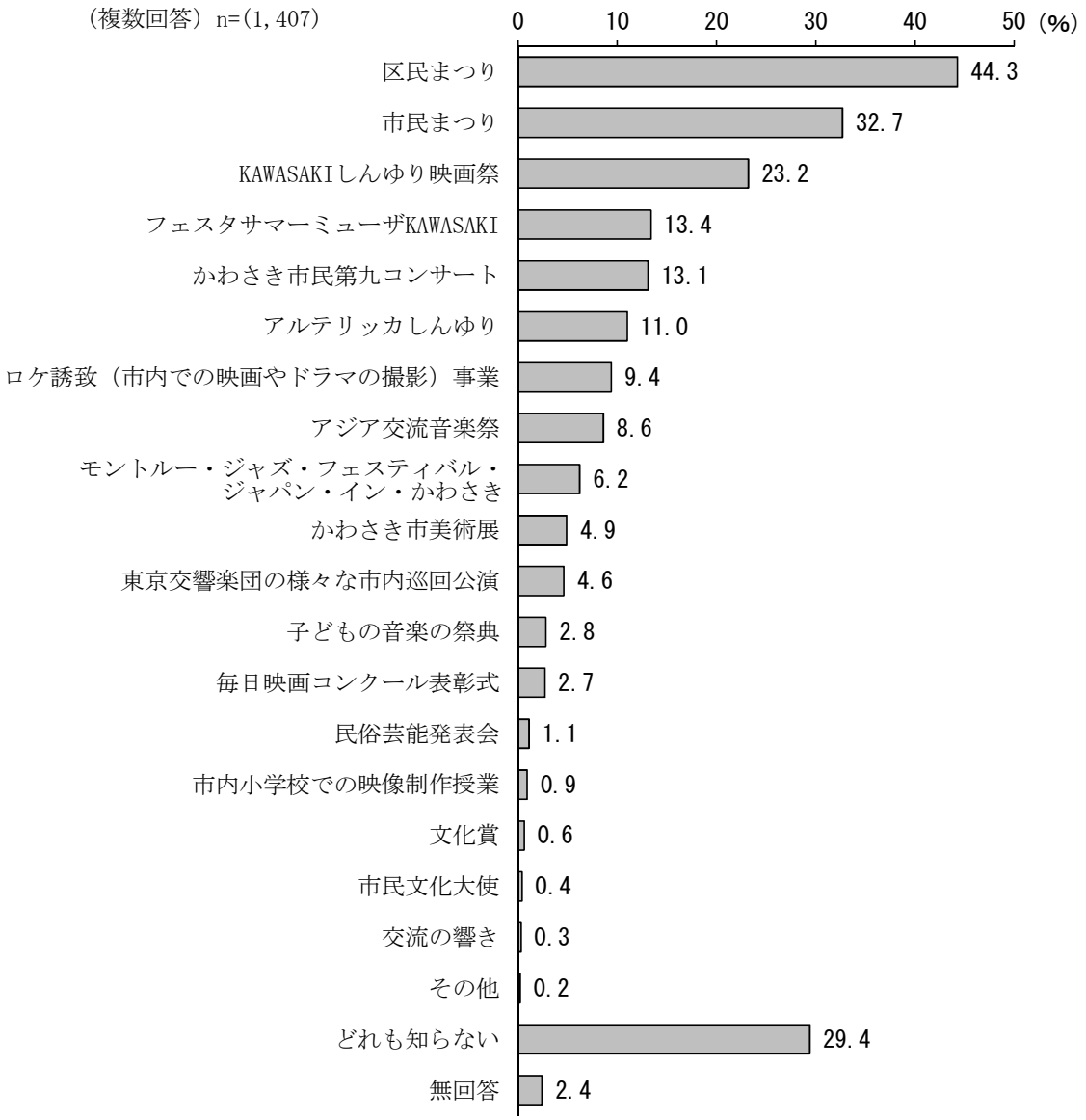
４　文化・芸術の振興について

４－１　川崎市の文化関係事業の認知度

◎「区民まつり」が44.3%

問21　あなたは、次の川崎市の文化関係事業を知っていますか。（あてはまるもの全てに○）

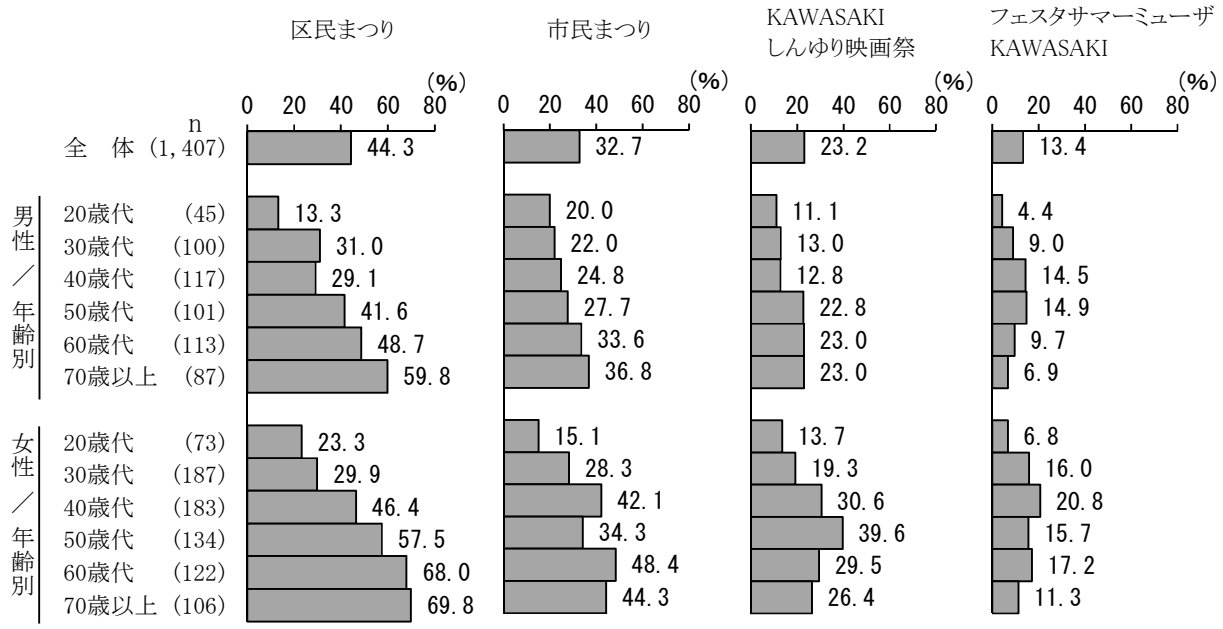
図表４－１　川崎市の文化関係事業の認知度

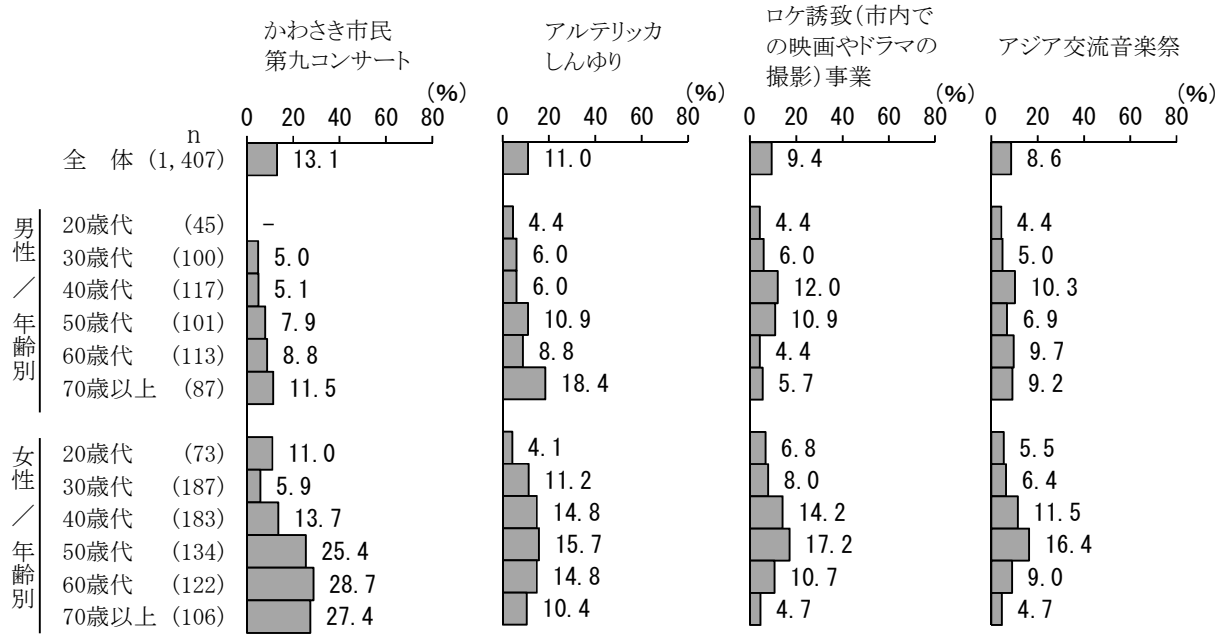


川崎市の文化関係事業で、“知っている”ものは、「区民まつり」(44.3%)、「市民まつり」(32.7%)、「KAWASAKI しんゆり映画祭」（23.2%）の順となっている。（図表４－１）

（第１回アンケート）

図表４－２　川崎市の文化関係事業の認知度（性／年齢別、上位８項目）





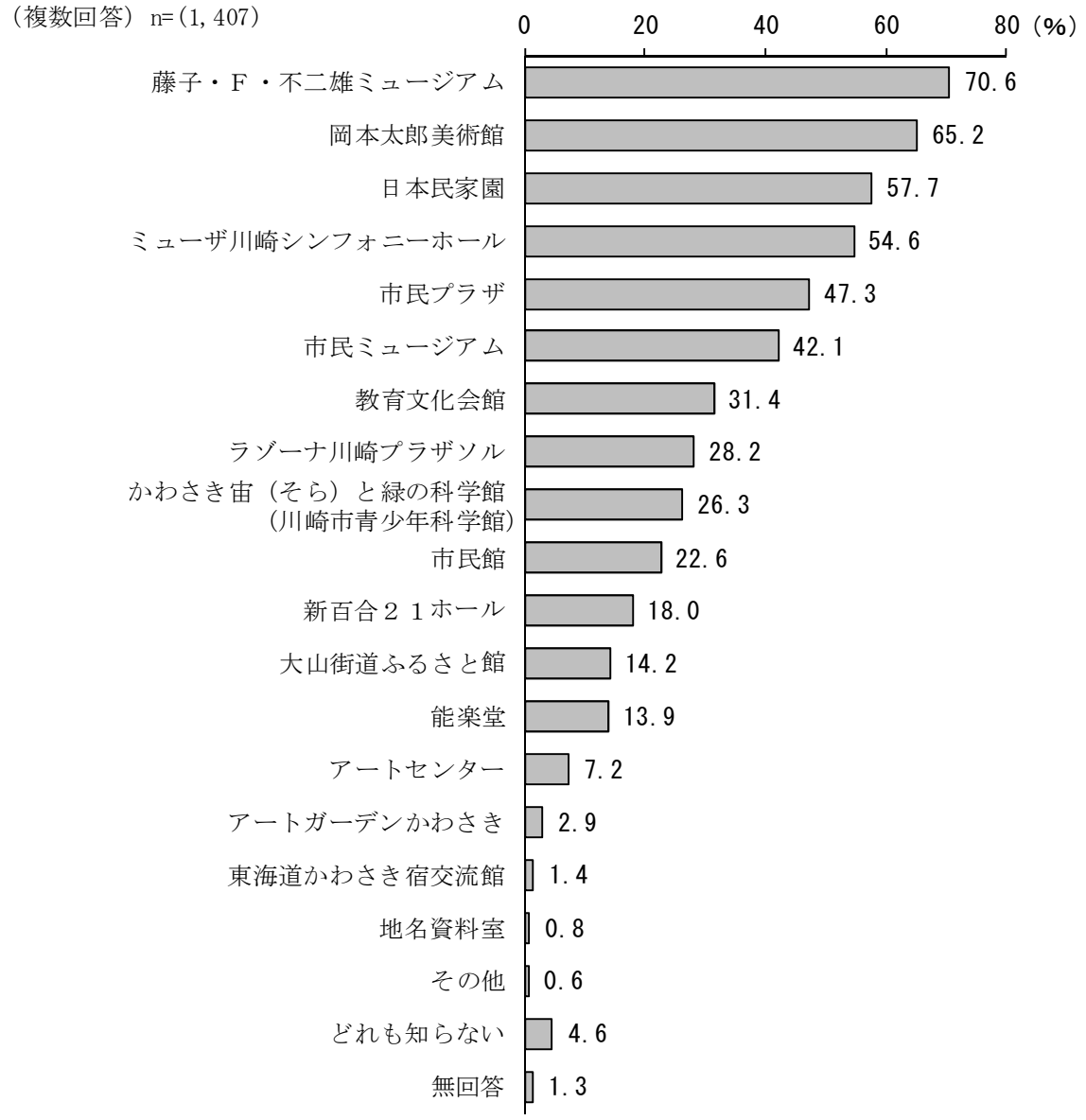
性／年齢別では、「区民まつり」、「市民まつり」など、市民の身近に感じられる事業は、男女ともに年齢が上がるにつれ、認知度が上昇している。一方、40 歳代から 60 歳代にかけての女性は、「KAWASAKI しんゆり映画祭」、「アルテリッカしんゆり」、「ロケ誘致（市内での映画やドラマの撮影）事業」、「アジア交流音楽祭」で、男性や他の年齢層に比べ比較的多い傾向にある。（図表４－２）

４－２　川崎市の文化関係施設の認知度

◎「藤子・Ｆ・不二雄ミュージアム」が 70.6%

問 22　あなたは、次の川崎市の文化関係施設を知っていますか。（あてはまるもの全てに○）

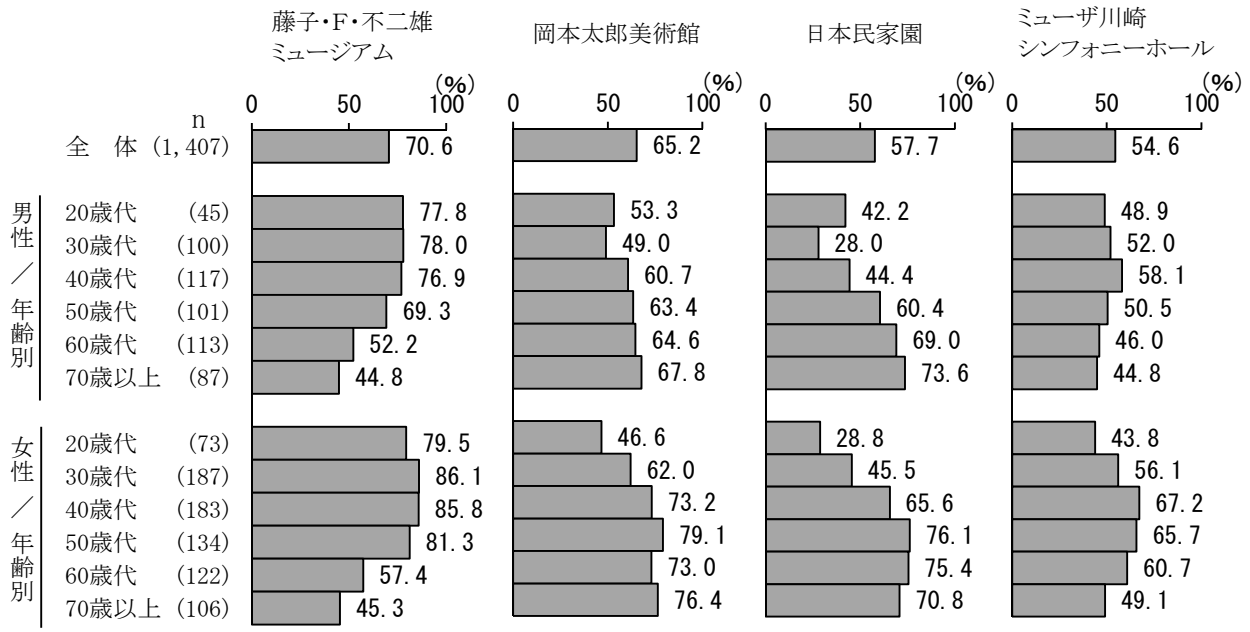
図表４－３　川崎市の文化関係施設の認知度

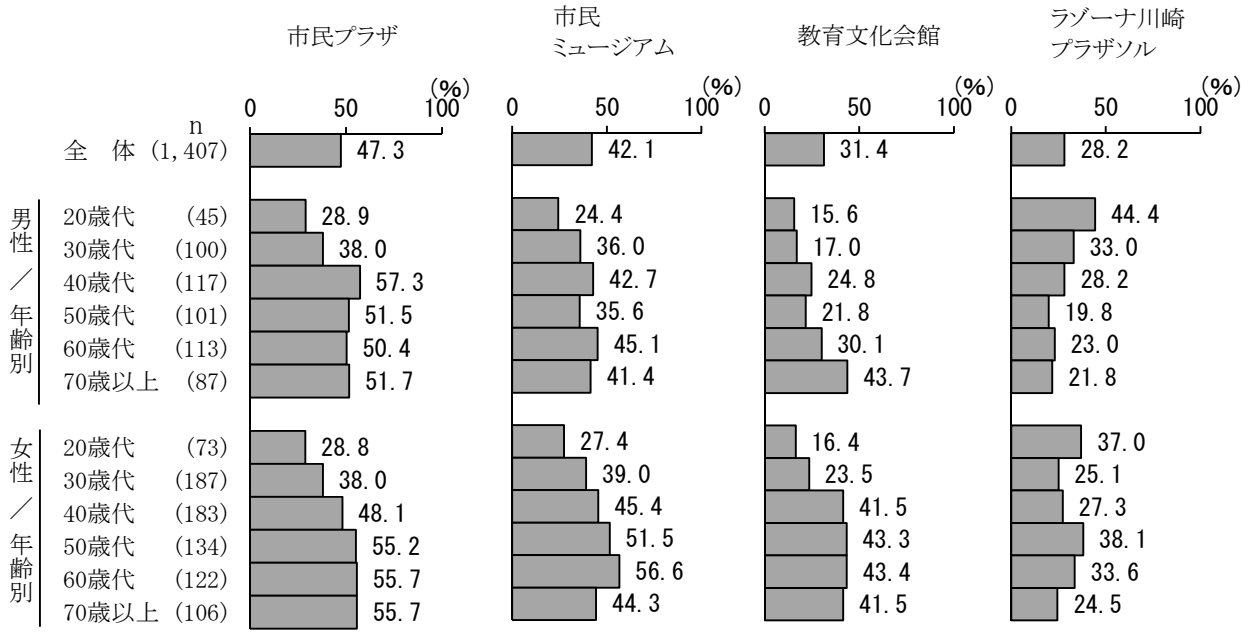


川崎市の文化関係施設の認知度は、「藤子・Ｆ・不二雄ミュージアム」が最も多く 70.6%であった。次いで、「岡本太郎美術館」(65.2%)、「日本民家園」(57.7%)、「ミューザ川崎シンフォニーホール」(54.6%）の順となっている。（図表４－３）

（第１回アンケート）

図表４－４　川崎市の文化関係施設の認知度（性／年齢別、上位８項目）





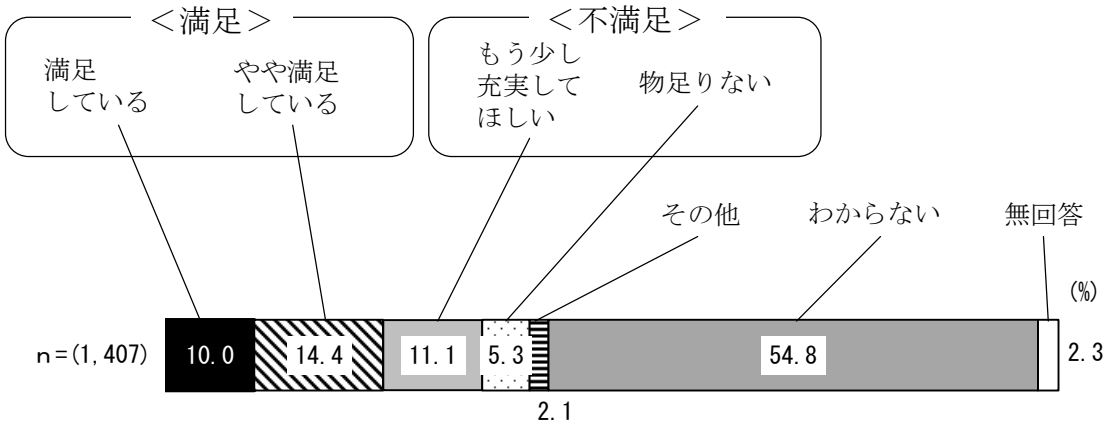
性／年齢別では、男女ともに 20 歳代から 50 歳代にかけて、「藤子・Ｆ・不二雄ミュージアム」を知っている人が多く、「岡本太郎美術館」と「日本民家園」は、40 歳代以降から、認知度が高くなっている。また、「ミューザ川崎シンフォニーホール」と「市民ミュージアム」と「教育文化会館」は、男性よりも女性の認知度が高い傾向がある。（図表４－４）

４－３　川崎市の文化・芸術に対する取組の満足度

◎＜満足＞が24.4%、＜不満足＞は１６.4%

問 23　あなたは、川崎市が行っている文化関係事業や文化関係施設の管理運営などの文化・芸術に対する取組について、満足していますか。（○は１つだけ）

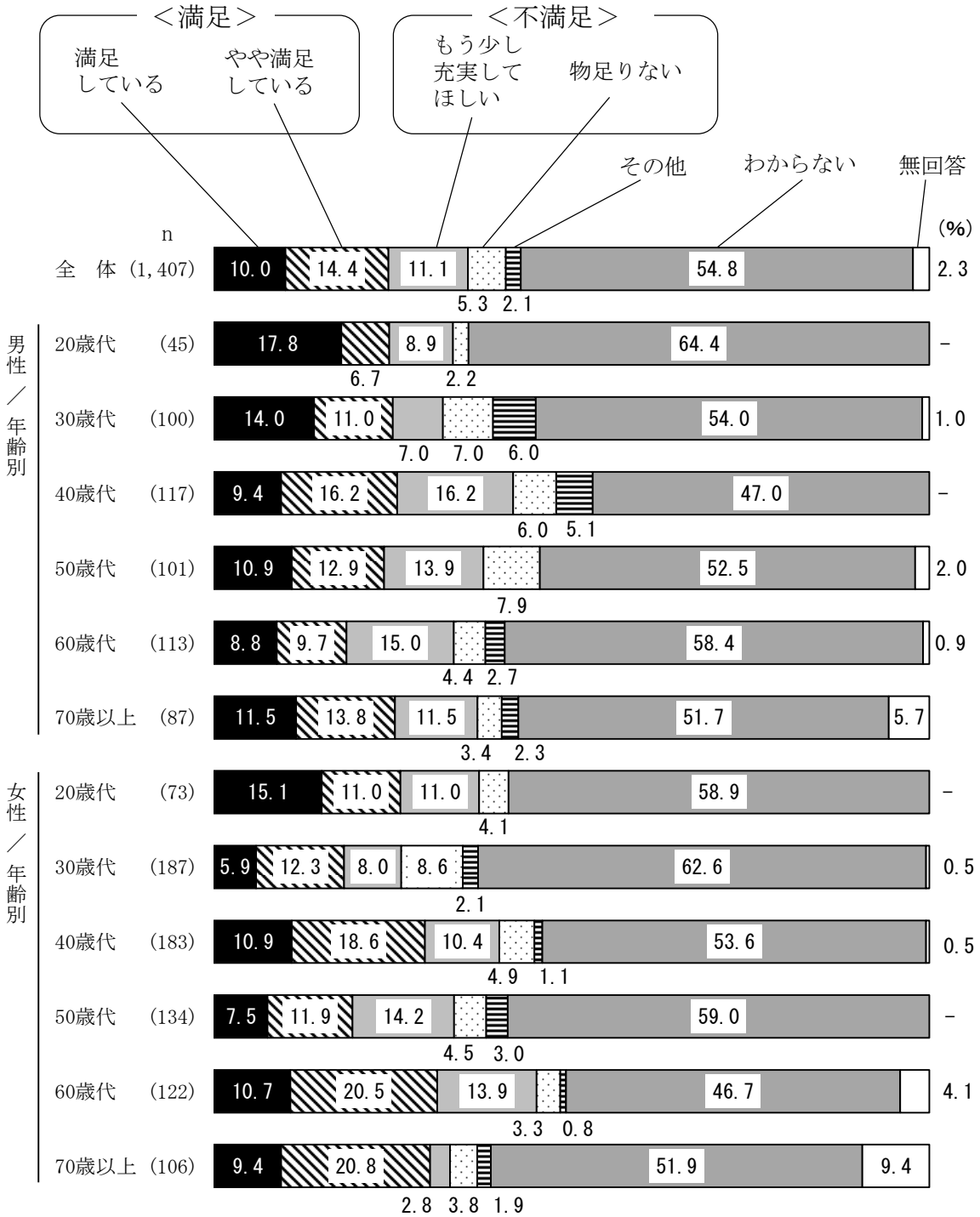
図表４－５　川崎市の文化・芸術に対する取組の満足度



川崎市の文化・芸術に対する取組に対して、「満足している」（10.0%）、「やや満足している」（14.4%）を合わせた＜満足＞は、24.4%となっている。一方、「もう少し充実してほしい」（11.1%）と「物足りない」（5.3%）を合わせた＜不満足＞は、16.4%となっている。（図表４－５）

（第１回アンケート）

図表４－６　川崎市の文化・芸術に対する取組の満足度（性／年齢別）



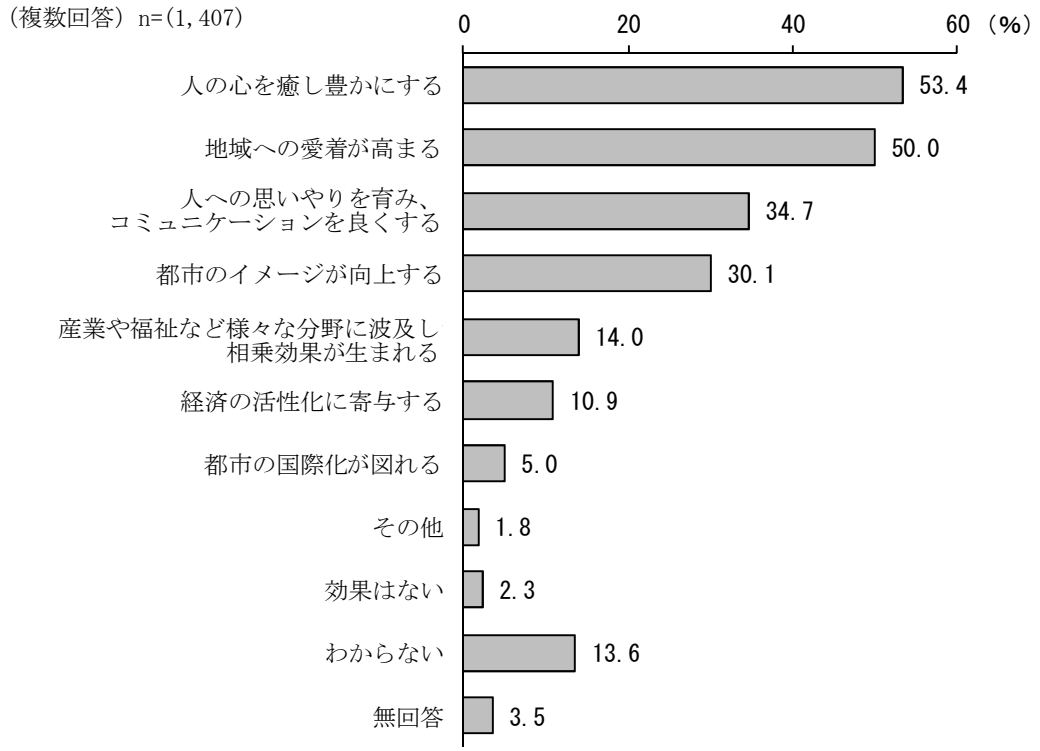
性／年齢別では、＜満足＞が、40 歳代、60 歳代、70 歳以上の女性で、他の年齢層の女性と男性に比較して多くなっている。＜不満足＞は、40 歳代、50 歳代、60 歳代の男性で、他の年齢層の男性と女性に比較して多くなっている。（図表４－６）

４－４　文化芸術振興がもたらす生活・社会への効果

◎「人の心を癒し豊かにする」が 53.4%

問 24　問 21 や問 22 で示したような、様々な文化関係事業が行われたり文化関係施設で市民が活動したりすることで、あなたは、生活や社会にどのような効果があると思いますか。
（あてはまるもの３つまでに○）

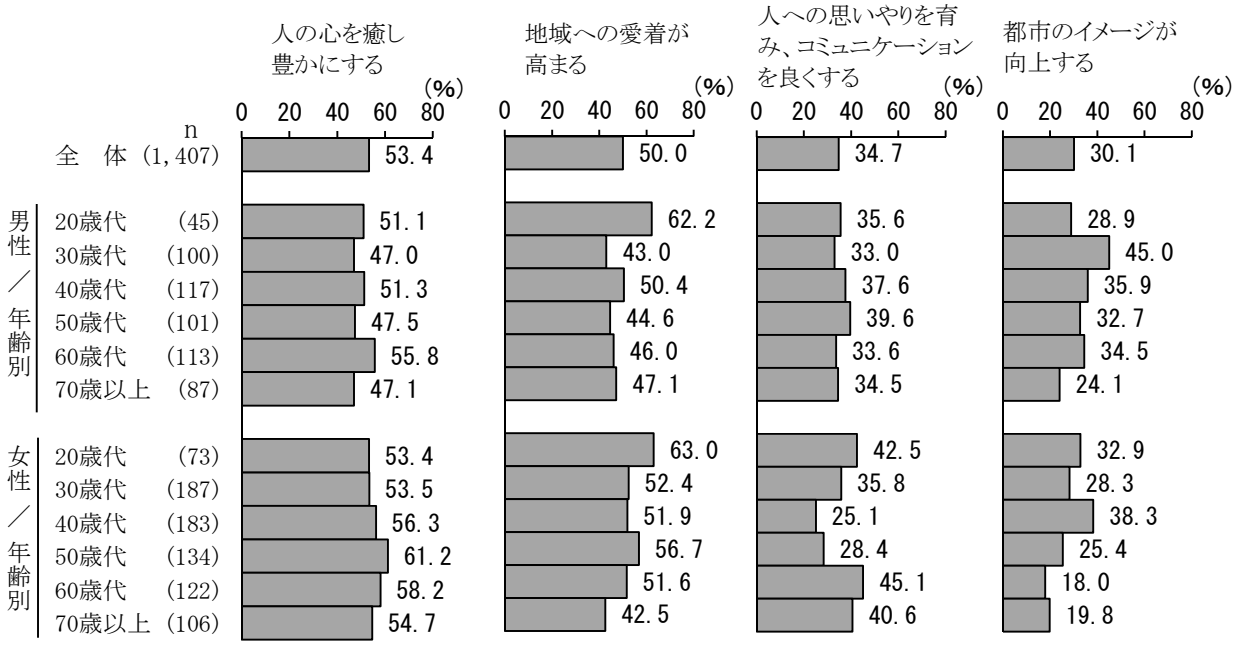
図表４－７　文化芸術振興がもたらす生活・社会への効果

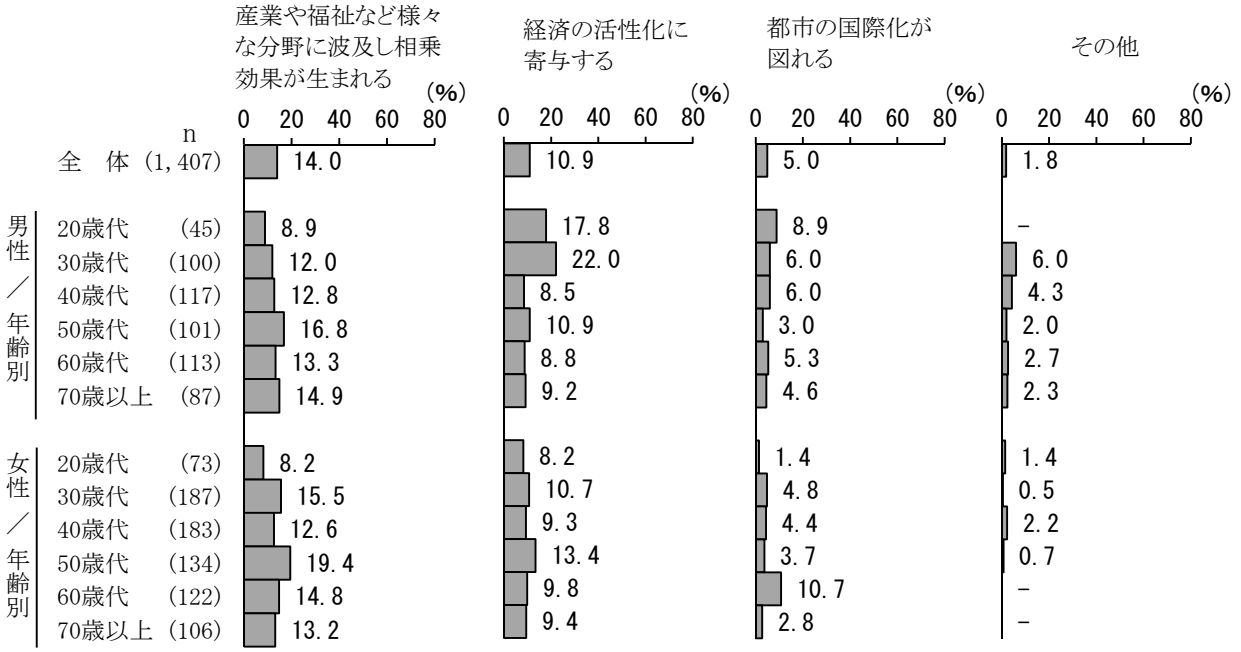


文化芸術振興が生活や社会にどのような効果があると思うか尋ねた。「人の心を癒し豊かにする」(53.4%)、「地域への愛着が高まる」(50.0%) が５割以上で多かった。次いで、「人への思いやりを育み、コミュニケーションを良くする」(34.7%)、「都市のイメージが向上する」(30.1%) の順となっている。(図表４－７)

（第１回アンケート）

図表４－８　文化芸術振興がもたらす生活・社会への効果（性／年齢別、上位８項目）





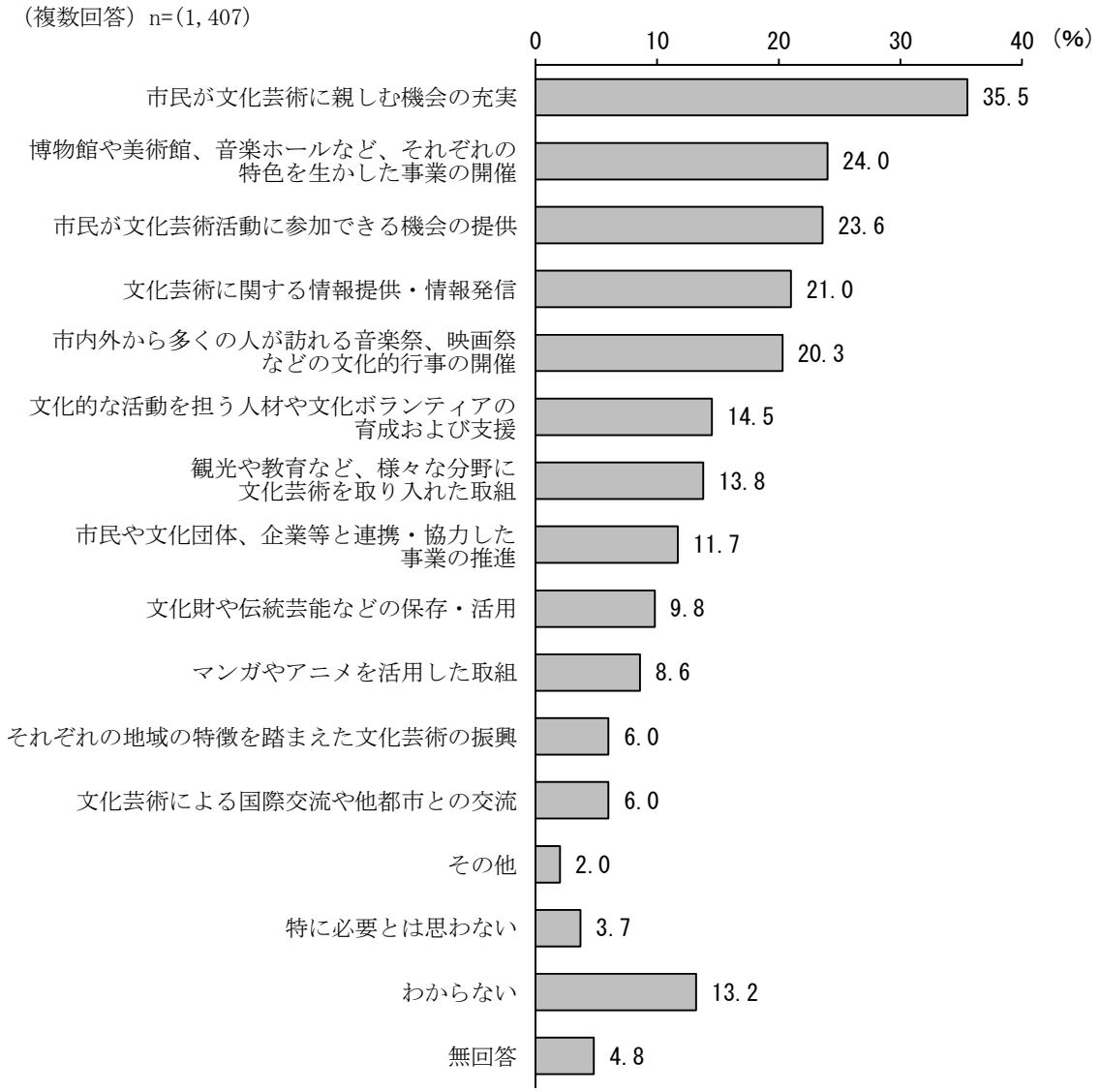
性／年齢別では、「人の心を癒し豊かにする」、「地域への愛着が高まる」で男女ともに幅広い年齢層で効果があるとしている。「地域への愛着が高まる」は、男女とも 20 歳代で多くなっている。（図表４－８）

４－５　文化芸術振興のために川崎市に力を入れてほしいこと

◎「市民が文化芸術に親しむ機会の充実」が 35.5％

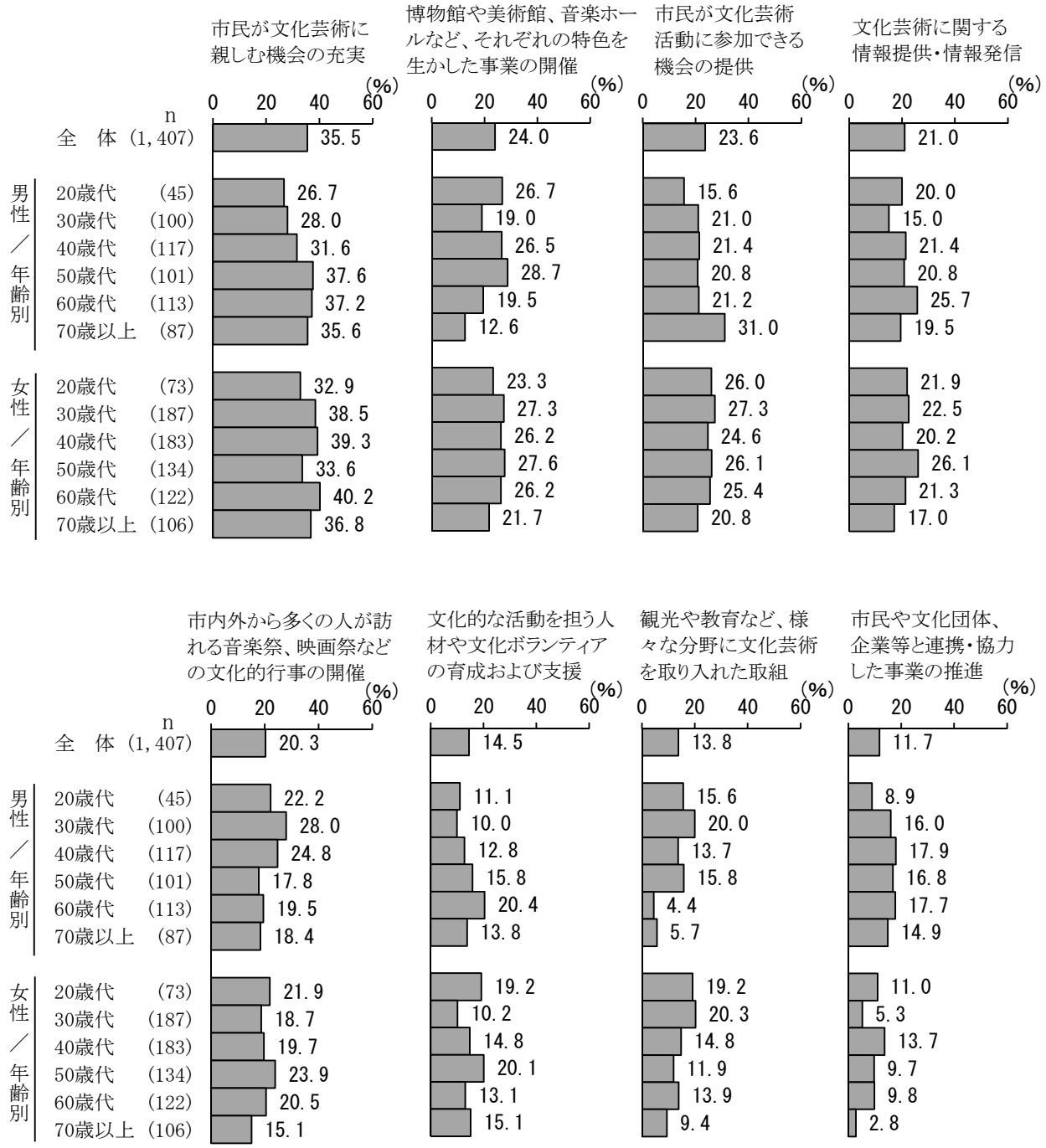
問 25　あなたは、今後、文化芸術を振興していくために、川崎市において特にどのようなことに力を入れてほしいと思いますか。（あてはまるもの３つまでに○）

図表４－９　文化芸術振興のために川崎市に力を入れてほしいこと



文化芸術振興のため、川崎市に力を入れてほしいこととして、「市民が文化芸術に親しむ機会の充実」（35.5％）、「博物館や美術館、音楽ホールなど、それぞれの特色を生かした事業の開催」（24.0％）、「市民が文化芸術活動に参加できる機会の提供」（23.6％）の順となっている。（図表４－９）

図表４－10　文化芸術振興のために川崎市に力を入れてほしいこと（性／年齢別、上位８項目）



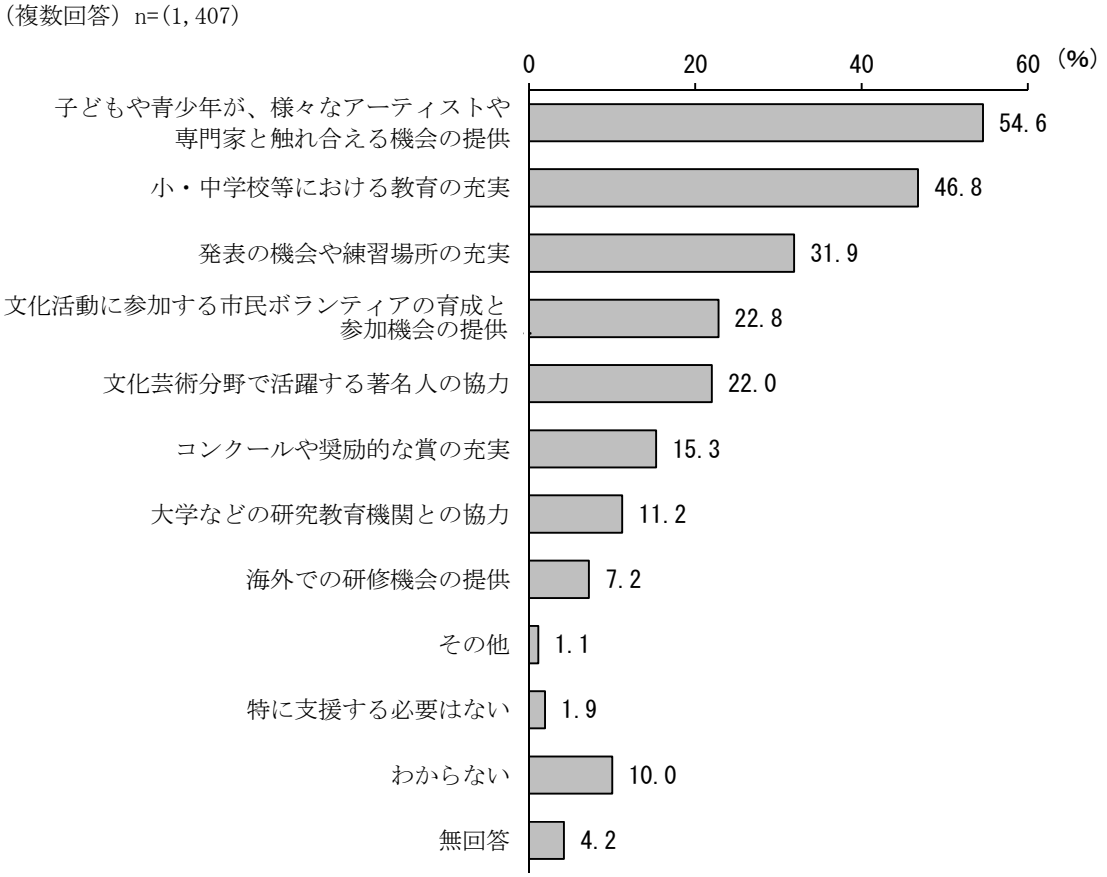
性／年齢別では、「市民が文化芸術に親しむ機会の充実」で、男性の 40 歳以上、女性においては全ての年代において多くなっている。「市民が文化芸術活動に参加できる機会の提供」は、70 歳以上の男性（31.0%）が他の年齢層と比較して多くなっている。（図表４－10）

４－６　文化芸術振興のための人材育成・支援に必要なこと

◎「子どもや青少年が、様々なアーティストや専門家と触れ合える機会の提供」が 54.6%

問 26　文化・芸術の振興のためには人材育成が重要な要素と考えられます。
あなたは、芸術家や文化にかかわる人などを育てたり、支援するためには、どのようなことが必要だと思いますか。（あてはまるもの３つまでに○）

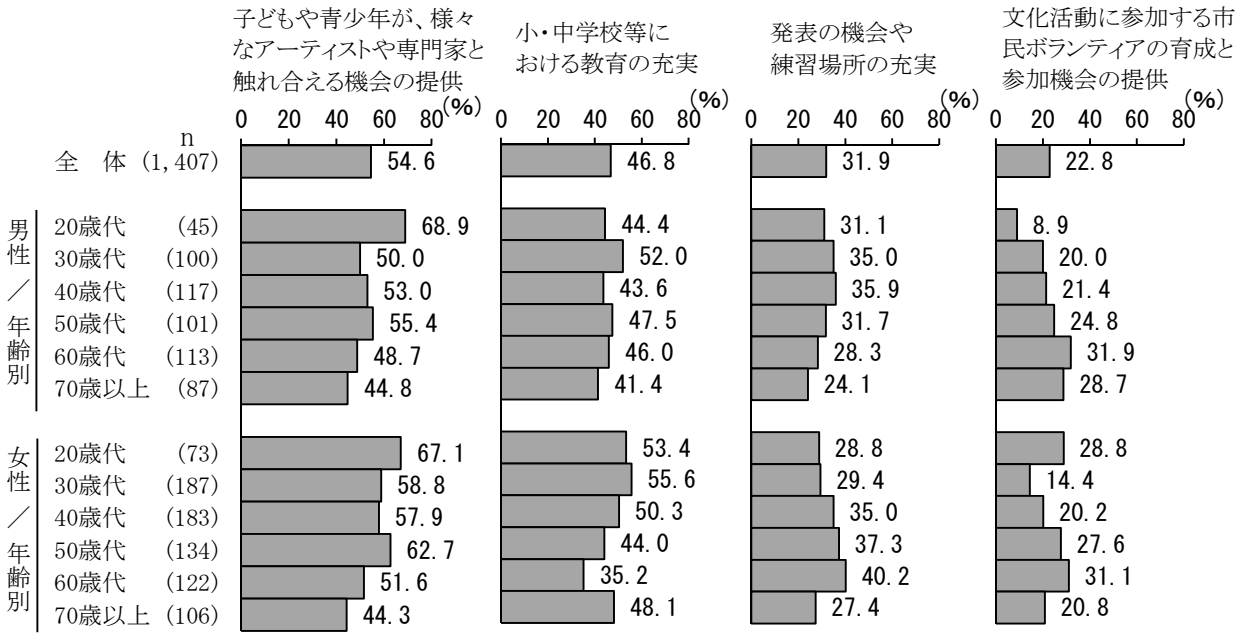
図表４－11　文化芸術振興のための人材育成・支援に必要なこと

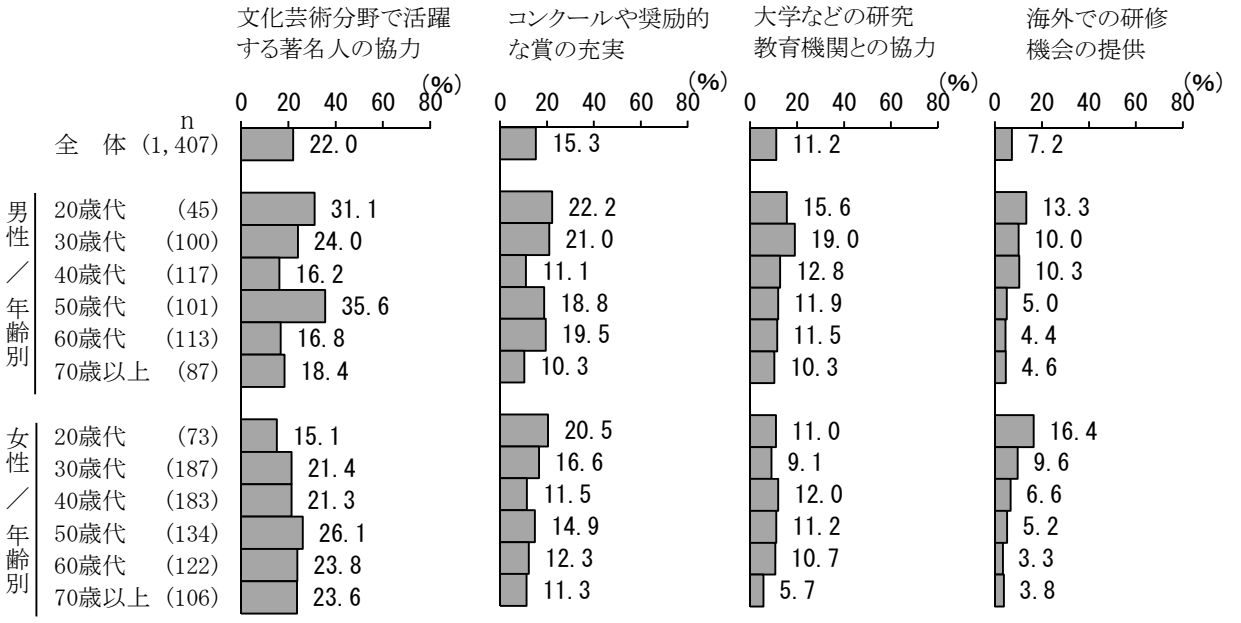


文化芸術振興のための人材育成には、「子どもや青少年が、様々なアーティストや専門家と触れ合える機会の提供」が最も多く 54.6%となっている。次いで、「小・中学校等における教育の充実」（46.8%）、「発表の機会や練習場所の充実」（31.9%）の順となっている。（図表４－11）

（第１回アンケート）

図表４－12　文化芸術振興のための人材育成・支援に必要なこと（性／年齢別、上位８項目）





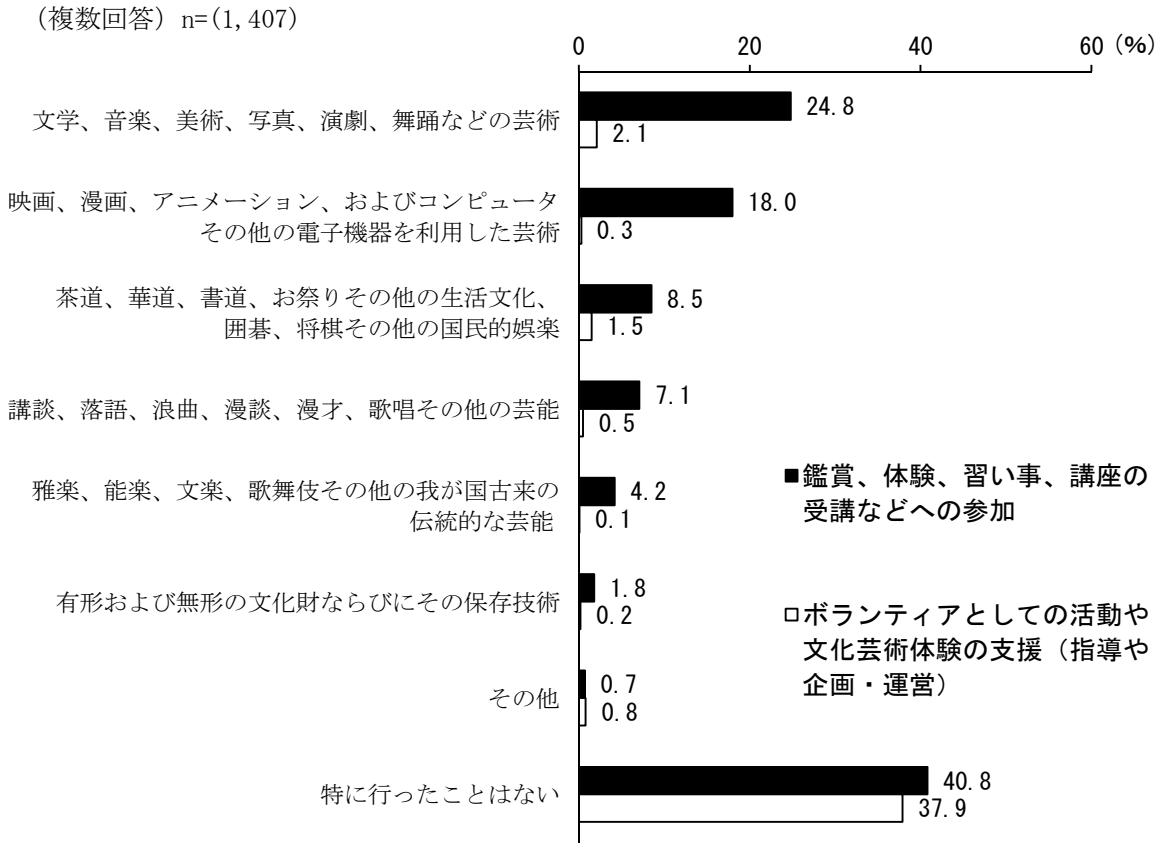
性／年齢別では、「子どもや青少年が、様々なアーティストや専門家と触れ合える機会の提供」には、20 歳代、50 歳代の男性と、20 歳代から 50 歳代にかけての女性が他の年齢層に比較して多くなっている。「発表の機会や練習場所の充実」は、30 歳代から 40 歳代の男性と、40 歳代から 60 歳代の女性が他の年齢層に比べ、多くなっている。（図表４－12）

４－７　文化・芸術に関わる活動への参加・支援

◎「文学、音楽、美術、写真、演劇、舞踊などの芸術」への参加が24.8%

問27　あなたは、この１年間に、下記の文化・芸術の分野で「鑑賞、体験、習い事、講座の受講などへの参加」や「ボランティアとしての活動」や「文化芸術体験の支援」など、文化芸術に関わる活動をしたことはありますか。それぞれについて、あてはまるものをお選びください。（あてはまるもの全てに○）

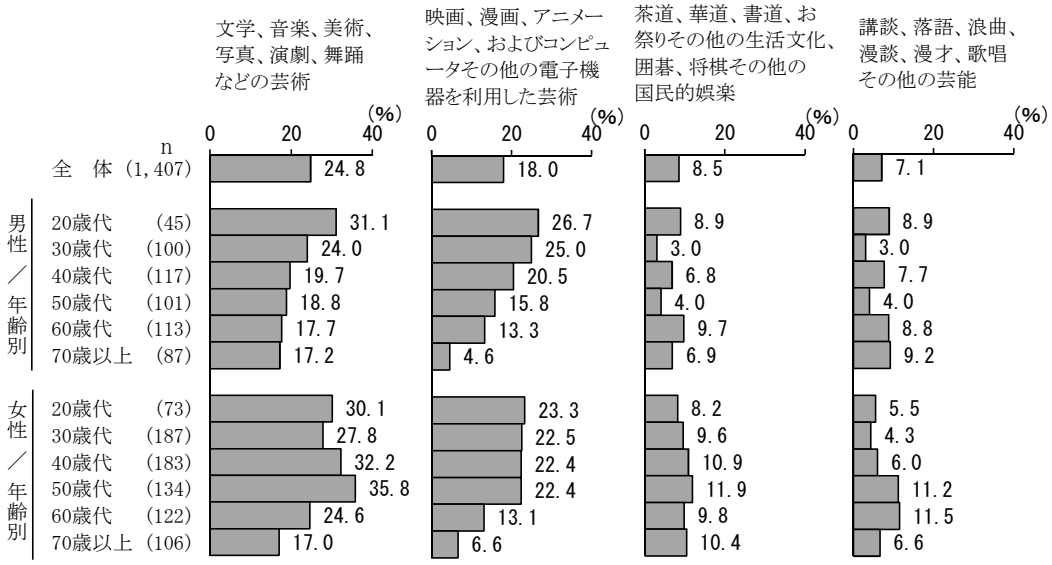
図表４－13　文化・芸術に関わる活動への参加・支援



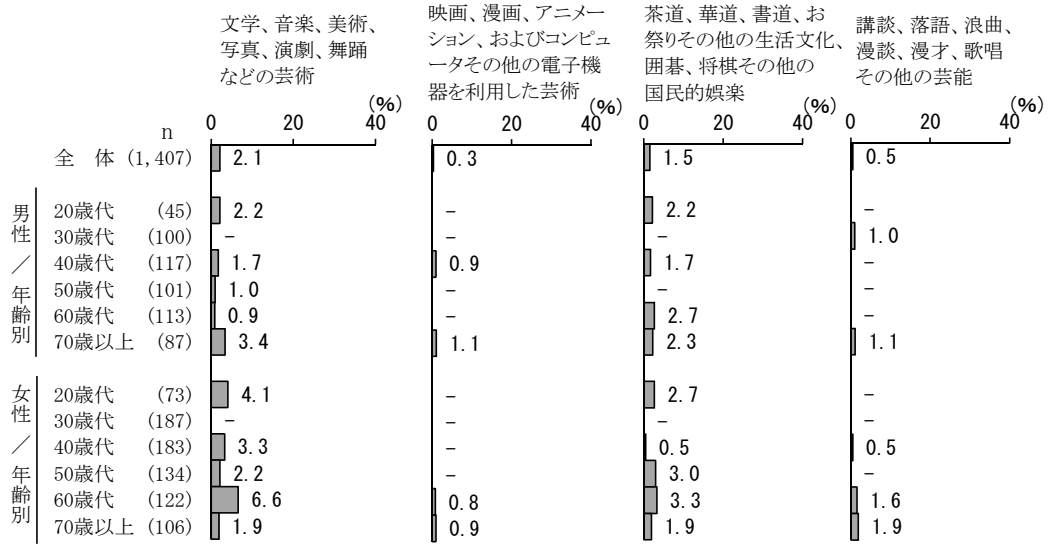
文化・芸術に関する活動に参加や支援をしたことがあるかを尋ねた。主なものとして、「文学、音楽、美術、写真、演劇、舞踊などの芸術」への参加（24.8%）、「映画、漫画、アニメーション、およびコンピュータその他の電子機器を利用した芸術」への参加（18.0%）を挙げている。（図表４－13）

図表４－14　文化・芸術に関わる活動への参加・支援（性／年齢別、上位４項目）

【鑑賞、体験、習い事、講座の受講などへの参加】



【ボランティアとしての活動や文化芸術体験の支援（指導や企画・運営）】



性／年齢別から、【鑑賞、体験、習い事、講座の受講などへの参加】をみると、「文学、音楽、美術、写真、演劇、舞踊などの芸術」の分野で、20 歳代の男性と 20 歳代から 50 歳代の女性で、他の年齢層に比べて多くなっている。

「映画、漫画、アニメーション、およびコンピュータその他の電子機器を利用した芸術」の分野で年齢層が低くなるほど多くなっている。

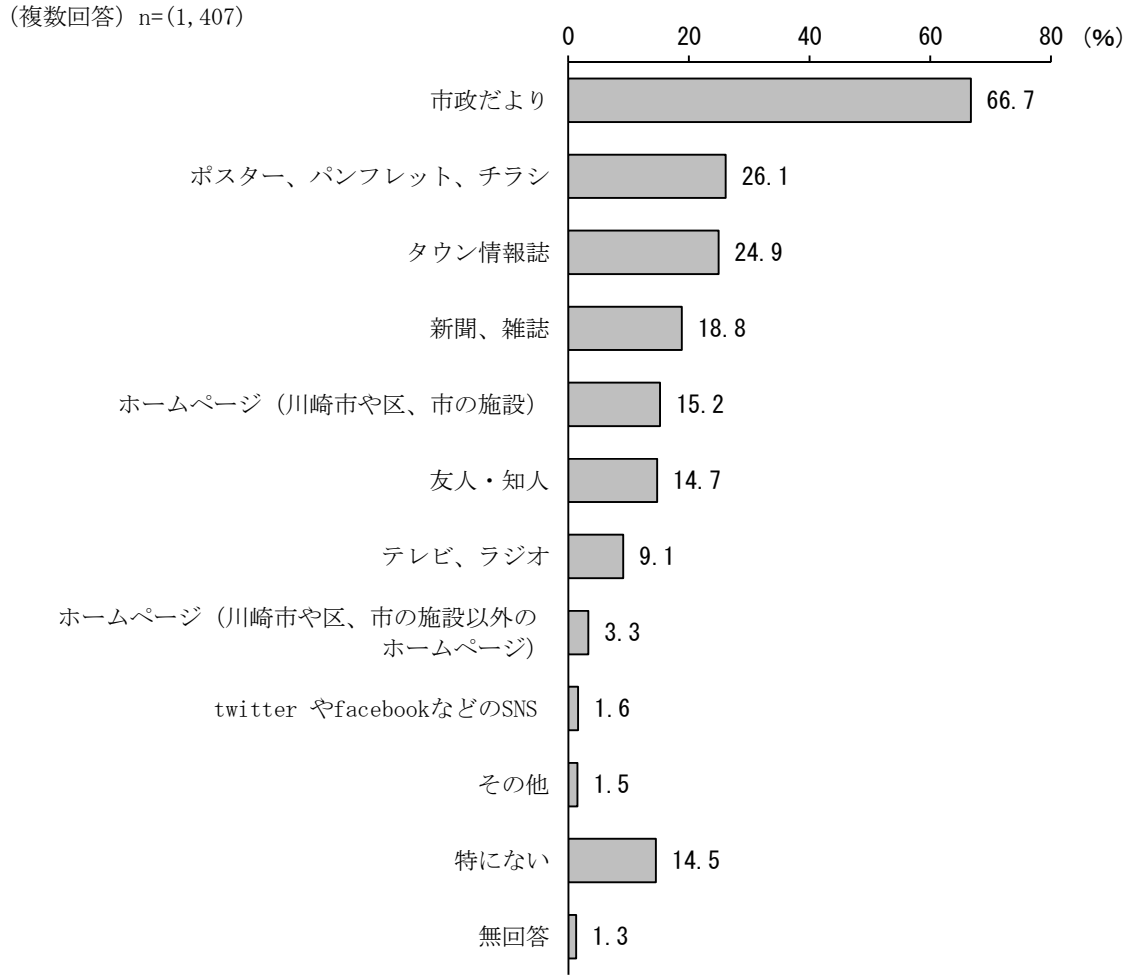
【ボランティアとしての活動や文化芸術体験の支援】をみると、他の分野に比較して、「文学、音楽、美術、写真、演劇、舞踊などの芸術」と「茶道、華道、書道、お祭りその他の生活文化、囲碁、将棋その他の国民的娯楽」の分野で、若干の活動が見られる。（図表４－14）

４－８　文化に関する情報の入手方法

◎「市政だより」が66.7%

問28　あなたは、川崎市内の文化に関する情報を主に何で得ていますか。（あてはまるもの全てに○）

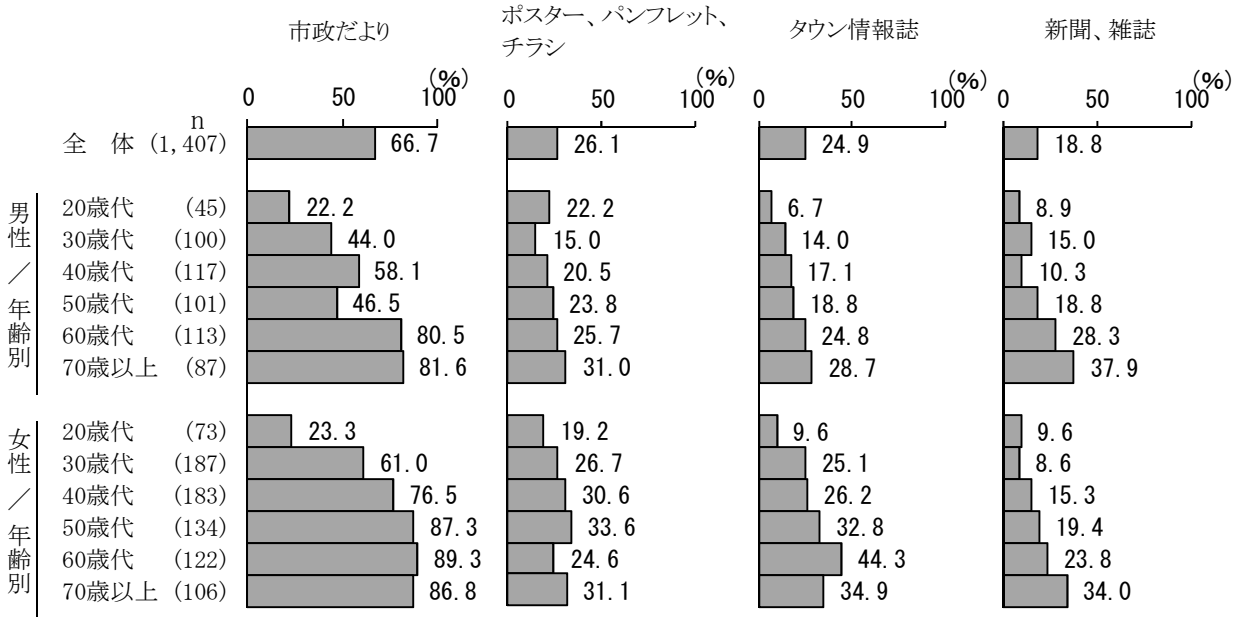
図表４－15　文化に関する情報の入手方法

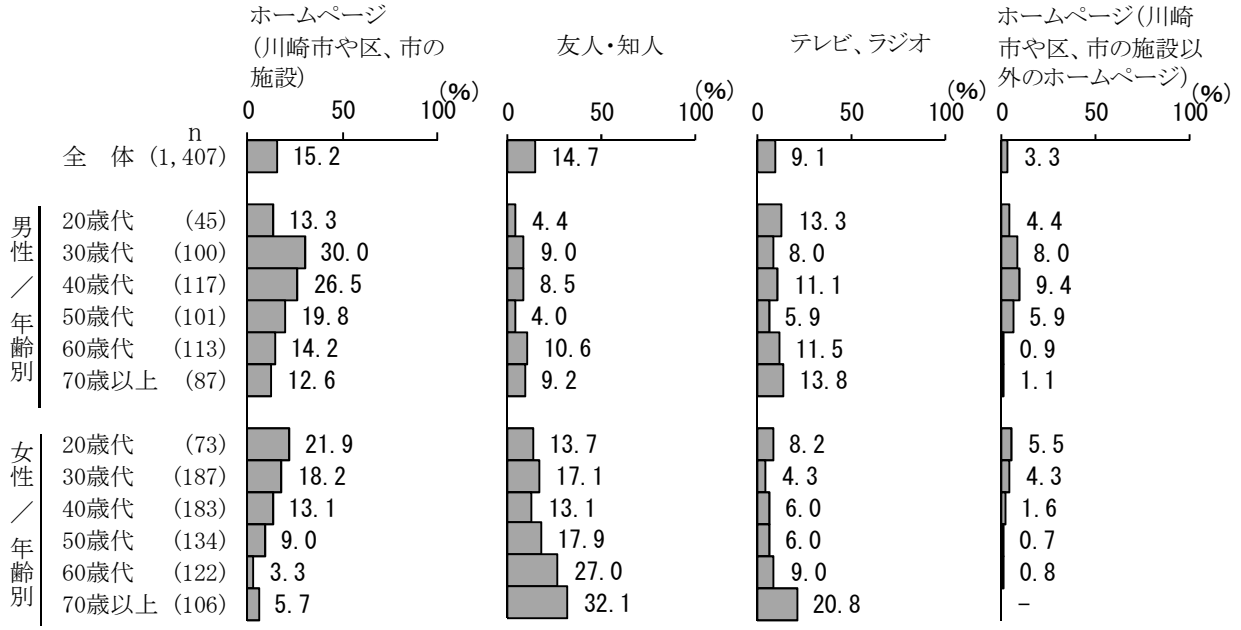


川崎市内の文化に関する情報の入手方法は、「市政だより」が最も多く、全体のおよそ７割となっている。次いで、「ポスター、パンフレット、チラシ」（26.1%）、「タウン情報誌」（24.9%）、「新聞、雑誌」（18.8%）の順となっている。（図表４－15）

（第１回アンケート）

図表４－16　文化に関する情報の入手方法（性／年齢別、上位８項目）





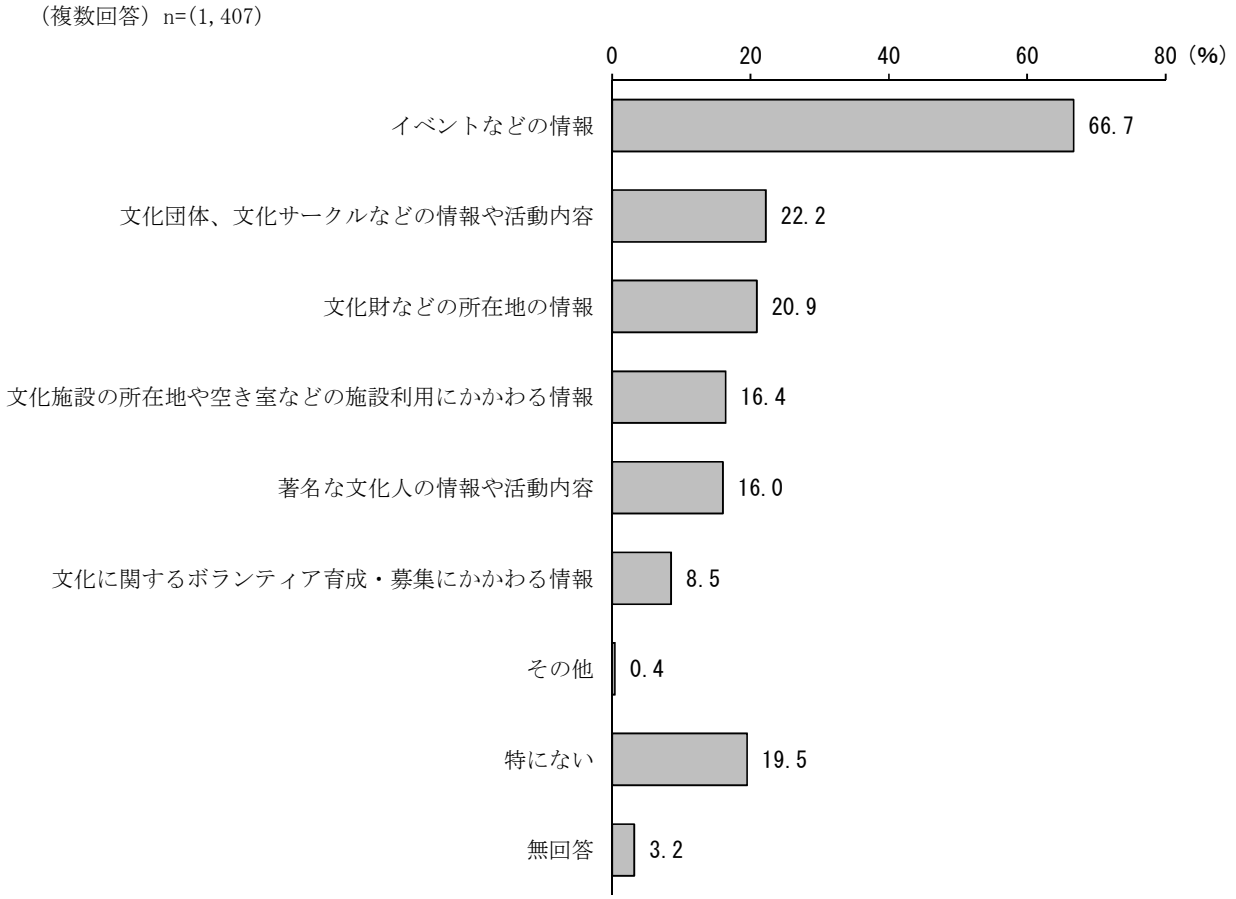
性／年齢別では、「市政だより」から情報を入手している年齢層は、60 歳代及び 70 歳以上の男性と、40 歳代から 70 歳以上までの女性で、他の年齢層に比較して多くなっている。「タウン情報誌」、「新聞・雑誌」、「友人・知人」は年齢層が上がるにしたがって多くなる傾向があり、「ホームページ」は、20 歳代、30 歳代が多く、年齢層が上がるにしたがって少なくなる傾向がある。（図表４－16）

４－９　文化に関する知りたい情報

◎「イベントなどの情報」が 66.7%

問 29　あなたは、川崎市内の文化に関するどんな情報を知りたいですか。（あてはまるもの全てに○）

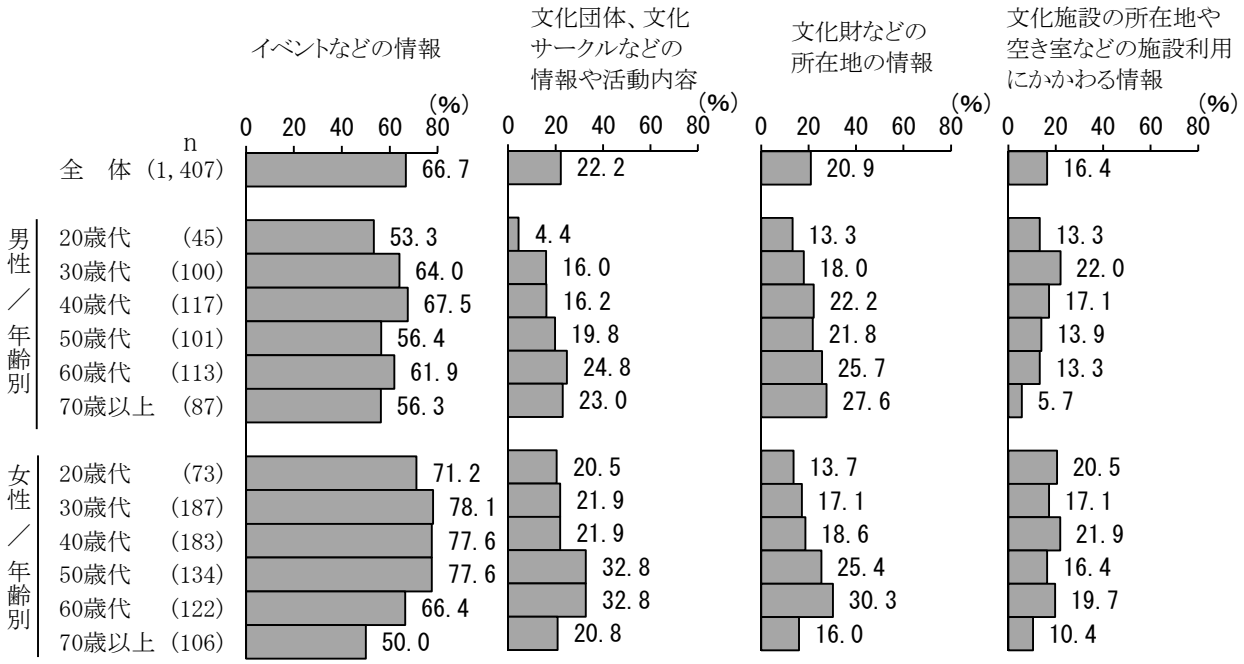
図表４－17　文化に関する知りたい情報

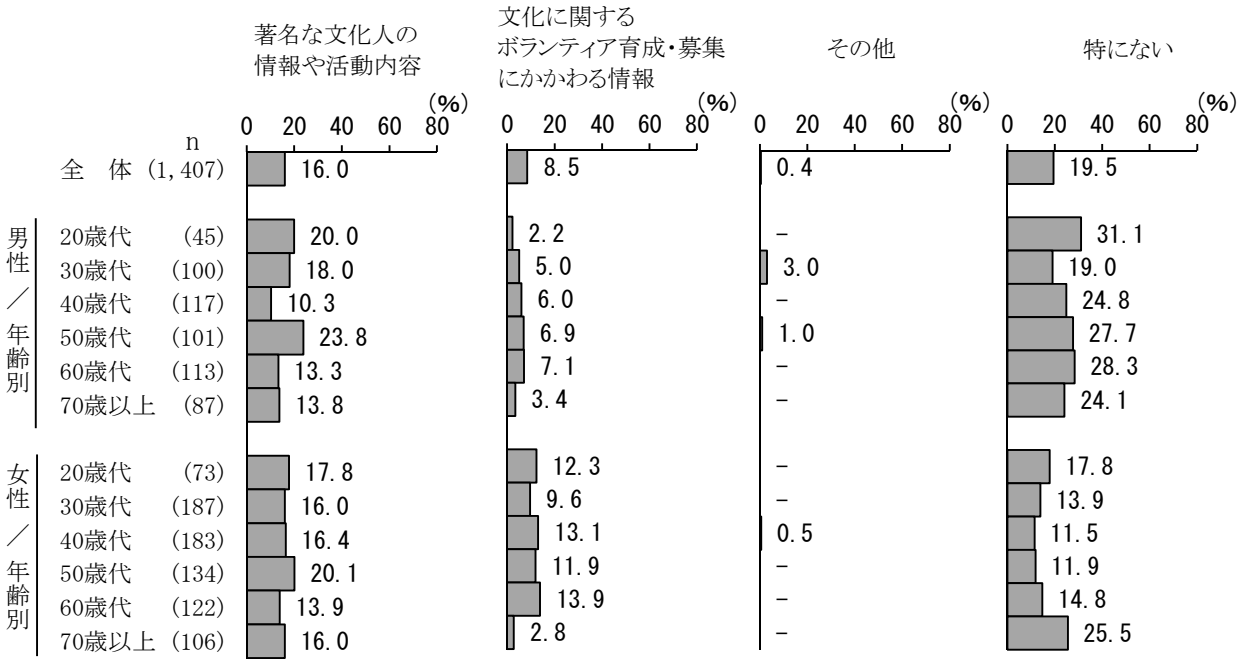


川崎市の文化に関する情報で知りたいものは、「イベントなどの情報」が 66.7%と最も多い。次いで、「文化団体、文化サークルなどの情報や活動内容」（22.2%）、「文化財などの所在地の情報」（20.9%）の順となっている。（図表４－17）

（第１回アンケート）

図表４－18　文化に関する知りたい情報（性／年齢別）





性／年齢別では、知りたい情報のうち、「イベントなどの情報」と「文化団体、文化サークルなどの情報や活動内容」の分野では、男性に比較して、女性が多い傾向にある。

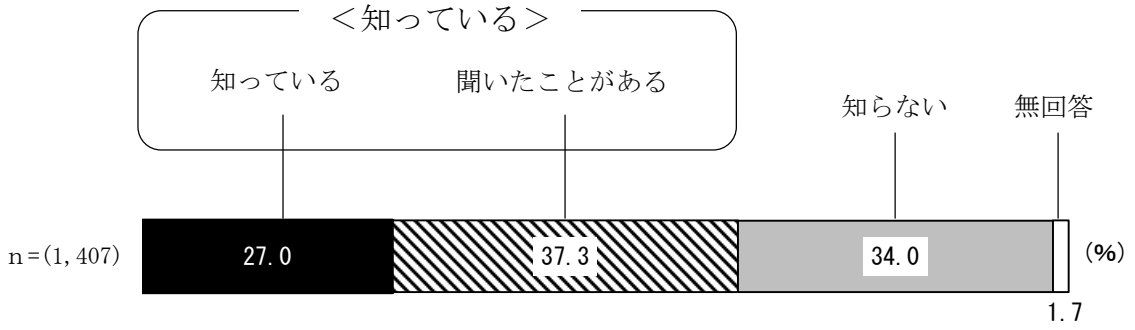
「文化財などの所在地の情報」は、年齢層が上がるにしたがって多くなる傾向がある。（図表４－18）

４－10　「音楽のまち・かわさき」の認知度

◎「音楽のまち・かわさき」を＜知っている＞が 64.3%

問 30　あなたは、「音楽のまち・かわさき」の取組を知っていますか。（○は１つだけ）

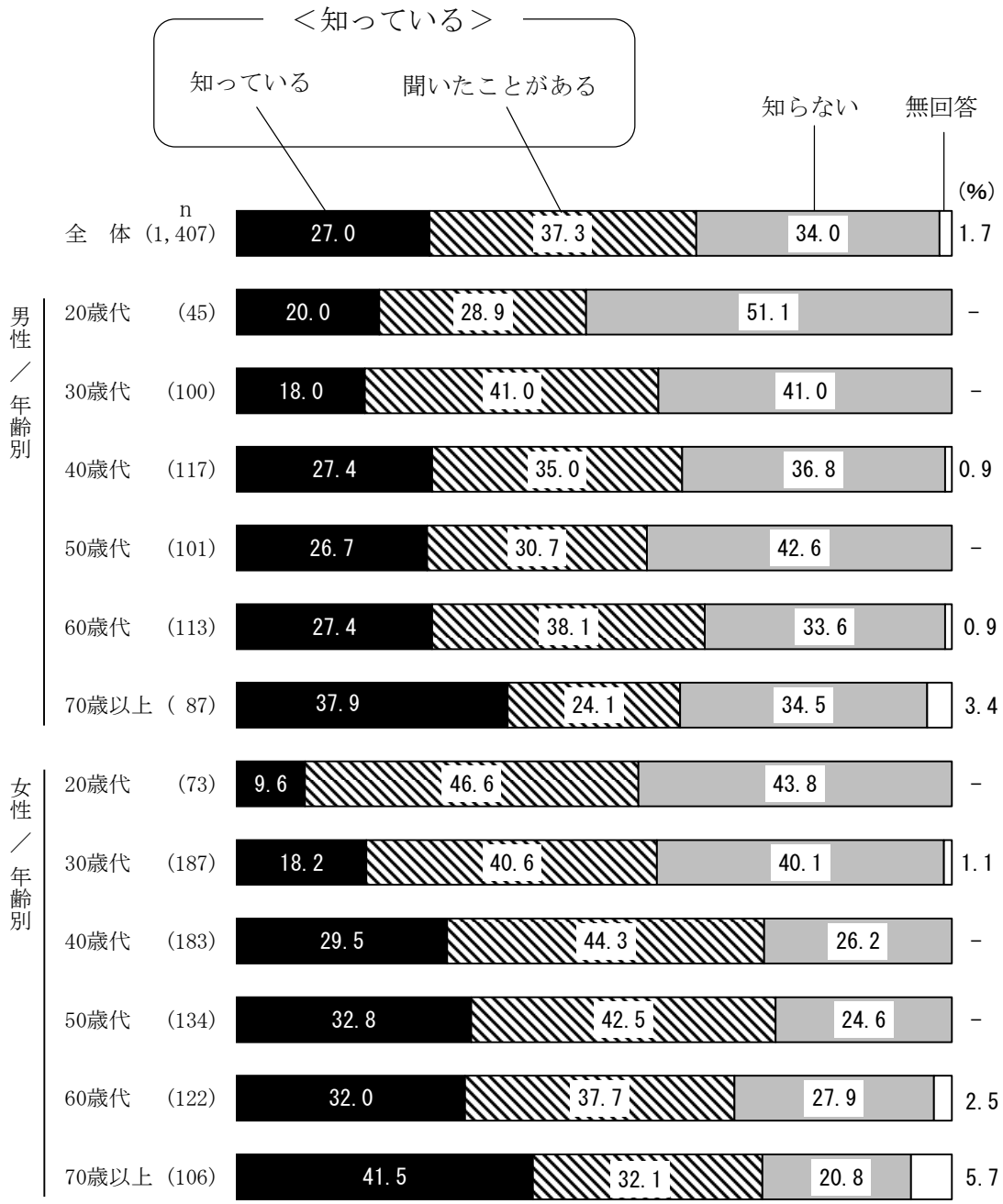
図表４－19　「音楽のまち・かわさき」の認知度



「音楽のまち・かわさき」を「知っている」（27.0%）と「聞いたことがある」（37.3%）を合わせた＜知っている＞は、64.3%と多くなっている。一方、「知らない」は 34.0%であった。（図表４－19）

（第１回アンケート）

図表４－20　「音楽のまち・かわさき」の認知度（性／年齢別）



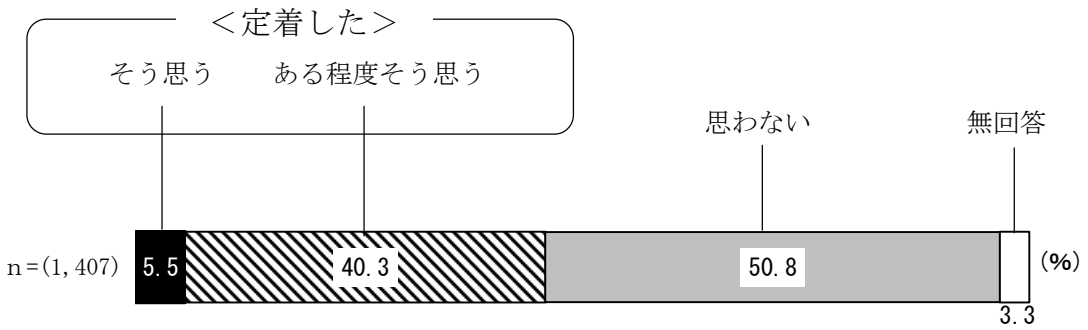
性／年齢別では、「音楽のまち・かわさき」を＜知っている＞の割合が、女性の 40 歳代から 70 歳以上が、男性と女性の他の年齢層と比較して多くなっている。（図表４－20）

４－11　「音楽のまち・かわさき」のイメージ定着度

◎「音楽のまち・かわさき」のイメージが＜定着した＞が 45.8%

問 31　あなたは、「音楽のまち・かわさき」の取組により、「音楽のまち・かわさき」のイメージが市民に定着してきたと思いますか。（○は１つだけ）

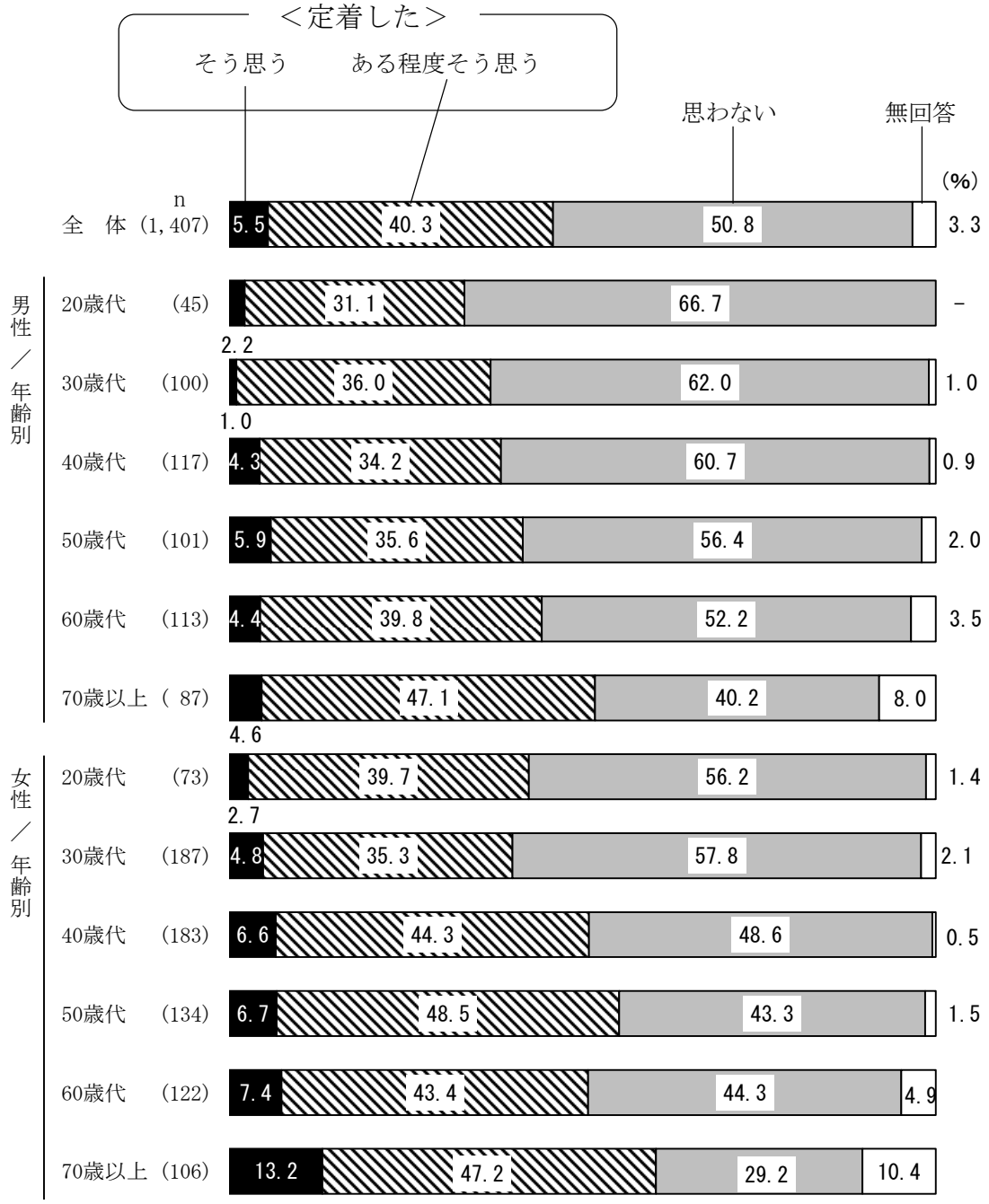
図表４－21　「音楽のまち・かわさき」のイメージ定着度



「音楽のまち・かわさき」のイメージの定着度を尋ねた。「そう思う」（5.5%）と「ある程度そう思う」（40.3%）を合わせた＜定着した＞は、45.8%となっている。（図表４－21）

（第１回アンケート）

図表４－22　「音楽のまち・かわさき」のイメージ定着度（性／年齢別）



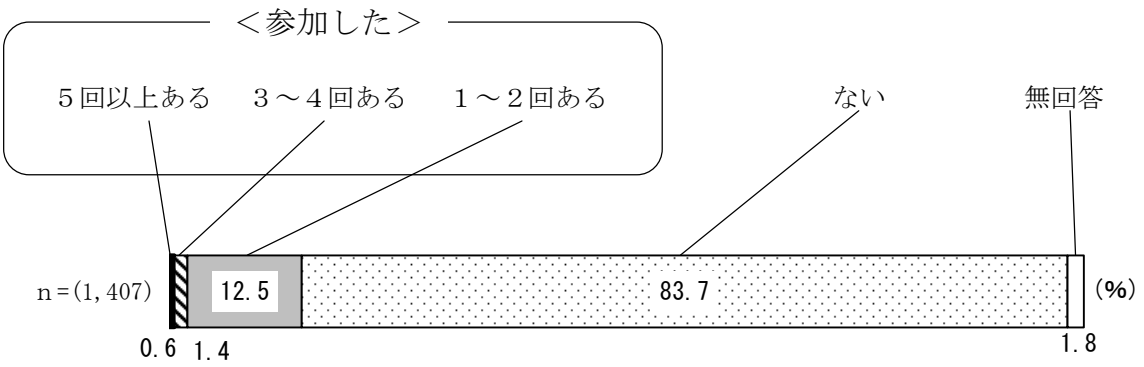
性／年齢別では、「音楽のまち・かわさき」のイメージの定着度を、「そう思う」と「ある程度そう思う」を合わせた＜定着した＞でみると、男女ともに年齢層が上がるにしたがって多くなる傾向がある。（図表４－22）

４－12　音楽イベントへの参加

◎＜参加した＞が 14.5%

問 32　あなたは、この１年間に市内で開催された音楽イベントに参加したことがありますか。
（○は１つだけ）

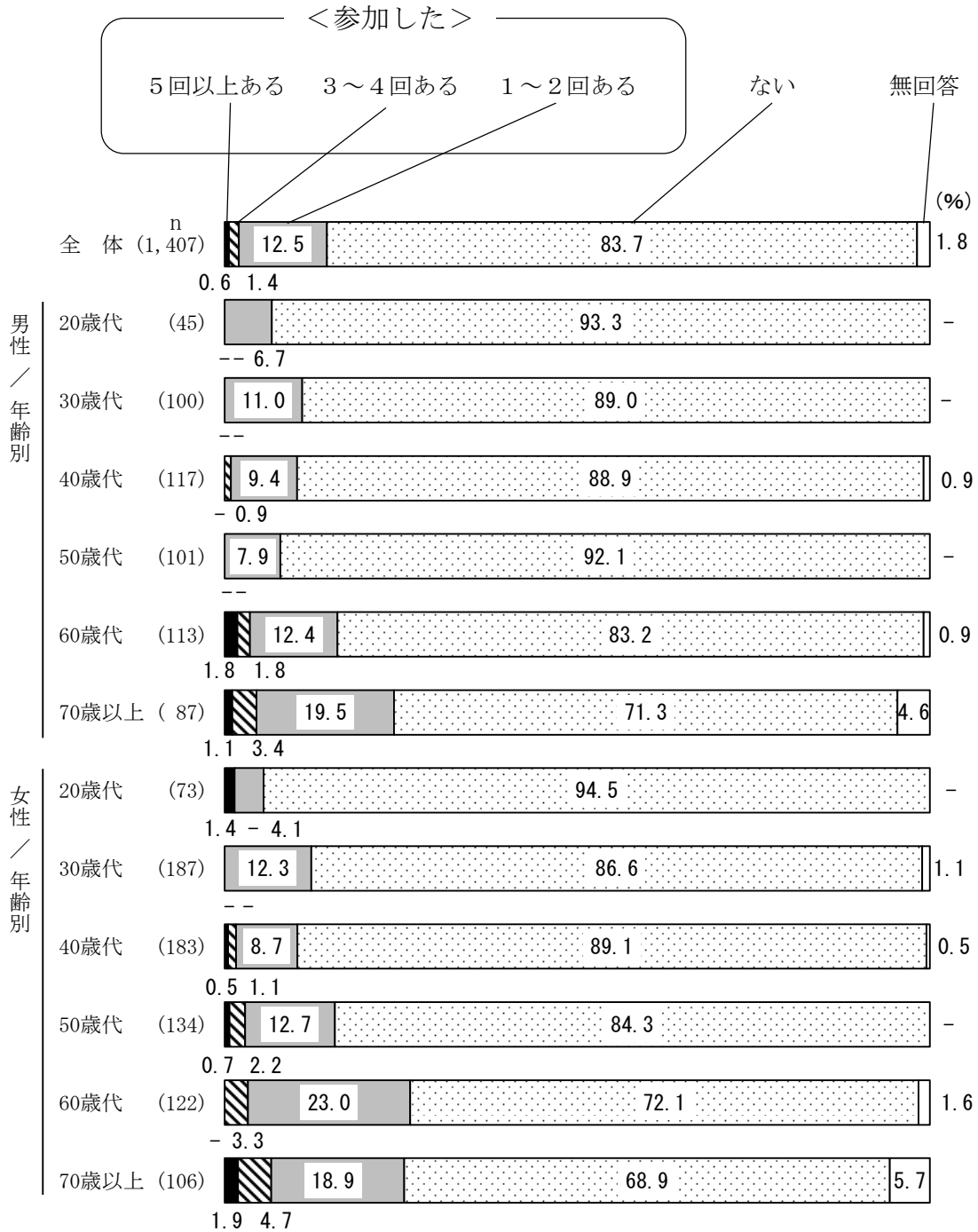
図表４－23　音楽イベントへの参加



この１年間に音楽のイベントに＜参加した＞は、14.5%となっている。（図表４－23）

（第１回アンケート）

図表４－24　音楽イベントへの参加（性／年齢別）



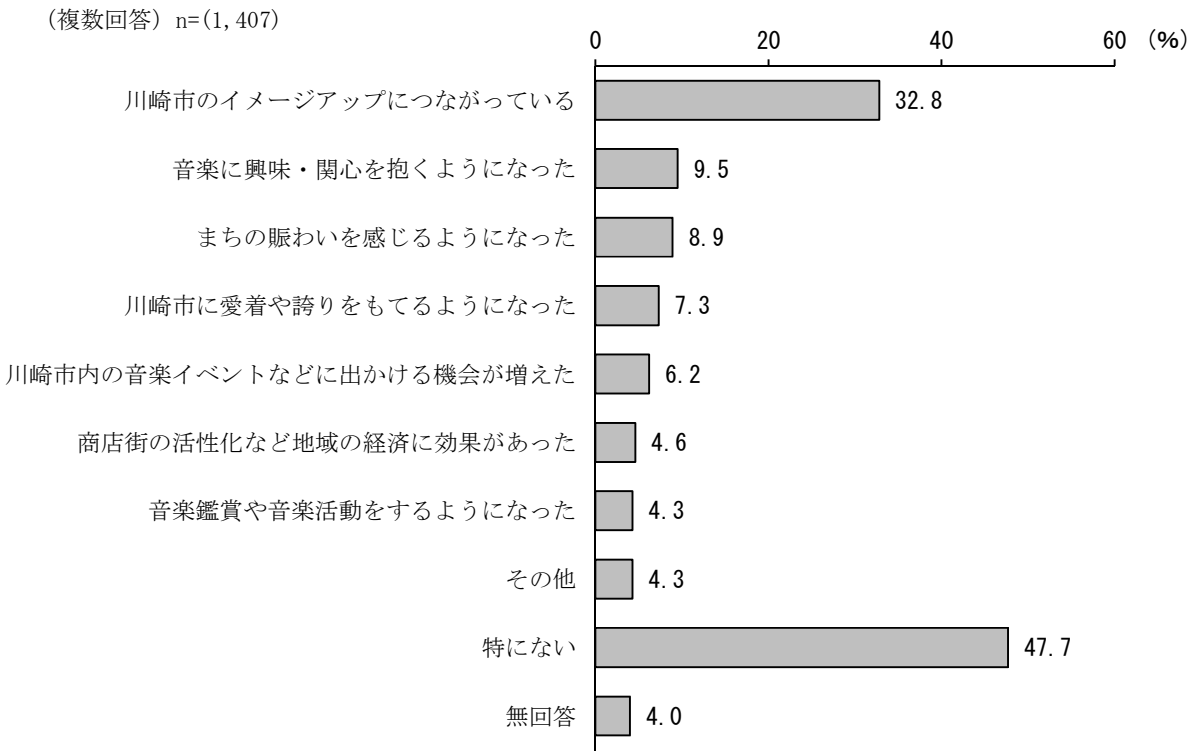
性／年齢別では、音楽イベントに＜参加した＞は、男女ともに 60 歳代、70 歳以上で多くなっている。（図表４－24）

４－13　「音楽のまち・かわさき」の取組への感想

◎「川崎市のイメージアップにつながっている」が 32.8%

問 33　あなたは、「音楽のまち・かわさき」の取組について、どのようなことをお感じになりましたか？（あてはまるもの全てに○）

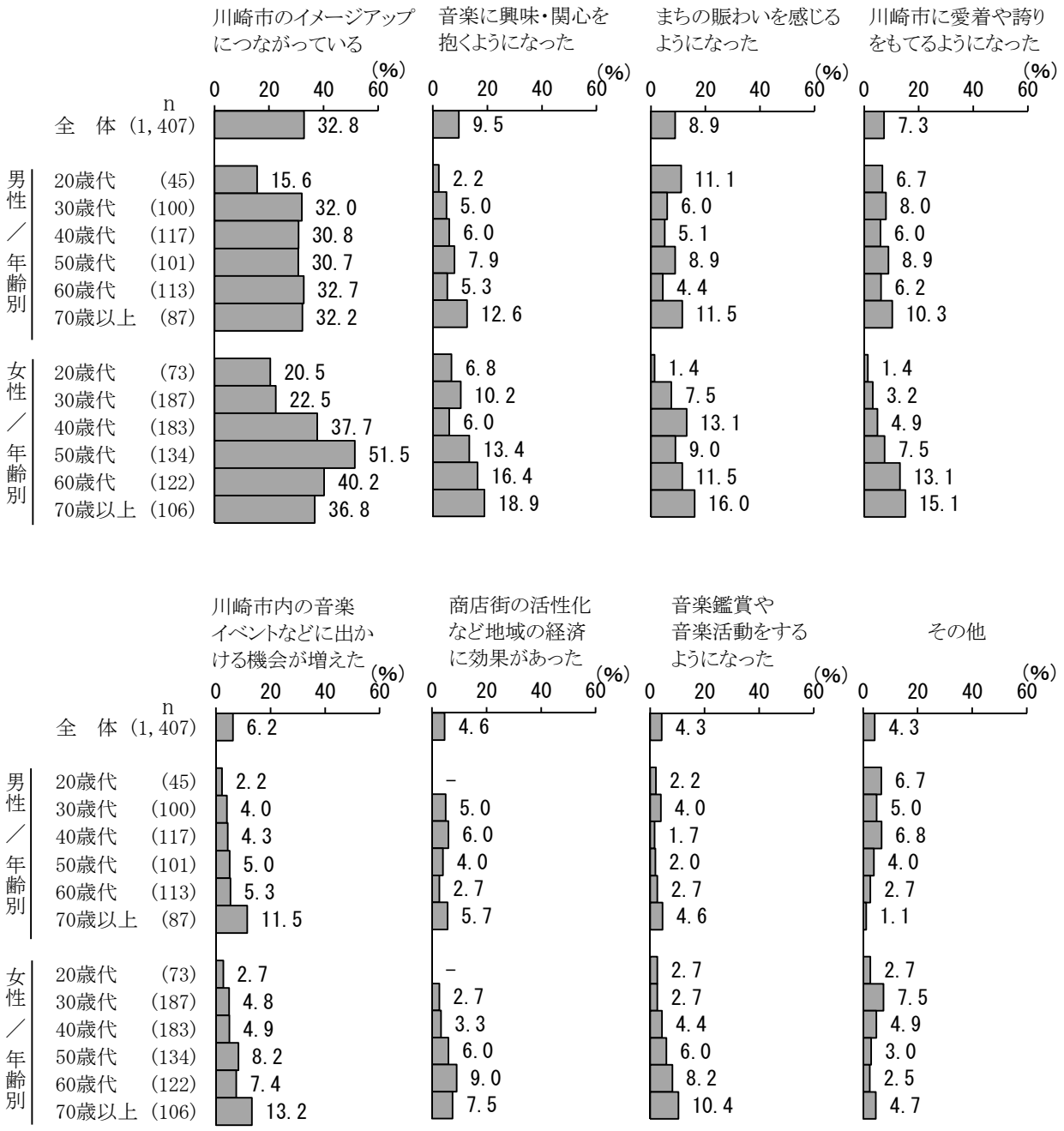
図表４－25　「音楽のまち・かわさき」の取組への感想



「音楽のまち・かわさき」への取組について尋ねた。「川崎市のイメージアップにつながっている」が 32.8%と最も多くなっている。次いで、「音楽に興味・関心を抱くようになった」(9.5%)、「まちの賑わいを感じるようになった」(8.9%) の順となっている。(図表４－25)

（第１回アンケート）

図表４－26　「音楽のまち・かわさき」の取組への感想（性／年齢別）



性／年齢別では、「川崎市のイメージアップにつながっている」では、40 歳代から 70 歳以上の女性が、男性や女性の他の年齢層に比較して多くなっている。

「まちの賑わいを感じるようになった」、「川崎市に愛着や誇りを持てるようになった」、「川崎市内の音楽イベントなどに出かける機会が増えた」で、70 歳以上の男性と 60 歳代と 70 歳以上の女性で、他の年齢層に比較して多くなっている。（図表４－26）

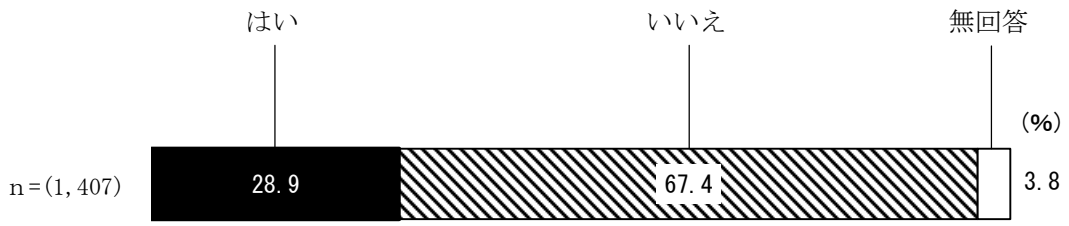
５　生涯学習について

５－１　この１年間での生涯学習の経験

◎生涯学習をしたことがあるかについては「はい」が 28.9%

問 34　あなたは、この１年くらいの間に、生涯学習をしたことがありますか。（○は１つだけ）

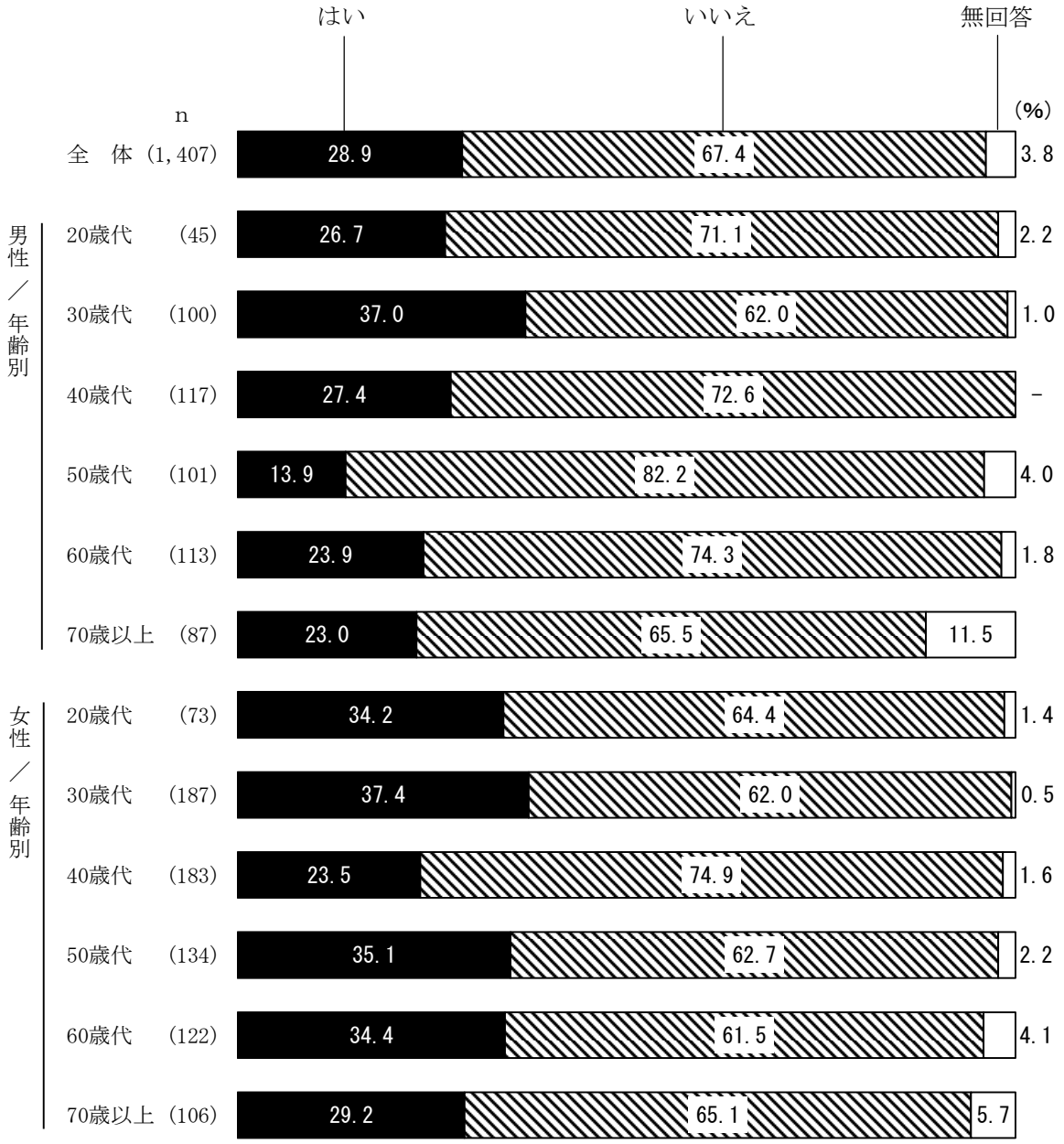
図表５－１　この１年間での生涯学習の経験



この１年間に生涯学習への取組があるかについて尋ねた。「はい」は 28.9%、「いいえ」が 67.4%となっている。（図表５－１）

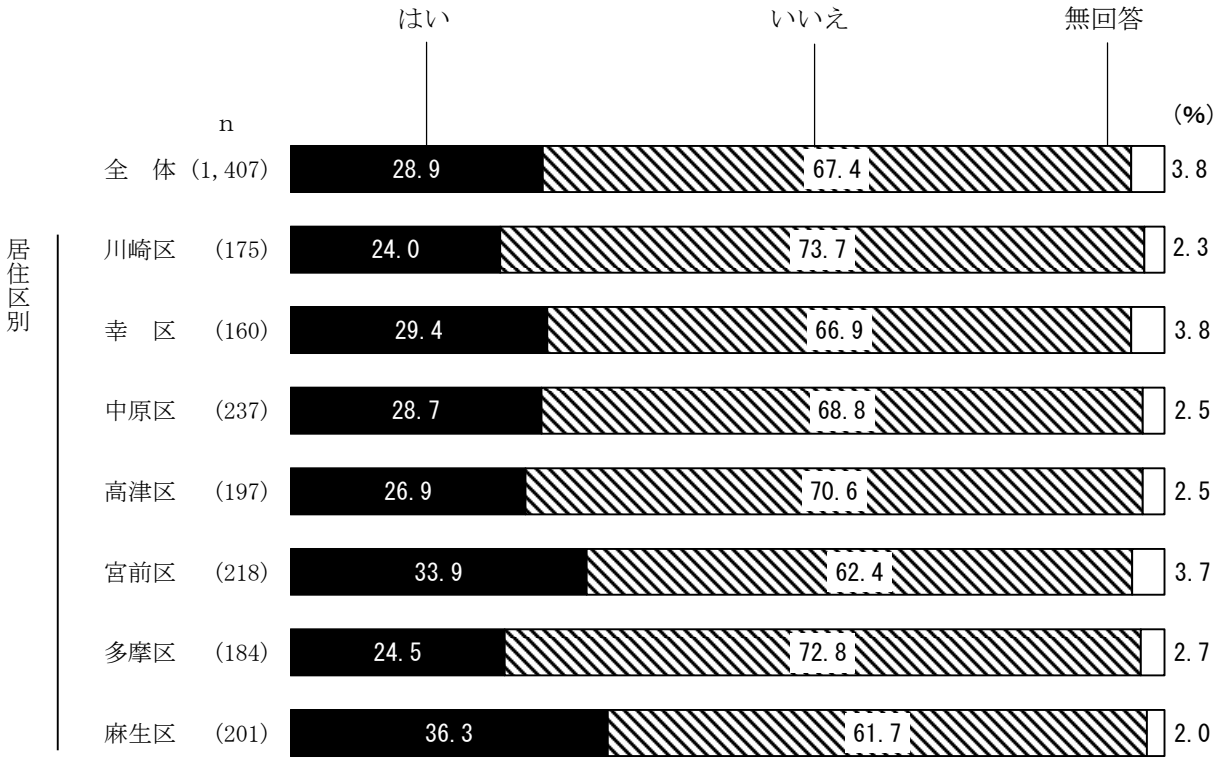
（第１回アンケート）

図表５－２　この１年間での生涯学習の経験（性／年齢別）



性／年齢別では、生涯学習に取り組んだ人は、男性は30歳代(37.0%)、女性は20歳代(34.2%)、30 歳代（37.4%）、50 歳代（35.1%）、60 歳代（34.4%）で３割を超えており、性別、年齢層によって、ばらつきが生じている。（図表５－２）

図表５－３　この１年間での生涯学習の経験（居住区別）



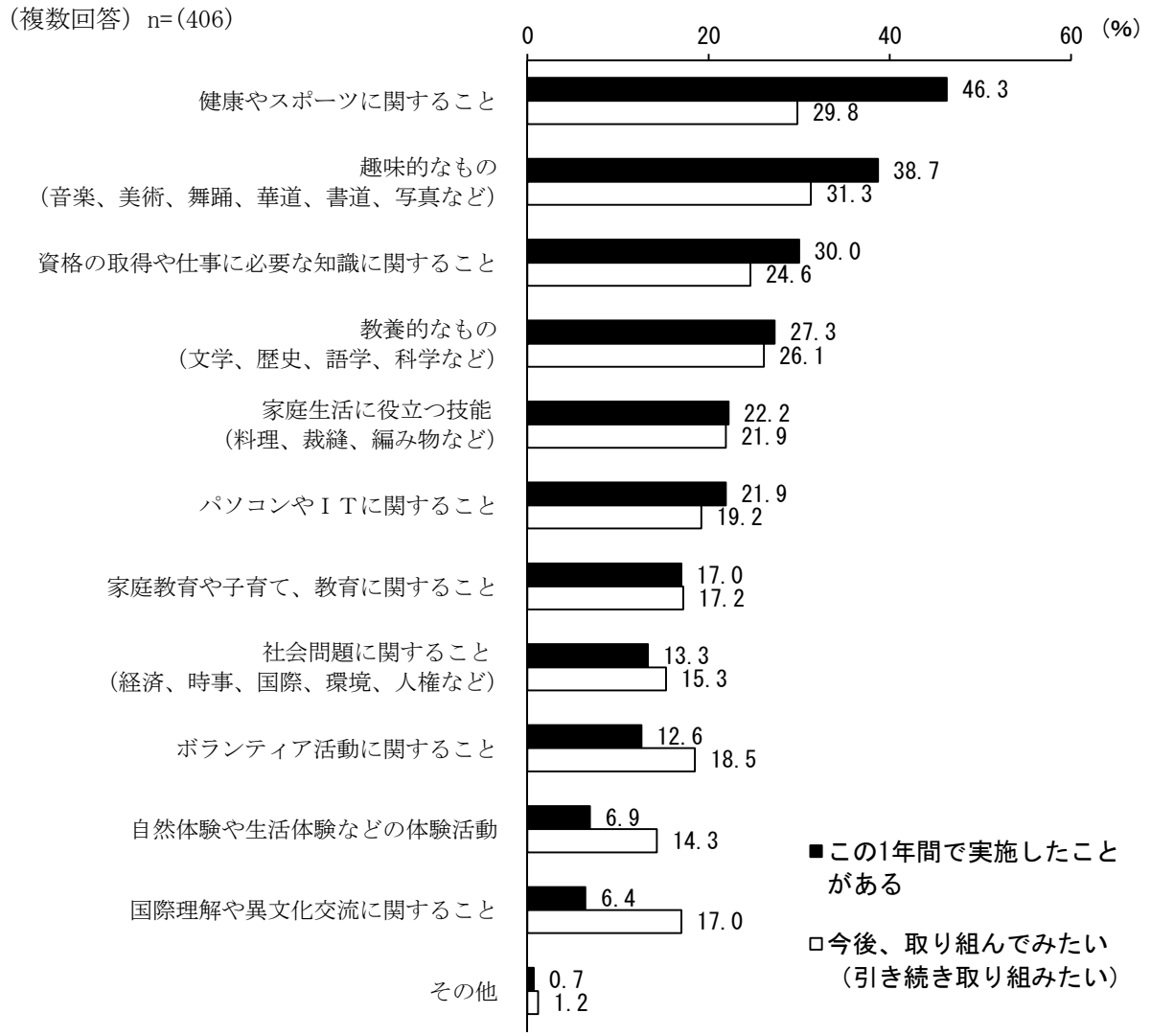
居住区別では、麻生区（36.3%）と宮前区（33.9%）の居住者が、生涯学習に取り組んだ人が多い傾向にある。（図表５－３）

５－２　１年間で取り組んだ生涯学習・今後取り組みたい生涯学習

◎「健康やスポーツに関すること」が 46.3%

問 35　（問 34 で「１　はい」と回答した方にうかがいます。）
あなたは、この１年間でどのような生涯学習活動に取り組みましたか。また、今後取り組んでみたい（あるいは引き続き取り組みたい）生涯学習活動は何ですか。
（あてはまるもの全てに○）

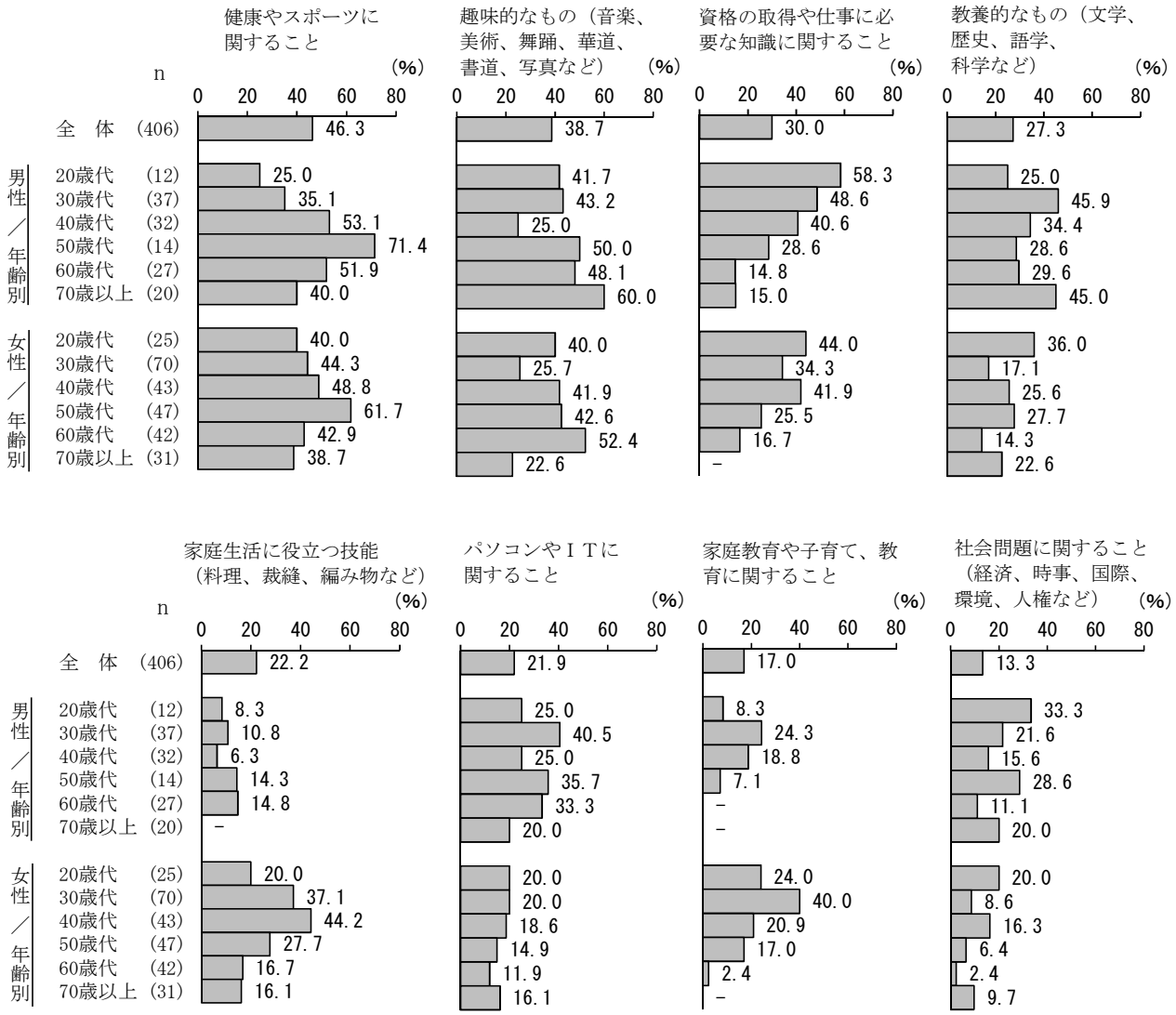
図表５－４　１年間で取り組んだ生涯学習・今後取り組みたい生涯学習



この１年間で取り組んだことがある主な学習内容は、「健康やスポーツに関すること」(46.3%)、「趣味的なもの（音楽、美術、舞踊、華道、書道、写真など)」(38.7%)、「資格の取得や仕事に必要な知識に関すること」(30.0%）となっている。今後、取り組んでみたい（引き続き取り組みたい）内容には、健康やスポーツ、趣味的なもののほか、「教養的なもの（文学、歴史、語学、科学など)」(26.1%）が挙げられている。(図表５－４）

図表５－５　１年間で取り組んだ生涯学習・今後取り組みたい生涯学習（性／年齢別、上位８項目）

【この１ 年間で取り組んだことがある】



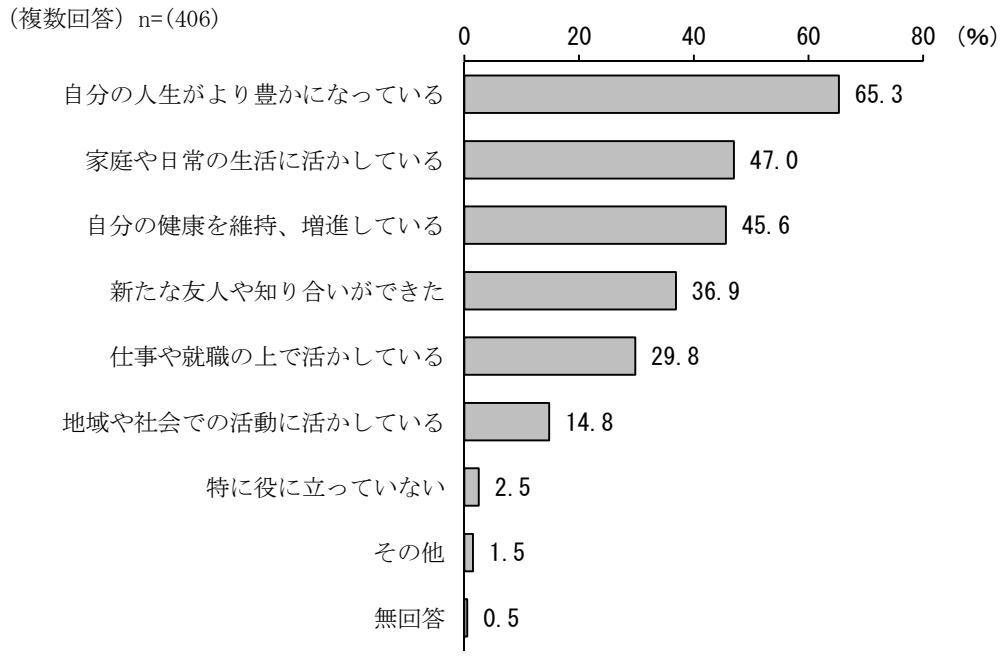
性／年齢別から、【この１年間で取り組んだことがある】をみると、「健康やスポーツに関すること」を 50 歳代の男性（71.4%）が、「趣味的なもの（音楽、美術、舞踊、華道、書道、写真など)」は 70 歳以上の男性（60.0%）で、「資格の取得や仕事に必要な知識に関すること」は 20 歳代の男性（58.3%）が多い傾向にある。一方、女性は、「健康やスポーツに関すること」などの他、「家庭生活に役立つ技能（料理、裁縫、編み物など)」を 30 歳代から 40 歳代にかけて学習テーマに選んでいた。（図表５－５）

５－３　生涯学習の成果

◎「自分の人生がより豊かになっている」が 65.3%

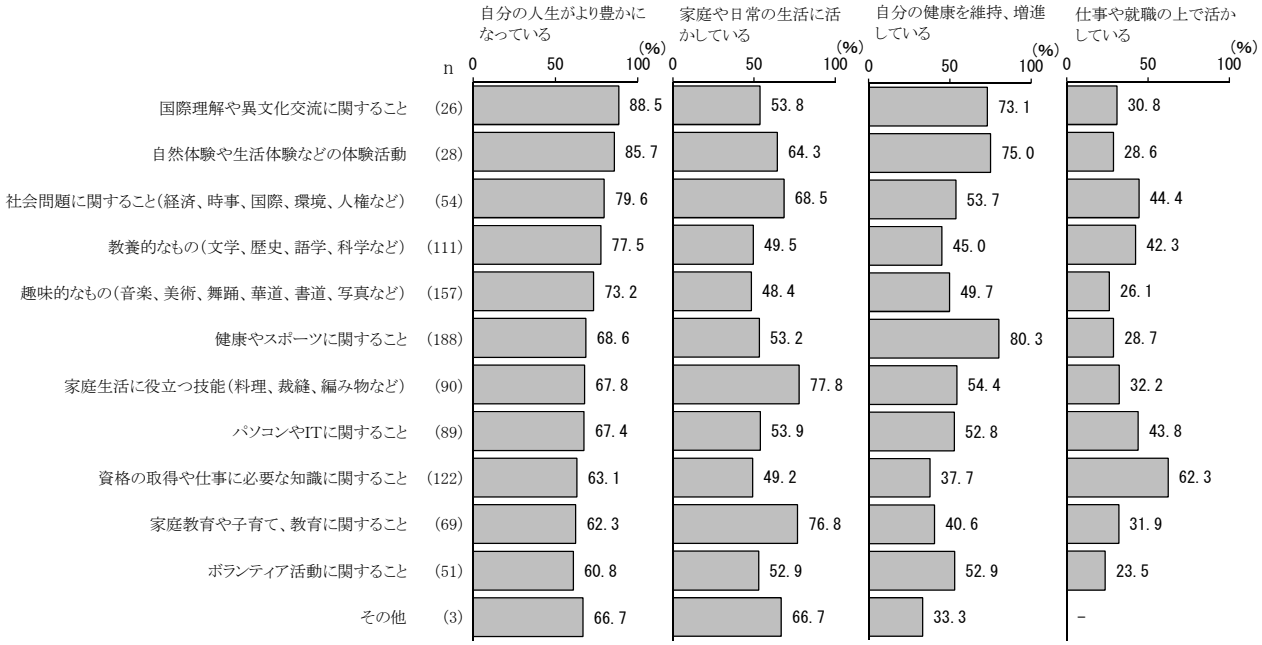
問 35－１　（引き続き、問 34 で「１　はい」と回答した方にうかがいます。）
あなたが生涯学習を通じて身につけた知識や経験は、あなたの生活にどのように活かされていますか。（あてはまるもの全てに○）

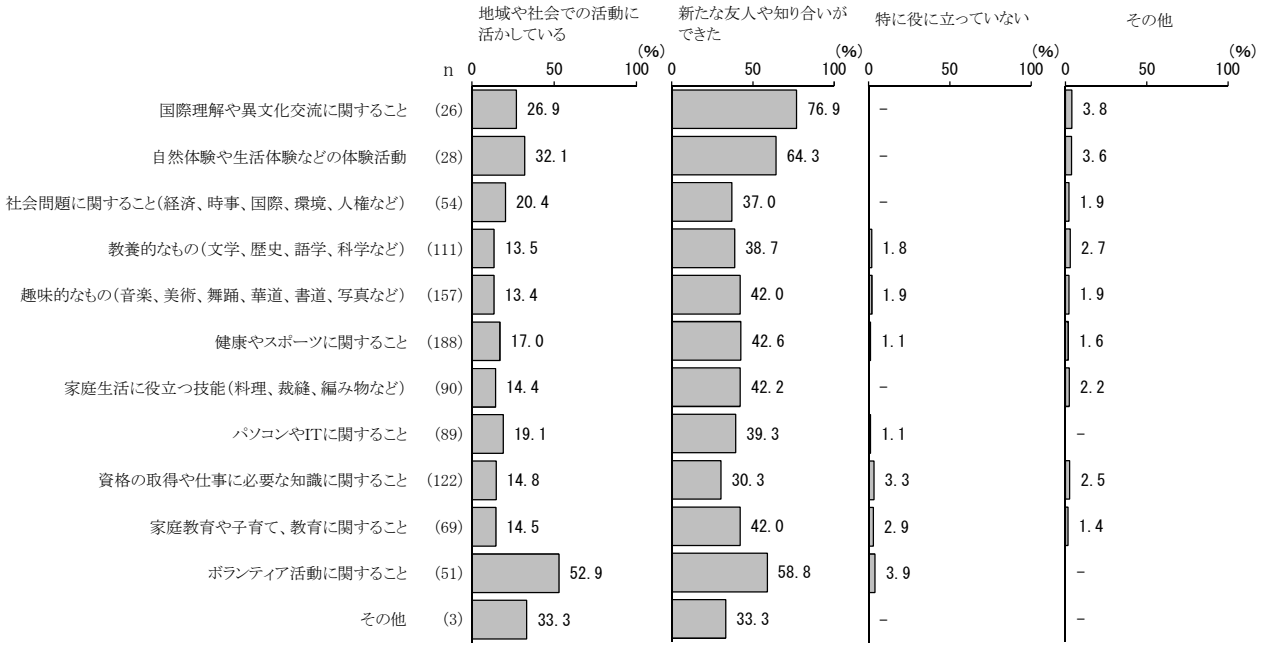
図表５－６　生涯学習の成果



生涯学習を通じて身につけた知識や経験が、日常生活にどのように活かされているのか尋ねた。「自分の人生がより豊かになっている」と 65.3%が回答した。次いで、「家庭や日常の生活に活かしている」(47.0%)、「自分の健康を維持、増進している」(45.6%)、「新たな友人や知り合いができた」(36.9%) の順となっている。(図表５－６)

図表５－７　この１年間で実施した生涯学習とその成果（生涯学習の経験×成果）





生涯学習を通じて身につけた知識や経験が、日常生活にどのように活かされているのか尋ねたところ、おおかたの分野において「自分の人生がより豊かになっている」との回答が最も多かった。

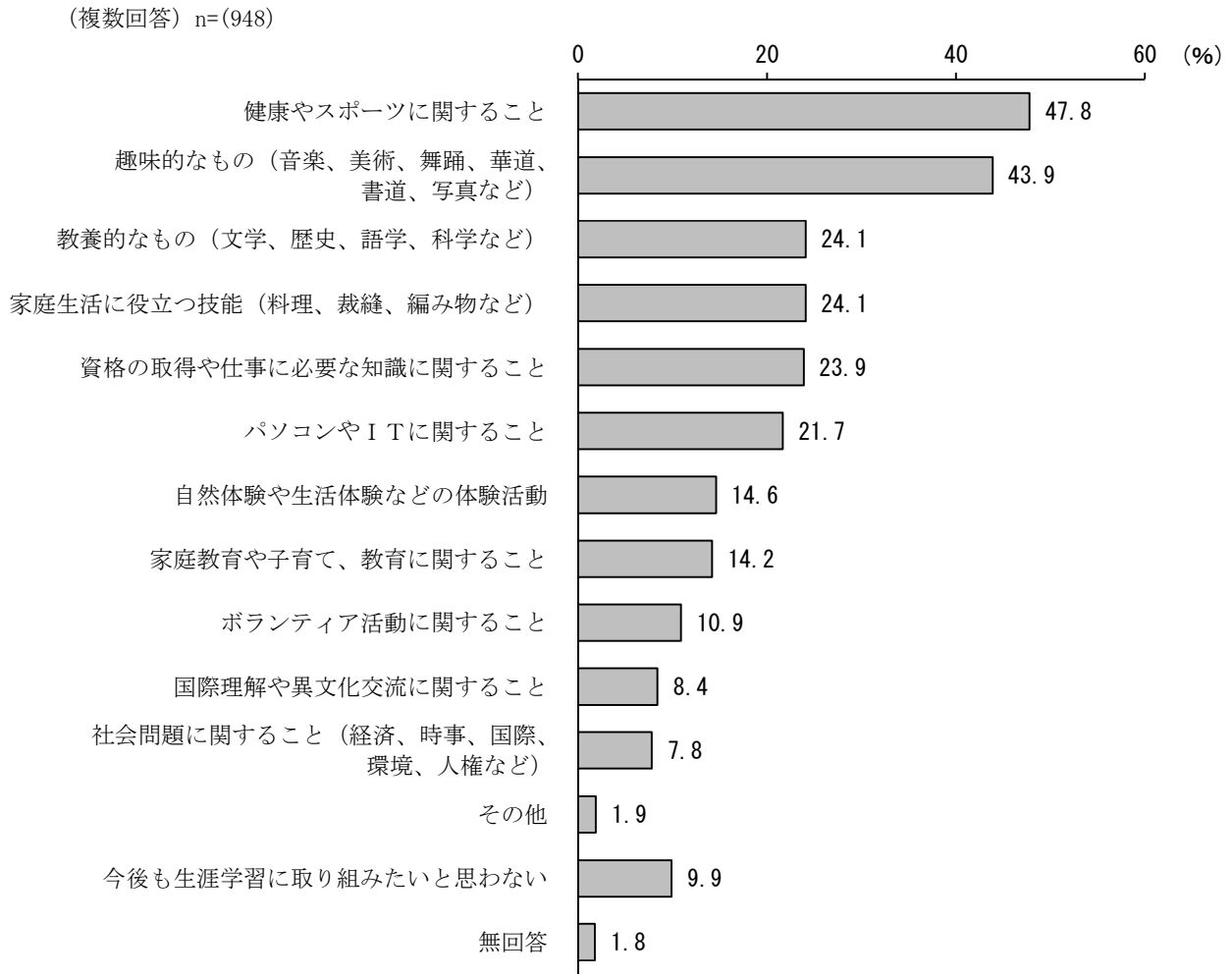
また、「国際理解や異文化交流」、「自然体験や生活体験」、「ボランティア活動」に取り組んだ人は、「地域や社会での活動に活かしている」、「新たな友人や知り合いができた」との回答が多かった。（図表５－７）

５－４　この１年間、生涯学習への取組がなかった人の今後の取組への意向

◎「健康やスポーツに関すること」が 47.8%

問 36　（問 34 で「２　いいえ」と回答した方にうかがいます。）
あなたが今後、取り組んでみたい生涯学習活動は何ですか。（あてはまるもの全てに○）

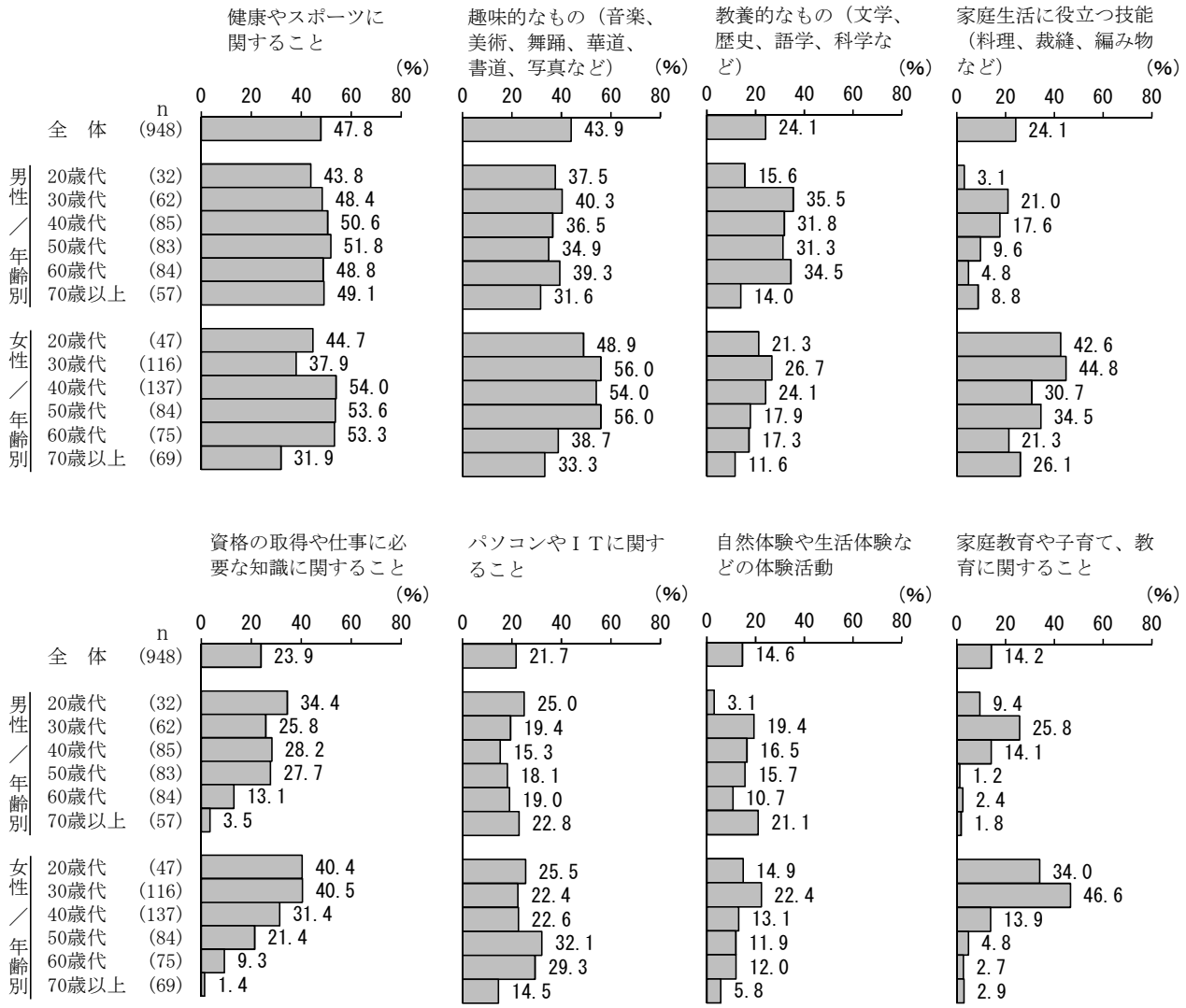
図表５－８　この１年間、生涯学習への取組がなかった人の今後の取組への意向



この１年間、生涯学習への取組がなかった人が、今後、取り組んでみたい学習活動は、「健康やスポーツに関すること」(47.8%)、「趣味的なもの（音楽、美術、舞踊、華道、書道、写真など)」(43.9%)、「教養的なもの（文学、歴史、語学、科学など)」(24.1%)、「家庭生活に役立つ技能（料理、裁縫、編み物など)」(24.1%)、「資格の取得や仕事に必要な知識に関すること」(23.9%)の順となっている。(図表５－８)

図表５－９　この１年間、生涯学習への取組がなかった人の今後の取組への意向

（性／年齢別、上位８項目）



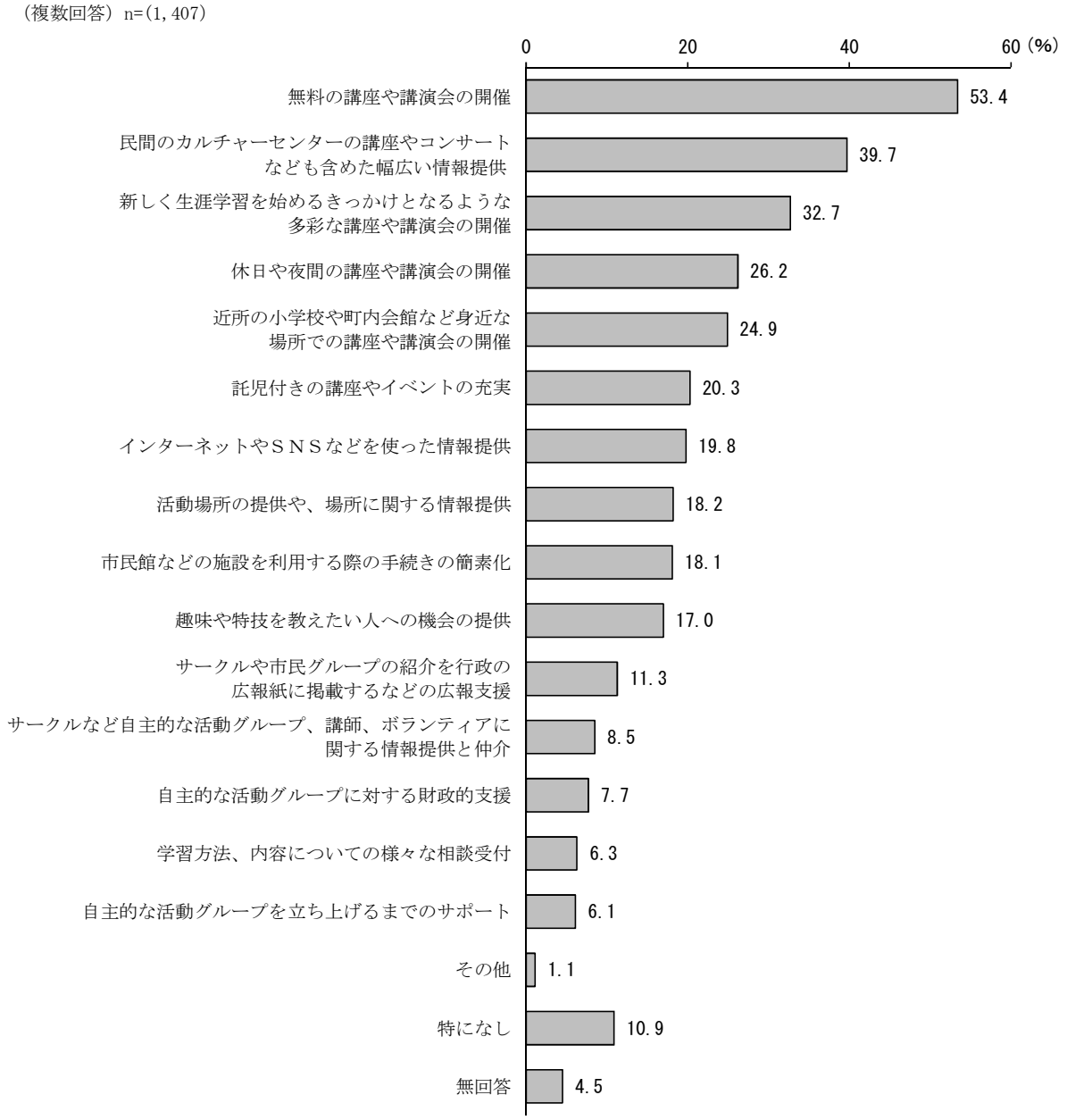
性／年齢別においても、全体と同様の傾向ではあるが、「健康やスポーツに関すること」、「趣味的なもの（音楽、美術、舞踊、華道、書道、写真など）」が、幅広い年齢層の男女において関心があった。（図表５－９）

５－５　市民が生涯学習活動に取り組むために行うべき行政支援

◎「無料の講座や講演会の開催」が 53.4％

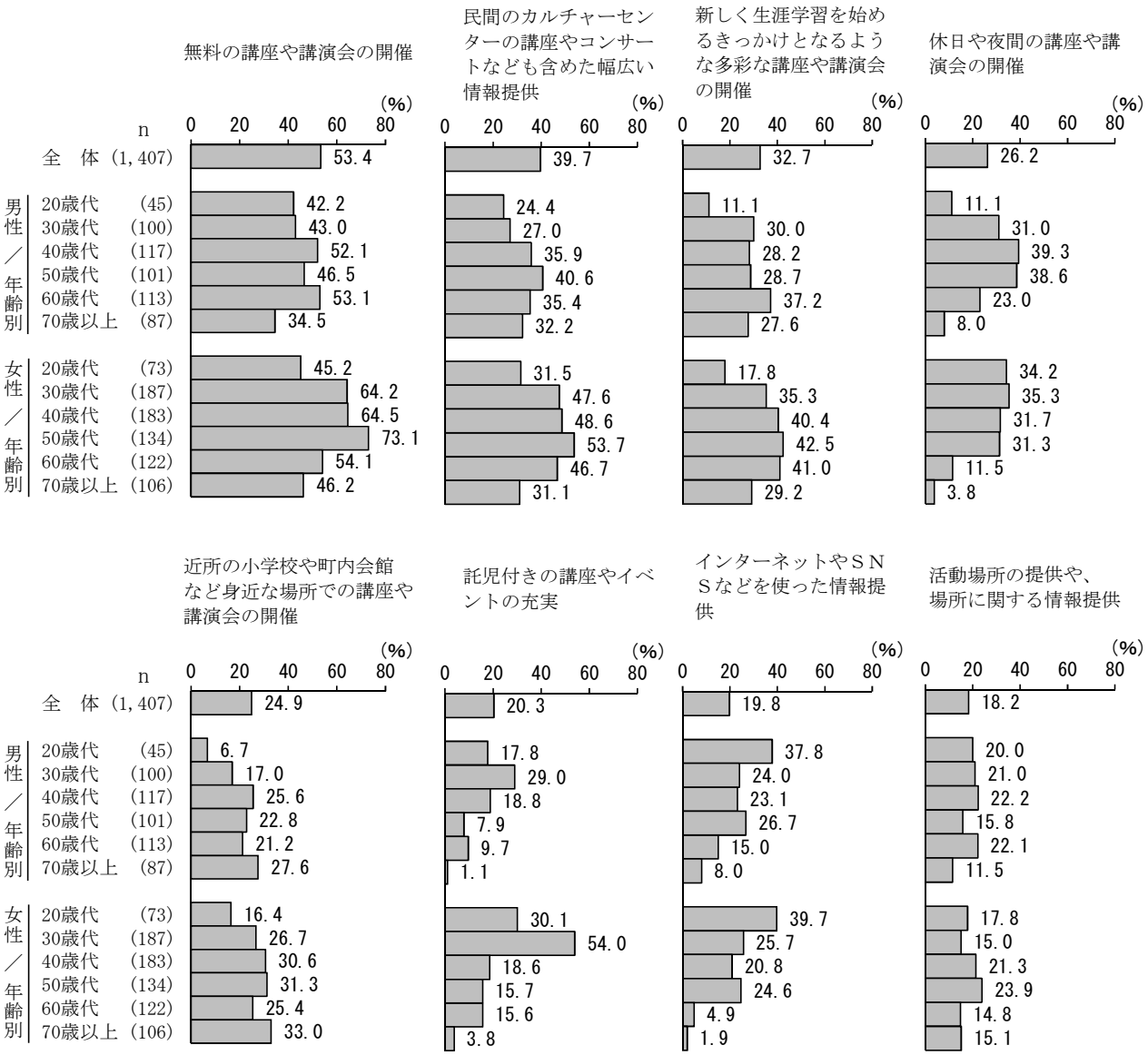
問 37　あなたは、市民が生涯学習活動に取り組むために、行政はどのような支援をするべきだと思いますか。（あてはまるもの全てに○）

図表５－10　市民が生涯学習活動に取り組むために行うべき行政支援



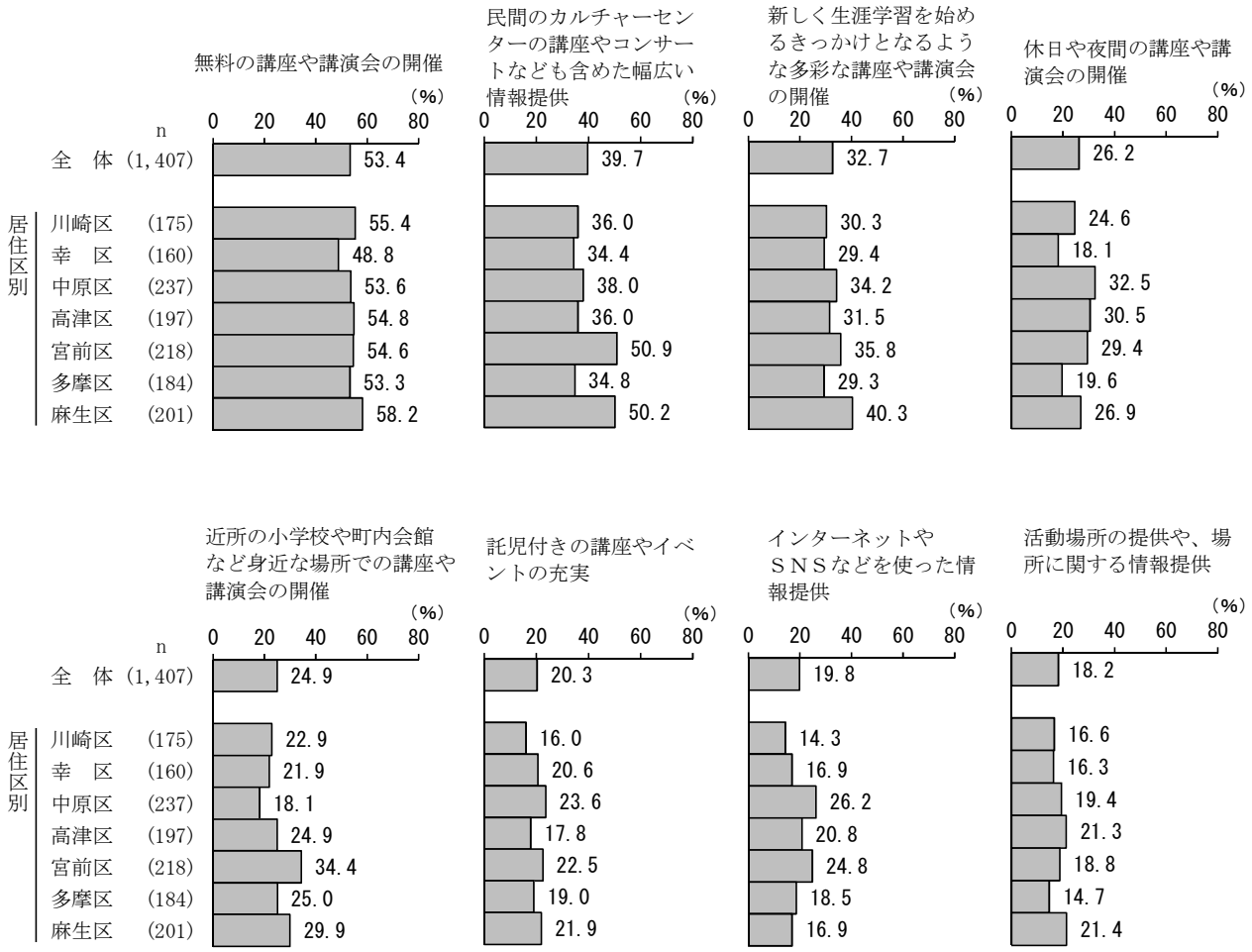
「無料の講座や講演会の開催」が最も多く 53.4％となっている。次いで、「民間のカルチャーセンターの講座やコンサートなども含めた幅広い情報提供」(39.7％)、「新しく生涯学習を始めるきっかけとなるような多彩な講座や講演会の開催」（32.7％）の順である。（図表５－10）

図表５－11　市民が生涯学習活動に取り組むために行うべき行政支援（性／年齢別、上位８項目）



性／年齢別では、「無料の講座や講演会の開催」は、男性では 60 歳代（53.1%）、女性では 50 歳代（73.1%）が多い。「新しく生涯学習を始めるきっかけとなるような多彩な講座や講演会の開催」では、男性は 60 歳代（37.2%）、女性は 50 歳代（42.5%）でニーズが多い。（図表５－11）

図表５－12　市民が生涯学習活動に取り組むために行うべき行政支援（居住区別、上位８項目）



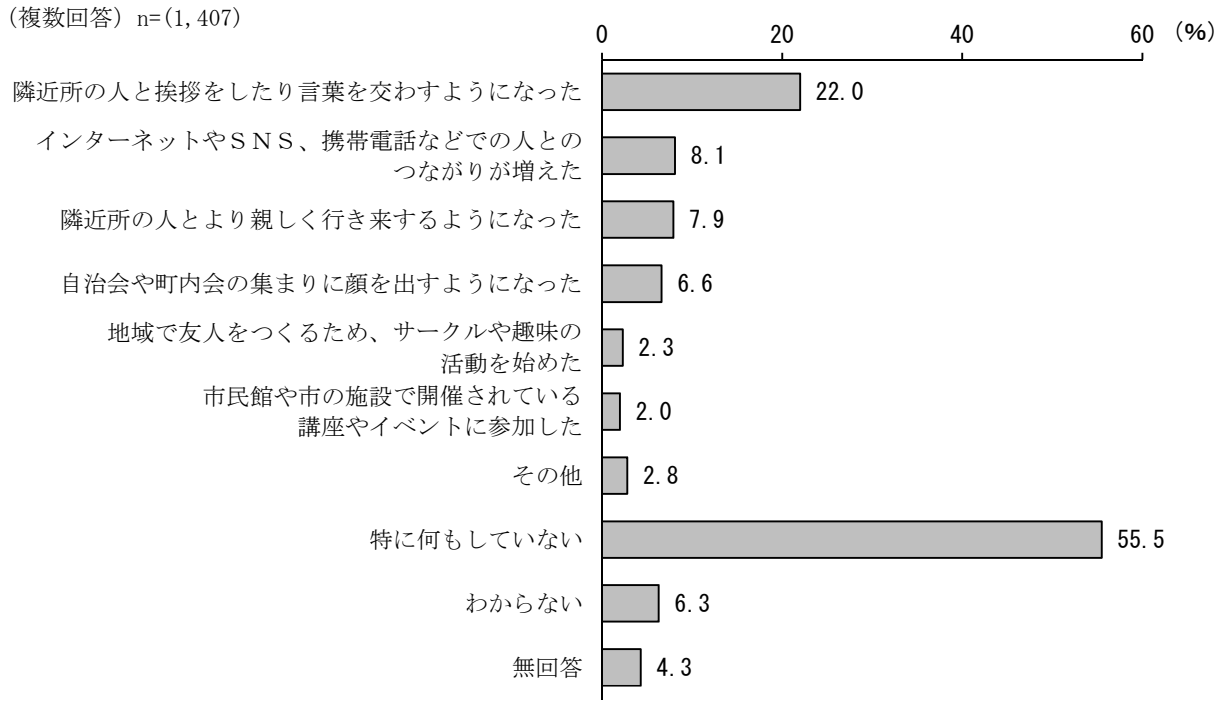
居住区別では、「民間のカルチャーセンターの講座やコンサートなども含めた幅広い情報提供」は宮前区、麻生区で多く、「休日や夜間の講座や講演会の開催」は中原区、高津区が多い。（図表５－12）

５－６　東日本大震災以降の生活の変化

◎「隣近所の人と挨拶をしたり言葉を交わすようになった」が 22.0%

問 38　地域の中でいざという時に助け合える人間関係を築く「地域の絆づくり」ということが話題になっていますが、東日本大震災以降、あなた自身の生活に変化はありましたか。
（あてはまるもの全てに○）

図表５－13　東日本大震災以降の生活の変化



東日本大震災以降、生活に変化はあったかを尋ねた。主なものとして、「隣近所の人と挨拶をしたり言葉を交わすようになった」(22.0%) を挙げる人が多く、次に、「インターネットやＳＮＳ、携帯電話などでの人とのつながりが増えた」(8.1%)、「隣近所の人とより親しく行き来するようになった」(7.9%)、「自治会や町内会の集まりに顔を出すようになった」(6.6%) であった。(図表５－13)

図表５－14　東日本大震災以降の生活の変化（生涯学習の経験×震災以降の生活の変化）

上段:人数、 下段:％

	合計	隣近所の人と挨拶をしたり言葉を交わすようになった	隣近所の人とより親しく行き来するようになった	自治会や町内会の集まりに顔を出すようになった	地域で友人をつくるため、サークルや趣味の活動を始めた	市民館や市の施設で開催されている講座やイベントに参加した	インターネットやSNS、携帯電話などでの人とのつながりが増えた	その他	特に何もしていない	わからない	無回答
合計	1,407	309	111	93	33	28	114	40	781	88	61
	100.0	22.0	7.9	6.6	2.3	2.0	8.1	2.8	55.5	6.3	4.3
生涯学習をした	406	102	43	36	16	15	36	16	197	17	11
	100.0	25.1	10.6	8.9	3.9	3.7	8.9	3.9	48.5	4.2	2.7
生涯学習をしない	948	198	64	52	17	11	74	23	571	69	26
	100.0	20.9	6.8	5.5	1.8	1.2	7.8	2.4	60.2	7.3	2.7
無回答	53	9	4	5	－	2	4	1	13	2	24
	100.0	17.0	7.5	9.4	－	3.8	7.5	1.9	24.5	3.8	45.3

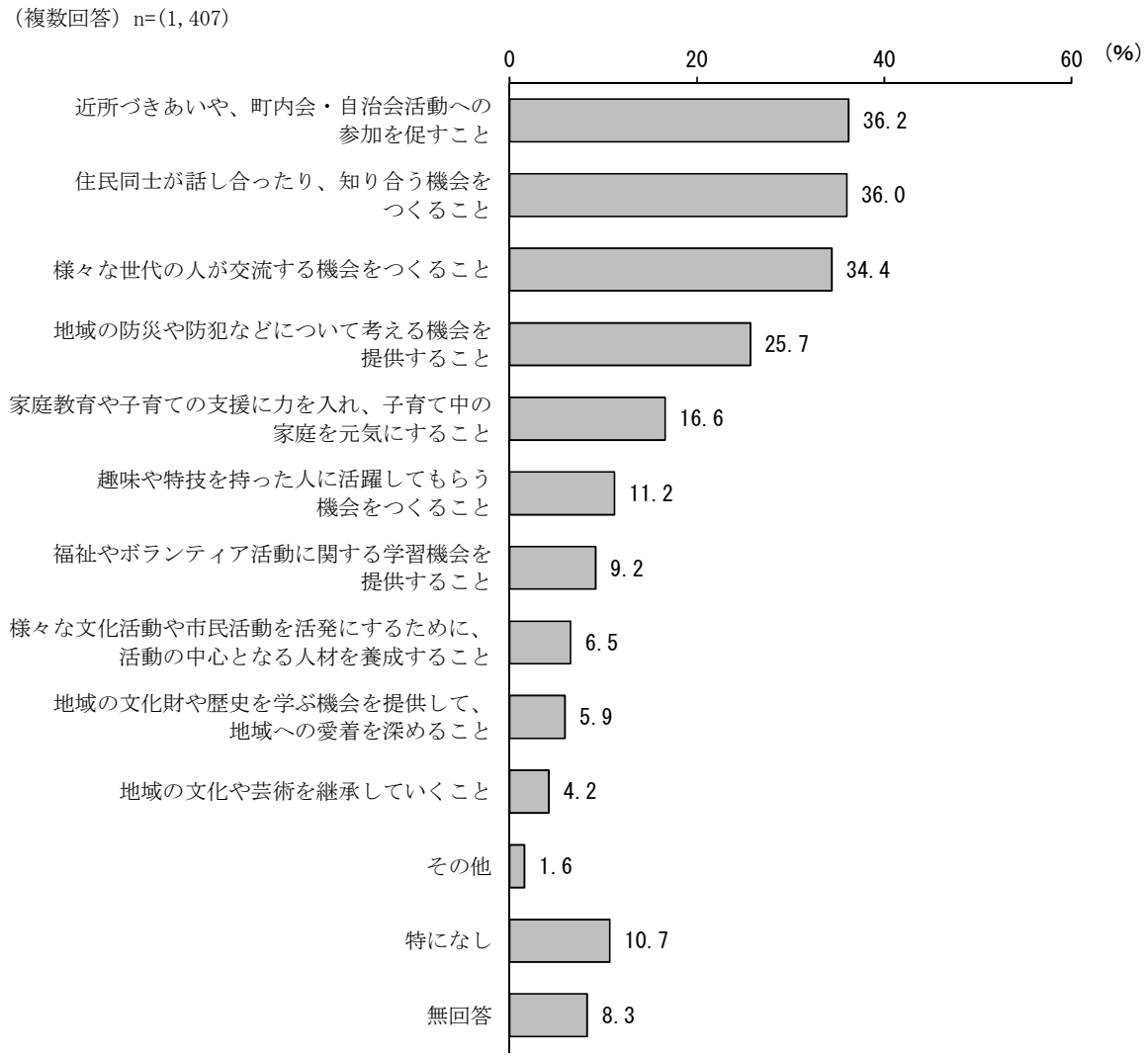
生涯学習の経験の有無（問 34）と震災以降の生活の変化（問 38）からみると、生涯学習の経験者は「隣近所の人と挨拶をしたり言葉を交わすようになった」（25.1％）、「隣近所の人とより親しく行き来するようになった」（10.6％）など、より積極的に人と関わろうとする傾向にある。（図表５－14）

５－７　「地域の絆づくり」に特に必要なこと

◎「近所づきあいや、町内会・自治会活動への参加を促すこと」が 36.2%

問 39　あなたは、地域の絆づくりのために、どのようなことが特に必要だと思いますか。
（あてはまるもの３つまでに○）

図表５－15　「地域の絆づくり」に特に必要なこと



「地域の絆づくり」のために必要なことは、主に「近所づきあいや、町内会・自治会活動への参加を促すこと」(36.2%)、「住民同士が話し合ったり、知り合う機会をつくること」(36.0%)、「様々な世代の人が交流する機会をつくること」(34.4%) を挙げる人が多い。次いで、「地域の防災や防犯などについて考える機会を提供すること」(25.7%) となっている。(図表５－15)

図表５－16　「地域の絆づくり」に特に必要なこと（震災以降の生活の変化×必要なこと）

上段：人数、　下段：％

	合計	近所づきあいや、町内会・自治会活動への参加を促すこと	住民同士が話し合ったり、知り合う機会をつくること	様々な世代の人が交流する機会をつくること	家庭教育や子育ての支援に力を入れ、子育て中の家庭を元気にすること	趣味や特技を持った人に活躍してもらう機会をつくること	福祉やボランティア活動に関する学習機会を提供すること	地域の文化財や歴史を学ぶ機会を提供して、地域への愛着を深めること	地域の防災や防犯などについて考える機会を提供すること	地域の文化や芸術を継承していくこと	様々な文化活動や市民活動を活発にするために、活動の中心となる人材を養成すること	その他	特になし	無回答
合計	1,407	509	507	484	233	157	129	83	361	59	91	23	150	117
	100.0	36.2	36.0	34.4	16.6	11.2	9.2	5.9	25.7	4.2	6.5	1.6	10.7	8.3
隣近所の人と挨拶をしたり言葉を交わすようになった	309	161	151	120	53	36	36	21	95	12	15	2	4	26
	100.0	52.1	48.9	38.8	17.2	11.7	11.7	6.8	30.7	3.9	4.9	0.6	1.3	8.4
隣近所の人とより親しく行き来するようになった	111	64	57	46	19	17	9	9	37	5	7	1	1	5
	100.0	57.7	51.4	41.4	17.1	15.3	8.1	8.1	33.3	4.5	6.3	0.9	0.9	4.5
自治会や町内会の集まりに顔を出すようになった	93	63	37	38	11	9	9	5	30	3	6	1	－	14
	100.0	67.7	39.8	40.9	11.8	9.7	9.7	5.4	32.3	3.2	6.5	1.1	－	15.1
地域で友人をつくるため、サークルや趣味の活動を始めた	33	13	12	12	6	9	2	7	11	2	3	1	－	6
	100.0	39.4	36.4	36.4	18.2	27.3	6.1	21.2	33.3	6.1	9.1	3.0	－	18.2
市民館や市の施設で開催されている講座やイベントに参加した	28	10	7	11	9	5	4	3	10	3	3	1	－	3
	100.0	35.7	25.0	39.3	32.1	17.9	14.3	10.7	35.7	10.7	10.7	3.6	－	10.7
インターネットやＳＮＳ、携帯電話などでの人とのつながりが増えた	114	39	47	47	29	18	10	11	30	11	6	3	5	9
	100.0	34.2	41.2	41.2	25.4	15.8	8.8	9.6	26.3	9.6	5.3	2.6	4.4	7.9
その他	40	19	13	16	6	6	5	1	14	2	3	5	1	4
	100.0	47.5	32.5	40.0	15.0	15.0	12.5	2.5	35.0	5.0	7.5	12.5	2.5	10.0
特に何もしていない	781	243	260	263	130	87	67	44	182	32	51	10	127	29
	100.0	31.1	33.3	33.7	16.6	11.1	8.6	5.6	23.3	4.1	6.5	1.3	16.3	3.7
わからない	88	25	24	27	13	8	7	6	19	2	10	2	24	－
	100.0	28.4	27.3	30.7	14.8	9.1	8.0	6.8	21.6	2.3	11.4	2.3	27.3	－
無回答	61	7	6	3	－	3	1	1	4	1	－	2	－	47
	100.0	11.5	9.8	4.9	－	4.9	1.6	1.6	6.6	1.6	－	3.3	－	77.0

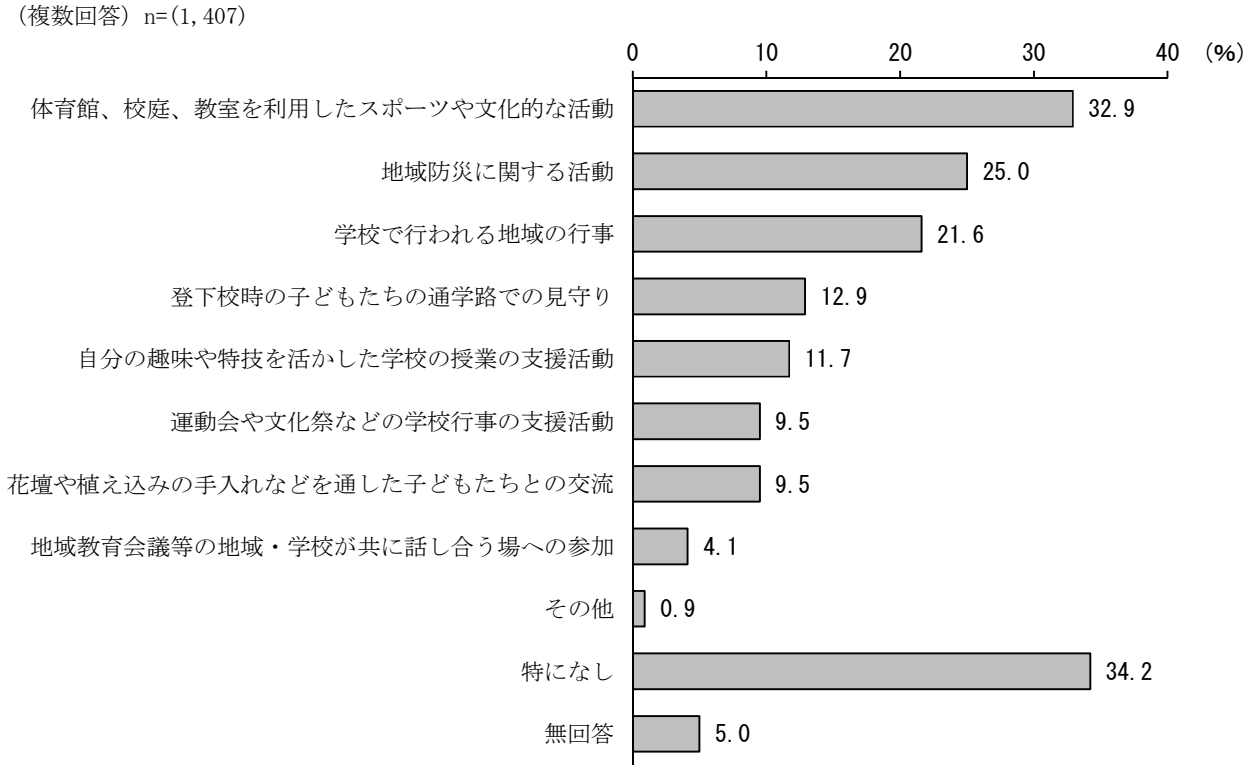
震災以降の生活の変化（問 38）と「地域の絆づくり」に必要なこと（問 39）からみると、震災以降、近所の人や、地域での友人を積極的につくるようになったという回答者の多くが、「近所づきあいや、町内会・自治会活動への参加を促すこと」を挙げている。また、震災以降、「市民館や市の施設で開催されている講座やイベントに参加した」(39.3%)、「インターネットやＳＮＳ、携帯電話などでの人とのつながりが増えた」（41.2%）人は、「様々な世代の人が交流する機会をつくること」を挙げている。（図表５－16）

５－８　学校に関係した活動で、今後参加したいもの

◎「体育館、校庭、教室を利用したスポーツや文化的な活動」が 32.9%

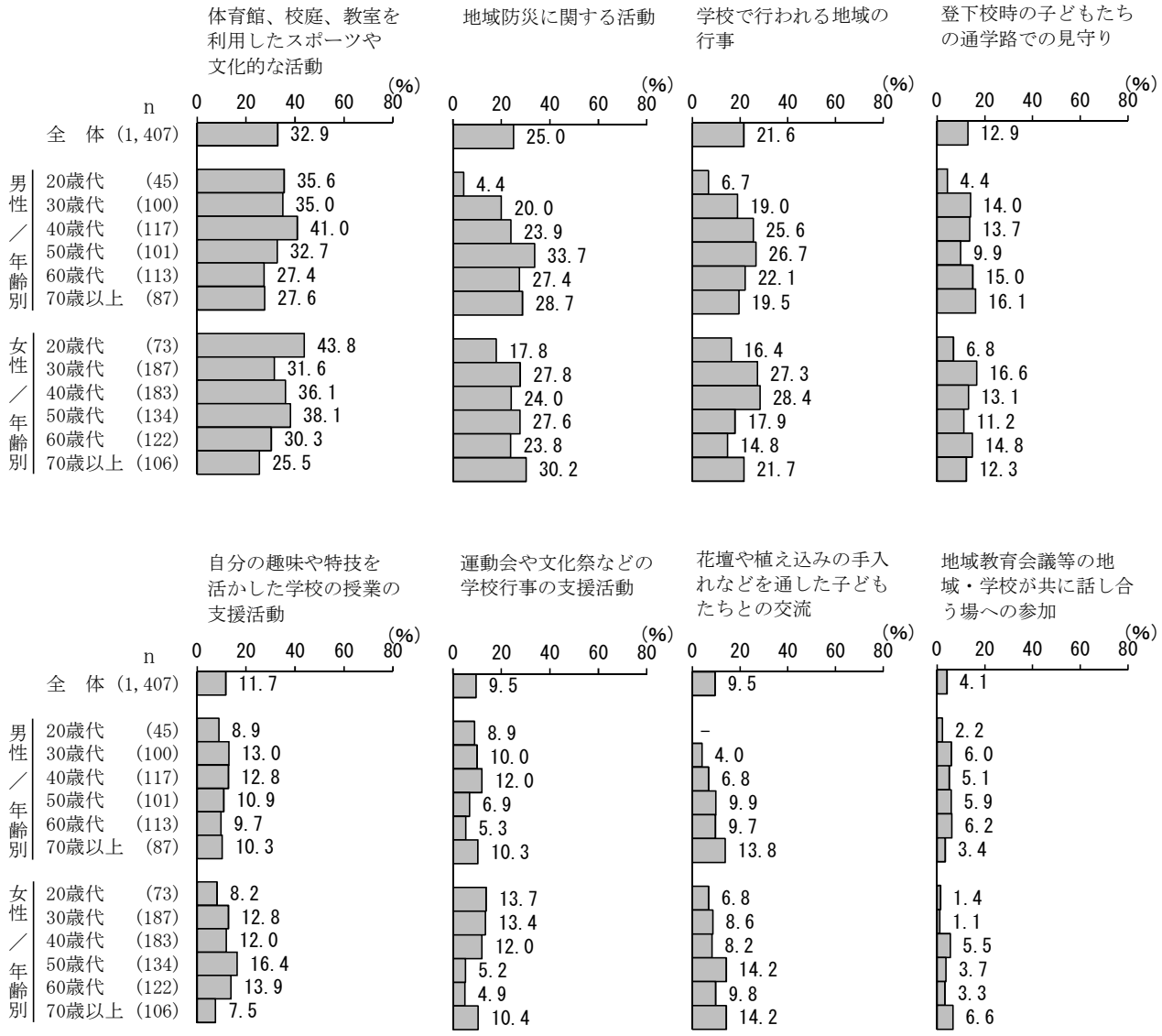
問 40　地域の生涯学習活動の場ともなっている学校においては、地域の皆さんによるスポーツ活動やボランティア活動等が行われています。今後、学校に関係した活動で、あなたが参加したいと思うものは次のうちどれですか。（あてはまるもの全てに○）

図表５－17　学校に関係した活動で、今後参加したいもの



今後、参加したいと思う学校に関係した活動については、「体育館、校庭、教室を利用したスポーツや文化的な活動」（32.9%）が最も多く、次いで、「地域防災に関する活動」（25.0%）、「学校で行われる地域の行事」（21.6%）の順となっている。（図表５－17）

図表５－18　学校に関係した活動で、今後参加したいもの（性／年齢別、上位８項目）



性／年齢別では、「体育館、校庭、教室を利用したスポーツや文化的な活動」は、男性では 40 歳代（41.0%）、女性では 20 歳代（43.8%）が最も多くなっている。「地域防災に関する活動」は、男性では 50 歳代（33.7%）、女性では 70 歳以上（30.2%）が最も多くなっている。（図表５－18）